「2016 年度春季短期研修報告書」の発刊にあたって

グローバル教育センター長
戸谷　陽子

お茶の水女子大学グローバル教育センターでは、2016 年度夏季短期研修派遣プログラムとして、2016 年 8 月から 9 月に、マンチェスター大学・SOAS ロンドン大学（英）、ニューサウスウェールズ大学（豪）、カリフォルニア州立大学リバーサイド校（米）、釜山外国大学校・啓明大学校（韓）、マギル大学（加）、タンペレ大学（ﾌｨﾝﾗﾝﾄﾞ）、ストラスブール大学（仏）の 9 大学に合計 42 名の学生を派遣しました。本報告書は 2 週間から 5 週間の研修に参加した学生の帰国報告をまとめたものです。派遣先は異なりますが、それぞれに慣れない生活様式や気候、異文化体験を新鮮に受けとめて、いっしょうけんめい勉強し、どの学生もたいへん充実した、そしてかけがえのない体験をし、大きく成長して帰国したことが、生き生きと手にとるように伝わってきます。

本学では、平成 16 年より海外短期研修を開始しました。当初は英語語学研修プログラムのみでしたが、現在は、英語以外の言語の語学研修や語学研修にインターンシップを加えたプログラム、派遣大学が開設する正規の専門科目の聴講等、さまざまな選択肢を備えた魅力的なプログラムを提供しています。本学の協定大学付属機関や本学が精査したプログラムで英語ほか外国語の語学研修を受け、協定大学の正規授業の聴講することで、本学の単位（コア科目英語）が 4 単位まで認定されることも、本学主催の短期研修の魅力です。また、インターンシップを選択した学生には「インターンシップ科目」の 1 単位が認定され、学生の人気を集めています。

本学主催の短期研修のもうひとつの魅力は、グローバル教育センターが研修の質を保証できるプログラムを提供していることです。研修の内容を精査したプログラムやその上で本学と協定を結んだ大学のプログラムにのみ学生を派遣するという方針、渡航前オリエンテーションおよび「異文化適応」や「危機管理」に関する事前研修の提供、各種説明会に加え、前年度研修参加者との短期留学相談会を開催するなど、短期研修の効果を最大限に高める機会を提供しています。研修は比較的短期間ですが、事前準備から帰国後の振り返りまで、きめ細かく一貫したサポートをすることで、研修の体験をいっそう充実したものにするお手伝いをしています。

報告書を読むと、海外で実際に生活することで、さまざまな価値観に触れ、また、自身の日本人としての視点を求められることを実感し、確実にグローバルな視点を獲得して成長している参加者の姿が浮かびます。大学生活に留学を組み込むことを考えている学生のみなさんにもぜひ参考にしていただきたいと思います。

本プログラムの企画・運営にたずさわるグローバル教育センターとしても、参加者に充実した体験を提供できたことを実感し、たいへんうれしく思います。短期研修プログラム推進主担当として、説明会や事前研修、個人相談等企画から運営まで尽力されたアソシエイトフェローの松田デレク先生をはじめ、講師の渡辺紀子先生、センター教務補佐長塚尚子さん、同・阿久津典子さんには、このプログラムを支えていただきました。この場を借りて深く御礼申し上げます。

2016 年 12 月吉日

目次

2016 年度 夏季短期研修の概要 1

マンチェスター大学 4

　研修参加者からのアドバイス 25

ニューサウスウェールズ大学 28

　研修参加者からのアドバイス 53

カリフォルニア大学リバーサイド校 57

　研修参加者からのアドバイス 74

ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院 77

　研修参加者からのアドバイス 86

マギル大学 88

　研修参加者からのアドバイス 93

ストラスブール大学 95

　研修参加者からのアドバイス 100

釜山外国語大学 101

　研修参加者からのアドバイス 106

タンペレ大学 108

啓明大学校 108

2016 年度 夏季短期研修の概要

<お茶の水女子大学主催　→　お茶大が航空券・保険などを手配>

University of Manchester（イギリス）

期間：8 月 1 日～9 月 4 日（5 週間）

滞在：学生寮

参加費：約 57 万円　（授業料＋旅行代金＋宿泊料＋保険料など）

　　奨学金最大 19 万円支給

研修内容

①週 15 時間の Core Language Module：英語の 4 つのスキルを向上

②週 5 時間の Target Module：アカデミック英語・IELTS 準備などの講座

③イギリス文化・フィールドトリップ

コア英語 4 単位認定

University of New South Wales（オーストラリア）

期間：8 月 6 日～9 月 6 日（5 週間）

滞在：ホームステイ

参加費：約 50 万円

（授業料＋インターンシップ代＋旅行代金＋ホームステイ代＋保険料など）

　　奨学金最大 19 万円支給

研修内容：①4 週間の英語コース（アカデミック・イングリッシュ）

　　②ホームステイ（食事付き）

コア英語 4 単位認定

University of California, Riverside（アメリカ）

期間：8 月 7 日～8 月 28 日（4 週間）

滞在：ホームステイ

参加費：約 50 万円

（授業料＋インターンシップ代＋旅行代金＋ホームステイ代＋保険料など）

　　奨学金最大 19 万円支給

研修内容：①4 週間の英語コース（アカデミック・イングリッシュ）

　　②ホームステイ（食事付き）

コア英語 4 単位認定

＜協定校など主催→自ら申請、航空券・保険を手配、お茶大が手伝う＞

SOAS University of London（イギリス）

期間：①7 月 11 日～7 月 29 日②8 月 1 日～8 月 19 日
　　③8 月 22 日～9 月 9 日（3 週間）

滞在：学生寮

参加費：約 28 万円（授業料＋宿泊料。旅行代金・保険料は別途）
　　奨学金最大 15 万円支給

研修内容：レベルごとの英語研修 or 専門授業

コア英語 4 単位認定

McGill University（カナダ）

期間：8 月 1 日～8 月 19 日（3 週間）

滞在：大学寮

参加費：約 40 万円（授業料＋宿泊料＋1 日 3 食込み。航空券・保険料は別途）
　　奨学金最大 13 万円支給

研修内容：レベルことの英語研修、文化体験、モントリオールのフィールドトリップなど

コア英語 4 単位認定

University of Strasbourg（フランス）

期間：8 月 10 日～14 日／21 日／28 日（1 週間／2 週間／3 週間コース）

滞在：学生寮

参加費：約 18 万～22 万円（授業料＋宿泊料。航空券・保険料は別途）
　　奨学金最大 13 万円支給

研修内容：フランス語研修、フランス文化など

海外交換留学認定科目 4 単位認定

Busan University of Foreign Studies（韓国）

期間：8 月 7 日～9 月 10 日（5 週間）

滞在：寮とホームステイ

参加費：16 万円（宿泊費・文化体験費、航空券、海外旅行保険、事前研修代を含む）奨学金最大 19 万円支給

研修内容：韓国語研修、韓国文化体験など

海外交換留学認定科目 2 単位認定、インターンシップ 1 単位

University of Tampere（フィンランド）

期間：8 月 8 日～8 月 19 日（2 週間）

滞在：大学寮

参加費：約 7 万円（授業料＋宿泊料。航空券・保険料は別途）

奨学金 8 万円支給

研修内容：フィンランド語研修

Keimyung University（韓国）

期間：8 月 8 日～8 月 26 日（3 週間）

滞在：学生寮

参加費：約 16 万円（授業料＋宿泊料。航空券・保険料は別途）

奨学金 8 万円支給

研修内容：韓国語研修、韓国文化体験。

MANCHESTER
1824

The University of Manchester

マンチェスター大学

派遣人数 10 名

Manchester で学んだこと

文教育学部　言語文化学科　英語圏言語文化コース
３年　岡田理加

今回の、マンチェスター大学での夏季短期研修は、私にとって初めての海外経験であり、大学で学ぶことはもちろん、海外での生活でも大変多くのことを学ぶことができました。マンチェスターという都市だけでなく、もっと広い視点を持つことに役立てることができました。

☆　大学での勉強

異文化交流の様子です

大学での授業は、２種類あり、ひとつは文法を学ぶもの、もうひとつは、フィールドワークを中心とした、英国文化を学ぶものでした。文法を学ぶ授業では、ただ単に文法を学ぶだけではなく、授業内でしっかり英語を使って会話することも重点におかれていました。そのため、たくさん英語で会話する機会があり、間違っていても英語で話すということに抵抗がなくなりました。先生方も、間違って話していれば訂正をきちんとしてくださりました。フィールドワークの授業は、文法を学ぶ授業とは違って、英語のスキルを総合的に使って授業を進めていくものでした。週 3 回の授業でしたが、大学の外に出て、授業内で出された課題の調べものをして、プレゼンテーションにして発表するといった授業でした。この授業では、英語で話すことはもちろん、課題の意味を的確に理解して、自分で少し英語を用いて説明を書いたり、資料を速く読んだりすることが求められていたので、英語のスキルを向上させたい私にとっては、とても有意義な授業でした。さらに、大学がたくさんの交流イベントを企画してくださったので、台湾の友だちがたくさんできました。仲良くなって、日帰り旅行も一緒に楽しむほどの仲になりました。とても楽しかったです。

☆　海外生活について

Whitby の Fish&Chips

私は、食べることが大好きなため、イギリスの食べ物について話をしたいと思います。マンチェスター大学の留学は、大学寮に滞在するため、食事は自分で用意しなければなりません。私は、基本的に、スーパーでサラダやベーコン、ハムなどを買って、1 日の食事としていました。時々、安くステーキ用の肉が売っている時があったので、大学寮のキッチンでステーキにして、ついでに付け合わせの野菜も調理して食べました。一緒に留学に行った仲間たちは、ペティナイフや薄いまな板、レトルトの日本食を持ってきていて、それを持って行くのも便利であると思います。私は、一切日本から食事に関するものは持って行かなかったので、慣れるまで苦労しましたが、1 回食生活に慣れてしまうと、イギリスの食べ物がおいしくて、食事には困りませんでした。イギリスと言えば、有名な料理は Fish&Chips ですが、私はこの料理がとても好きになり、観光に行くごとに昼ご飯をこれにしていました。白身魚のフライとポテトフライだけの料理ではあるのですが、お店ごとに味が全然違っているので、食べ比べをするのがとても楽しかったです。一番おいしかったのは、Whitby という、魔女の宅急便のモデルとなった町のものです。そこは港町であることで、魚の身がとてもふわふわで、新鮮なことがよく伝わってきました。また、Fish&Chips のみならず、English Breakfast という、イギリスの伝統的な朝食も、とても美味しかったです。焼いたベーコンや目玉焼き、マッシュルームや大豆のトマト煮など、朝食にしてはとてもボリューミーだったのですが、満足感があり、とても美味しかったです。イギリスは、「食べ物が美味しくない」ことで有名になってしまっていますが、一度食べると、美味しいものばかりでした。イギリスに留学することを考えている方は、食べ物については心配がいらないくらい美味しいので、いろんなものをたくさん食べて、食べ物についてもいい思い出を作ってほしいです。

マンチェスター大学語学研修を終えて

文教育学部 言語文化学科
３年　栗正実珠瑞

私がこの語学研修プログラムに参加しようと思った理由は、自分の英語力を向上させるためだけではなく、リスクを恐れて慎重になりすぎて、何かに挑戦しようという冒険力がないという自分を変えて自信を身につけ、自分自身の成長を図りたいと思ったからです。

研修内容

授業は文法の授業とターゲットモジュールというイギリス文化を学ぶ授業の2つがありました。それぞれ学力別にクラスを編成するために、初日にテストが行われました。テストは筆記試験とスピーキングの試験の2つを行いました。

月曜日、水曜日の午前と火曜日、木曜日が文法の授業でした。テキストが配られましたが、先生が用意したプリントを使う機会も多かったです。また、文法の授業ということでしたが、スピーキングの練習が主でした。先生に意見を求められることも多く、ペアで会話の練習をすることも多かったです。いつも積極的に英語で発言することが求められました。2回ほど教室を出て、マンチェスター内を探索し、さまざまな場所を訪れることがあり、それがとても楽しかったです。

月曜日、水曜日の午後と金曜日はターゲットモジュールがありました。月曜日と水曜日は教室で授業を受け、毎週金曜日には映画を見たり、博物館などに出かけたりしました。最終週の金曜日には、美術館に行った後、ターゲットモジュールを受けている生徒全員で昼食を一緒に食べに行きました。

放課後・休日

月曜日から木曜日は授業が 15 時半に、金曜日は 13 時で授業が終わるので、放課後は比較的時間があり買い物に行ったり、マンチェスター内を探索したりしていました。休日には友達と一緒にウィットビーやヨークやリバプールなどに行き観光しました。さまざまな観光名所を巡ることができ楽しかったです。

現地での生活

現地では大学の寮に滞在しました。研修先から徒歩で 15 分かからない程度の場所に位置していました。またマンチェスターピカデリー駅まで 5 分とかからない場所にあり、立地はかなり良かったです。各フロアに共同のキッチンがあり、そこでよく友達と談笑し、とても楽しかったです。現地に行くまではイギリスの物価は高いと思っていたのですが、実際買い物に行ってみると日本に比べてマンチェスターの物価は安かったので、食費は全然かかりませんでした。現地ではお金はなるべくお釣りが少なくなるように払ったほうがいいということなど、日本の生活とは異なることが多くあり、刺激的な生活だったと思います。

まとめ

1 度も海外に行ったことがなかったのでイギリスで 5 週間も生活することに対して最初は不安しかなく、早く帰りたいという気持ちでいっぱいでした。しかし、イギリスでの生活に慣れてからはとても楽しい時間を過ごすことができました。この研修を通じて自己の成長を感じ、冒険力を持ってマンチェスターに来て良かったと心から思います。この研修を学業やこれからの進路に役立てていきたいと思います。

マンチェスター大学短期研修を通して

文教育学部　人文科学科
２年　小山千晶

授業内容

ゲートウェイ・プログラムというこの研修では、英語の基礎を学ぶコア・ラングエッジと、実践的な英語のコミュニケーション能力を身につけるためのターゲット・モジュールという２種類の授業がありました。日本人同士でも会話は英語で行い、イギリスの文化というテーマを通して様々なことについて話しあい、文法や単語の意味などを確認します。先生も親切な方が多く、授業の初めにイギリス各地の観光名所を紹介してくださるなど、クラスの雰囲気は和気藹々としていました。はじめ、私はリスニングやスピーキングなどの会話能力がまだそれほど身についていなかったのですが、そういった授業を通して相手が言ったことの要旨を聞き取り理解することと、自分の伝えたい気持ちや感想をひとまとまりの文章で表現できるようになりました。今まで相手も日本人であることに甘え、苦手な部分を日本語で補っていた英語の勉強が、ここに来ることで改善されたと思います。特にターゲット・モジュールでは外国人との交流の機会も多く、日本人とならば伝わるアクセントや言葉選びもその方々には聞き慣れなかったらしく、そういった経験を通して正しい英語を学ぶことができました。

課外活動

イギリスでは週末の金曜日は他の平日より休みに近い扱いになるらしく、このプログラムでも午前中のみの課外授業として、様々なマンチェスターの名所へ出かけました。博物館や第二次世界大戦中に爆撃された建築物の見学、インド料理の店が並ぶ通りで昼食を取るなど、どれも楽しかったです。マンチェスターという一つの都市の歴史について深く学べる授業であり、それについてのプレゼンテーションや街頭インタビューを通して、英語の会話能力を高めるものでもありました。

休日には友達と共にマンチェスター市外へ出かけました。ここの大学には無料もしくは割引で参加できるツアーがあり、最初はそれを利用していましたが、個人的には自分達が計画して行ったリヴァプールやスコットランド、ロンドンの方が印象に残っています。イギリスの電車はあらかじめ切符を予約する制度があり、早めに予約しないと値段が高くなっていきます。そういったことも踏まえて旅行計画を立て、知らない土地や慣れない交通手段で観光をするのはとてもよい経験になりました。知らないことはスタッフに尋ねられるので、英

語の勉強にもなりますし、自分の自由な時間で施設を見学できます。
特に大聖堂や宮殿などの歴史的建築物を訪れるとその土地の歴史を学ぶことができます。各々の博物館の展示物の豊富さからも、イギリスという国がどれほど過去に栄華を極め、世界史的に重要な存在であったかも伺えました。エジプトや中国、インド仏教系の展示物はほとんどの博物館で展示されており、世界中の歴史的遺産がどこにいても見られる、というのは少なくとも日本では考えられないことだと思います。またそういった大抵の施設は入場料がなく寄付制のみであることが多く、そしてその施設が今日まで経営困難にならずに運営できているということに、私たちが持つ「寄付」という感覚の違いを感じました。

寮での生活

ライト・ロビンソン・ホールは大学からも駅からも近く、徒歩１０分くらいで教室に着ける便利な立地でした。基本的に同じ大学から来た生徒は同じ階を割り当てられていたようです。またその階の人達とキッチンやバスルームを共同で使いますが、私含め数人は最初他のお茶女大生とは違う階に滞在していたので、階を降りてキッチンのみ全員で同じものを使っていました。その後部屋を移動してその階に来たのですが、人数が多いとバスルームのシャワー室が三人分なので時間を調整する必要が出てくるなど、共同生活に必要な譲り合いや連携の精神を学べたと思います。他にも調味料や刃物、洗剤などはなるべく共同で買うなど、お互いの助け合いが必要でした。

全体を通して

今回の研修で私の英語の能力は確実に向上したと思います。その理由として普段の授業を通して自分の英語の基礎を見直し、外国人のクラスメートと会話することでより高度な英語能力を身につけたことが第一に挙げられますが、もう一つには私の外国語、ひいては外国に対する意識が改善されたためです。私の語学能力で最も苦手だったのは実践的な会話であり、それはひとえに英語に対する拒絶感にも似た苦手意識があったからです。しかし、授業だけでなく、普段の買い物やイギリス各地を観光で訪れた際に、積極的に現地の人々とコミュニケーションをとることでそれを克服することができました。店内で何かを探す時や人気の商品を尋ねたい時、または街の中で道に迷った時など、英会話は授業の中で行われる時よりも重要な意味を持ちます。聞き逃してはいけない情報がそこには含まれますし、自分の生活に密接に関わる内容だからです。学問として英語を習うのではなく、純粋に意思疎通のために英語を覚えようとしたことが、結果的に英語能力を向上させ、異文化との交流に対する抵抗を取り払ってくれました。イギリスと日本とは文化や価値観の違いも大きく、慣れない体験を多く味わいましたが、英語圏の国で生活をするということは日本で英語の勉強をしただけでは得られないものを得る、とても価値のあることであったと思います。

マンチェスター大学での研修

文教育学部言語文化学科　日本語・日本文学コース
２年　佐藤万葉

学習

マンチェスター大学は広く、その敷地の一角である Oddfellows Hall（同ページ下の写真）で授業を受けた。月曜日から木曜日までは 1.5 時間の授業が３コマ、金曜日は２コマあり、月・水はコア英語×２とターゲットモジュール×１、金曜日は全てターゲットモジュール、火・木は全てコア英語であった。これらのクラスは初日のテストで割り当てられ、様々な国や大学から集まった学生同士で学習を進めた。私はスピーキングが苦手だった為、不格好でも出来るだけ話すことを目標として留学に挑んだ。結果として授業だけでなく町に出ても英語を話す機会は沢山あり、積極的に店員や駅係員などにも話しかけられた様に思われる。大学での学習は全て座学という訳ではなく、PC ルームでパソコンを使って授業を受けたり、実際にマンチェスター市街に出てインタビューする課題が出たりと実践的な英語力を養うことも出来た。ターゲットモジュールでは２度プレゼンを課され、２人で１チームに振り分けられたため、相手とコミュニケーションをとりながら英語でプレゼンを作り上げるという刺激的な体験をした。様々な体験の中で一番印象的だったのは、コア英語での「自分の事について何でも良いので５分ほど語る」という課題である。私は日本文学を専攻しており、担当教員が私のメモの「連歌」に興味を持ったことをきっかけに、急遽連歌について英語で解説をするプレゼンに仕上がった。英語を使い、日本文化をイギリスの方に真剣に伝える体験は実に面白かった。

生活全般

マンチェスターでは大学寮 Wright Robinson Hall で生活をした。途中までは２つのフロアに分けられていたが、最終的には F 階という１つのフロアにお茶大生 10 人が生活するスタイルに落ち着いた。自室の掃除、炊事全般、洗濯などの家事は全て自分で行うが、お茶大の仲間や他大の友人と協力しながら生活出来た。尚、他大とは同じ寮の別フロアに住んでいる日本人学生たちのこと

で、授業で同じクラスだった為友人となった。日本食の交換や菜箸のおすそ分けなど、日本人同士ならではの助け合いだった。この様に他国の友人だけでなく、日本人同士でも新たな出会いがあり面白かった。平日は授業が終わるとマンチェスター市街に出かけ、買い物や観光をした。自炊生活のため、スーパーマーケットには毎日通った。週末は遠出をし、大学のバスツアーでウィットビー、自費でヨーク・ロンドンに出向いた。人によって出かけた場所は様々なので、自分の興味と体力の兼ね合いで旅行先は決められると思う。ロンドンは月末のバンクホリデーを利用して２泊３日の泊りがけだった。バッキンガム宮殿やビッグベン、コッツウォルズなど有名な観光地を訪れ、キャスキッドソンやリバティ、ハロッズなどの有名ブランドの店で買い物できたのは良い思い出である。だが一方でロンドンはマンチェスターよりも治安が悪く、特にビッグベン周辺では気をつけた方が良い。私たちは４人で行動していたが、男性２人に写真に写り込まれて囲まれ、料金を執拗に請求されるという状況に陥った。夜７時という時間帯も関係したとは思うが、ビッグベン周辺で何かしら困ったことがあったという話は他にも聞いたため、十分注意が必要である。勿論これは特異な体験で、楽しい５週間のうち唯一起こった事件のため取り立てて騒ぐ必要は無いと思うが、自分の身は自分で守る心意気は常に持っているべきだと改めて自覚した。

おわりに

一度は大学時代に海外へ留学に行ってみたかったこと、自分の英語力や生活力を上げたかったことがきっかけでマンチェスター留学を決めた。日本語が物理的に使えない世界は自分にとっては未知で、それでも素敵な世界だったように思う。全て自力で生活すること、お金のやり繰りをすることは実家暮らしの私にとっては新鮮であり、楽しくもあった。留学に行かなければ出会えなかった人、留学に行ったからこそ更に仲良くなれたお茶大の友人・先輩、本当に出会いに溢れた５週間だった。大学に入って何か変わりたい、大きな挑戦をしてみたいという思いは大方このマンチェスター留学で叶えられたと思う。このマンチェスター留学を支えてくださった多くの方々に心から感謝するとともに、この経験を今後に生かしていきたいと改めて感じた。

マンチェスター短期研修に参加して

文教育学部人文科学科　グローバル文化学環
２年　堤江里

1. 研修内容

コア・モジュールといわれる文法中心の授業が週に１０コマ、それぞれの興味に合わせて分けられたターゲット・モジュールが週に４コマありました。上の写真はコア・モジュールのクラスで撮ったものです。１コマの長さは１時間半で普段の大学の授業と変わらないので馴染みやすかったです。授業中に美術館や博物館に行くことがしばしばあり、小学生に戻った気分になるような活動もありコア・スキルのクラスも初日にテストを受けて幾つかのクラスに分けられ、自分のレベルに合った授業を受けることができました。担当の先生もテストの結果などを通してこちらのレベルが分かっているため、わかりやすく聞き取りやすい英語で話してくださり、授業中に何をしているのかわからなくなるということもあまりありませんでした。難しかったのが、英語が母国語でない生徒同士で話すときのリスニングとスピーキングです。先述の通り先生は聞き取りやすいように話してくださるのですが、授業中に他国からの留学生と話すときは、それぞれの英語に癖があり、聞き取るのに苦労することが多々ありました。また、こちらから意見などを述べるときにも苦労が多々ありました。日本人同士で英語で話すときには共有している前提があるから通じることが他国からの留学生との会話では通じないため、いかに伝えるかに頭を悩ませました。

2. 滞在先

滞在先は授業を受ける棟から歩いて１０分程度、最寄り駅まで行くのにも１０分かからないというとても便利な場所でした。キッチンの設備も整っており、スーパーの食品を色々試しながら、自炊も楽しめました。食事は予想以上に満足の結果で、日本から日本食をたくさん持っていっていましたが、そこまで必要なかったです。反対に失敗したなと感じたのが、洗濯です。乾燥機にかけてもうまく乾かなくて結局室内干しをするしかないことが多々あったのですが、私は乾燥機を当てにしすぎてハンガーを友人に借りつつ洗濯物の大半を他の寮利用者の人たちと共有の場所で干していました。イギリスは予想以上に乾

燥していたので自分でハンガーを持ってきておいて部屋干しにした方が楽だったかもしれないなと思いました。マンチェスターの人々はみんな親切で、本当に拙い英語でも根気よく付き合って聞いてくれました。人々の親切さと都会加減と田舎加減の程よい中間具合のおかげでとても過ごしやすい街でした。

3. その他

イギリスで生活していて驚いたのが日本の店員さんとイギリスの店員さんの態度の違いでした。両方親切なのですが、イギリスの店員さんはフレンドリーという印象が強かったです。あと、私は駅での会計時にクレジットカードを忘れていってしまったのですが翌日気付いて取りに行ったら、忘れられて１時間たったらこちらで壊してしまうことにしていると言われて、返ってこなかったので、今後行く人にはクレジットカード使用後はちゃんと抜いたかの確認に注意してほしいなと思いました。

4. まとめ

今回の留学で、英語を学ぶ時には英語は多くの人（英語が母国語ではない人も多数）に使われていることに留意しておかなければいけないなと思いました。また自分には足りませんでしたが、留学成功のためには積極性が非常に重要だとせつに感じました。

イギリス・マンチェスター大学短期留学を終えて

文教育学部　人文科
２年　東條さわ子

授業内容

英会話を中心に英語らしい表現や文化を学びました。語学学校では、イギリスに到着した翌日に受けた試験の成績で振り分けられたクラスで、教科書を中心に基本的な文法・表現を学んだり、様々な国の留学生と共にプレゼンをしたりしました。

課外活動

ターゲット・モジュールという授業では、いろいろな語学レベルの学生が合同でイギリス、特にマンチェスターの歴史や文化、建造物などについて学びます。週の前半でそれに関して各自あるいは複数人で調べ物をし、金曜日にプレゼンをして外出したり、出先で現地の方にインタビューをしたりしました。マンチェスター大聖堂、フットボール・ミュージアム、ラウリー美術館、世界大戦博物館、産業科学博物館などマンチェスター市内のほとんどの公共施設を訪れました。授業のない金曜午後と土日は、大学側が提供してくれるマンチェスター及びマンチェスター近郊の観光地に行くツアー（数回分は無料で参加可能）に参加したり、それ以外では一緒に研修に参加しているメンバー数人で計画を立てて幾つかの観光地を訪れたりしました。

・　アイ・カフェ（地元教会主催）
　地元の教会の支援のもと、地域の方と公園でゲームをしたり BBQ をしたりして交流しました。教会が日本の公民館の役割を果たしていることを学んだり、食文化の違いについてお話をしたりと大変有意義な時間を過ごしました。

・　ソーシャルイブニング（大学主催）
　軽食を摂りながら、マンチェスター大学に長期留学で来ている他国（実際、中国・台湾のみ）の学生と数時間お話しました。日本のサブカルチャーの認知度の高さに驚くと共に、私自身は他国の政治観や文化をほとんど理解しておらず、また自国についても自信を持って語ることができていないことに気づかされる良い機会となりました。

・　ウィットビー日帰り旅行（大学主催）
　前日のソーシャル・イブニングで知り合った留学生と共に、日本では『魔女の宅急

便』の舞台として有名となったウィットビーを訪れました。カモメが飛び交う美しい港町はイギリス人にとっても憩いの場となっているらしく、そこで初めて名物フィッシュ&チップスを食べたり、ドラキュラ伝説について知ったりと貴重な経験ができました。

・ ロンドン日帰り旅行（個人）

ロンドンは首都とだけあって交通網が発達し、人も多く、よりグローバルな雰囲気でした。しかし、ロンドン塔で脅しに遭うなど治安は今一つで、事前に危険箇所や危機管理法を知っておくことが必須です。ロンドン滞在中、少し足を伸ばして訪れたコッツウォルズは、鉄道が通らず産業が発達しなかったために中世の様相を残す美しい農村。イギリスは産業革命を世界にもたらした国とだけあって、都市の近代化がめざましい一方、中世から時間が止まったような都市や農村もあるという、固有の文化や歴史を持つ地域の連合体としての国家という印象を持ちました。

<u>イギリスでの生活</u>

大学から徒歩 10 分の大学寮に一人一室与えられ、キッチン、トイレ、風呂は同じ階の人と共同でした。定期的に清掃が入り、最低限の設備が整えられていますが、食器洗い用スポンジや洗剤など細々としたものは買い足す必要がありました。風呂はシャワーだけで、家電に使い方の記載がないなど、日本と勝手が違うことに初めは躊躇しますが、外国で生活する以上、適応能力は必要です。しかし、日本以上に防火装置、セキュリティーはきちんとしており、危機管理体制が整っている印象を持ちました。また、日中は管理人の方がいらっしゃるので、わからないことは親切に教えていただけました。普段の食事は自炊で、近所の一般的なスーパーで食材を購入しました。昼食はお弁当を持参しましたが、大学近くの芝生の公園で、屋台で買ったチップス（日本でいうポテト）を食べながら日光浴することもありました。実際、イギリス人のランチはそのようなテイクアウトが主流で、外食の頻度も多目で食文化の違いを感じました。

今回のプログラムに参加して、自分を含め日本人は文法にとらわれすぎで会話が苦手だと思いました。他国の学生や現地の方の英語は想像以上にラフで、間違いを気にせずとにかく喋ってみる努力が必要だと感じました。一ヶ月は非常に短いですが、長期留学の概要をつかみ、自分に何が足りないかを明確に知る良いきっかけとなりました。

マンチェスター大学研修　報告書

文教育学部　人文科学科
１年　道本千尋

8 月 1 日から 9 月 3 日までの５週間、マンチェスター大学での短期語学研修に参加した内容を以下に報告する。

研修内容

初日のプレースメントテスト(文法の問題と簡単な面接)をもとにクラス分けされ、一回 1.5 時間の授業を週 14 コマ受講した。月曜から木曜までは 9:30〜15:30、金曜は 13:00 までであった。そのうち 10 コマは教科書を用いて文法事項を中心に、4 コマは英国文化やマンチェスターの歴史を学習するものであった。前者は特にスピーキングを強化する内容で、適宜メインティーチャーとの個別面談もあり、苦手な部分に対するアドバイスをいただいた。ライティングの添削やプレゼンテーションを用いた発表の機会もあり、多方面で力を伸ばすことができた。私のクラスは当初日本人４人だけだったが、3 週目あたりからサウジアラビア人が多くいるクラスと合同になり、国際交流の機会も得られた。後者の授業では、映画・スポーツ・産業・芸術など様々なテーマの中で、クイズやプレゼンテーションで知識を深め、毎週末には実際に街に繰り出しインタビューを行うなど、より生きた英語を学習できた。こちらのクラスには日本人の他に、中国人、韓国人、スイス人がいたが、研修中幾度か入れ替わりがあり最終的には日本人のみだった。

サウジアラビア人と合同のコアクラス

滞在先

昨年までと異なり、Wright Robinson Hall という大学から徒歩 15 分ほどの大学寮に滞在した。すぐ近くにはスーパーや本屋、薬局などを併設する比較的大きな駅もあり、立地として素晴らしい所だった。キッチン、シャワー、トイレは共同だったが、個室には勉強机や小さな洗面台があり、個人の時間も十分に確保できた。キッチンには包丁や洗剤やまな板がないため、買い揃える必要があった。寮内にランドリーがあったが課金制だったため、友人４人と曜日を合わせて週に１度洗濯機を回し、小さなものは部屋の洗面台で洗っていた。1 日の流れとしては、毎朝 7:30 頃起床し、9:00 に寮前に集合し研修メンバーが全員集まると大学へ向かった。昼食は基本的に朝作ったサンドイッチをタッパーに詰めていったが、天気の良い日は昼休みに近くの公園に来ている屋台でお弁当を買うなどして楽しんだ。授業後はほぼ毎日街へ繰り出し、駅のスーパーで夕食などを買って寮へ帰った。夜は友人の部屋に

集合し課題をこなしたり、談笑や週末の旅行の計画を立てたり楽しい時間を過ごした。

週末などの生活

基本授業以外で英語を使う機会がないため、放課後や週末は積極的に外に出かけ、現地の人々と話すように心がけた。Icafe という団体が主催する国際交流を目的としたバーベキュー大会に参加したり、メインティーチャーが教えてくれたオススメのレストラン、ショップ、図書館などを訪れたりした。マンチェスターには博物館や美術館、大聖堂などの文化的施設も多いので、何日もかけてやっと見てまわれるほどであった。大学が実施する 1day トリップでウィットビーを訪れたが、あっという間に枠が埋まってしまうため注意が必要だ。他にヨークとロンドンには自分たちで電車を手配して向かった。特にロンドンへは 8 月末のバンクホリデーを利用して２泊３日かけて訪れた。事前に電車の座席指定やホテルの予約、コッツウォルズのツアーとバッキンガム宮殿内部見学の申し込みをするなど、英語の手続きが多く戸惑う部分も多かったが、それだけ英語を活用する機会が得られてとても良い経験ができた。だがビッグベン前で悪質なパフォーマーに絡まれお金をせがまれたこともあり、改めて危機管理意識は片時も抜いてはいけないことを悔いる経験もした。

所感

私はもとより英語が得意ではなく特にスピーキングに苦手意識があった。英語を使わざるをえない環境に身を置くことで、英語を使うことへの抵抗を無くせたらという思い、当研修に参加した。メインティーチャーはしきりに「間違いを恐れずに思ったことを大声で shout しなさい」と言ってくださり、おかげで数日後には英語で発言することへの恐怖心が薄れ、次第に自分の考えを可能な限りはやく英語で表現したり、根気強く表現を変えて意思疎通を取ろうとする姿勢も身につけることができた。また、異文化の人とコミュニケーションをとる中で、今まで私が心の奥底で特定の人たちに抱いていた固定観念を一掃されることも多々あり、今までの自分を恥ずかしく思うと同時に、こうした国を介さない個々の交流が、偏見を生まない互いの正しい理解につながるのだろうと感じられた。１か月は留学と言って良いのかわからないほど短く、過ごし方次第でその成果は大きく変わるだろう。私の場合、確かな向上心を持って研修に臨めたこと、さらに意識の高い友人と熱心な先生方と共に過ごせたこと、マンチェスターの温かい人柄の人たちに多く出会えたことなど、たくさんの幸運に囲まれたおかげで私が求めていた以上に多くの、確かな成果を持って研修を終えられたと実感している。研修を通してお世話になった全ての関係者のみなさまに心から感謝致します。

大好きなメインティーチャー、最後の日

マンチェスター大学での研修を終えて

人間発達科学専攻　応用社会コース
１年　姚碧華

1.研修に参加した動機

今回の研修に参加した動機は、視野を広げることと語学力を向上することです。私は日本で生活している中国人ですが、毎日日本語を話す一方で英語を使うチャンスが少なくなり、次第に自分の英語能力が弱くなっていくことに気づきました。そして、英語で話すことへの抵抗感を少しでも軽減したいのが、いまの私にとって一番の目標であっただろうと思います。

2.研修内容について

マンチェスター大学での夏季研修はゲートウェイ・プログラムというプログラムでした。毎週の 15 時間の Core Language Module と 6 時間の Target Module の授業がありました。金曜日の授業はマンチェスター内のどこかへお出掛けました。

研修前にクラス分けの英語力テストがありました。私のクラスには私以外の 7 人が全員日本人でした。ほかのクラスには韓国人、サウジアラビア人、中国人もいたような気がしました。Core の授業では、テキストを勉強しながら、パートナーと意見を述べ合い、会話することが中心でした。テキストの内容も面白く、たくさんの単語や文法を覚えることができました。Target Module の授業では、イギリスの映画、美術館、建築、博物館などの紹介が中心で、イギリスの文化に関する議題を取り上げてディスカッションやプレゼンテーションを行いました。

3.イギリスでの生活について

円高のおかげで、イギリスの物価は日本よりも低く、スーパーで安い食材を買うことができました。特に野菜類はとても安かったです。また、営業時間については、土日を問わず、24 時間営業するスーパーもあり、22 時まで営業するスーパーもありました。

私の場合は、だいたい月曜日から金曜日はマンチェスターの町めぐりをしました。週末にはどこかへ旅行しました。大学が行っているツアーに参加しました。1つは湖水地方ウィンデミアで、もう1つはカナーヴォン城でした。大学のツアーの他に、エディンバラ、グラスゴー、ロンドンにも旅行しました。私たちは学生の割引券を使ってイギリスの鉄道を安く利用しました。また、せっかくマンチェスターに留学するので、帰国する前にマンチェスターユナイテッドのサッカー観戦をしました。

滞在先については、マンチェスター大学の寮で一ヶ月過ごしました。部屋は一人部屋で、キッチン、トイレ、シャワーは共用でした。キッチンには食器、鍋、レンジ、トースターがあります。フラットは全員お茶大生で何も心配せず生活しました。

4. プログラムを終えて

今回の短期研修の結果として、授業も旅行も充実してましたが、自分から積極的に英語で会話をする姿勢が足りないと深く反省しております。しかし、この一ヶ月間、イギリスの文化、国の雰囲気、人の優しさを改めて実感しました。しかし、英語を勉強する意欲は前よりかなり高くなったので、短期留学に参加して本当に良かったです。これからも語学力の向上を目指して頑張っていきたいと思います。

マンチェスター大学短期研修を終えて

文教育学部　人文科学科
２年　吉田佳南子

授業内容

月曜日から木曜日までは英文法やリスニングの勉強をした。日本人の学生だけでなく、中国やサウジアラビアから来た留学生と同じクラスで授業を受けたことは、とても刺激になった。また、私達日本人学生のスピーキング能力を考慮し、先生方が会話をする機会を多く作って下さった。先生方は本当に優しく、マンチェスターのおすすめの場所、お店、洋楽など様々なことを教えて下さった。金曜日は主に課外活動を行った。アートギャラリーやフットボールミュージアムに行き、イギリスの文化を学んだ。その翌週の授業では、パワーポイントを作り発表することによってフィードバックすることができた。

寮での生活について

寮の部屋は広く、快適であった。お茶大生は全員が同じフロアで過ごし、また共用のキッチンも広く、綺麗だった。自炊は不安だったが、フルーツやパスタやパンなどは、日本よりも安く、美味しかったため問題はなかった。寮から徒歩圏内に、大きなショッピングモールがあり買い物を楽しむことができた。また寮の近くにアリスの世界をイメージしたかわいいティールームがあり、とても気に入った。

マンチェスターの街について

マンチェスターはとても住みやすい街だった。道順を聞くと、誰もが優しく応えてくれた。向こうから「どこから来たの？」「どれくらい滞在するの？」など聞いてくれる人もいた。マンチェスターに住む人々はマンチェスターが大好きで、街を誇りに思っていることが分かった。マンチェスターは産業革命が始まった都市として、重要な意味を持っていることを知った。マンチェスターは、もともと綿工業で栄え、その綿織物を輸出するために輸送手段が開発され、初めての蒸気機関車が走る都市となった。また、マンチェスターにはゲイストリートといって、ゲイの人々が偏見や差別されることなく快適に過ごすことができる通りがあった。また、8 月の最後の週末に LGBT の人々の権利を主張する一大イベントがあった。LGBT のシンボルである虹色の旗や風船などで、通りが飾られ、パレードが行われるなどとても賑やかであった。近年 LGBT についての注目が集まってきているが、

日本はイギリスに比べ、LGBT の人々は住みづらく、マイノリティの人々を排除する社会となってしまっているのではないかと感じた。また、下の写真のように、お昼は大学近くの公園に学生から会社員まで多くの人が集まり、昼食を食べていた。日本ではあまり見ることのできない光景であり、私はこのような日常生活をとても羨ましく思った。

短期研修を終えて

この留学を通して英語の勉強に対するモチベーションはもちろん上がったが、それに加え、自分の専門の勉強に対するモチベーションも上がった。私は大学で、主に哲学や倫理学を学んでいる。留学に行く前は、哲学や倫理学などよりも、より実践的な学問を勉強すべきではないかという見方をされることが多い気がしていた。しかし留学をして、イギリスには偉大な哲学者が多く存在することを改めて実感し、そして哲学に興味を持っている人や留学生に出会うことができた。また、イギリスのほとんどの本屋に哲学書の大きいコーナーがあることに驚き、学問の一つとしての意義を感じた。この留学によって、自分が哲学を学ぶ選択をしたことに、より自信を持つことができたので、これからの大学生活において、専門分野の勉強も励んでいこうと思った。

またイギリスの EU 離脱における混乱は生じているのかと思っていたが、まだ影響はでていないようだった。私の英語のクラスの先生は、夏はマンチェスター、冬はスペインで英語を教えているため、移動が困難になるだろうと言っていて、投票の翌日は涙を流していたという話はとても印象に残った。もう一人の先生は、移民を排除したいという考えだけで、離脱を支持した人は、イギリスの将来について何も考えていない人で、様々な国の料理店などが並ぶ通りなどの雰囲気がなくなることが悲しいと言っていた。何より、EU の問題は簡単に白黒つくものではないという言葉が印象深く、私たちがネットで調べた情報だけで簡単に理解できることではないということが分かった。私達はこの留学中にスーパーで安くて美味しいフルーツやパンを食べることができていたが、今後はそのように輸入食品が安く買えないとなると、食生活も大幅に変化していくのではないかと思った。

マンチェスター大学での短期研修を終えて

文教育学部　言語文化学科　英語圏言語文化コース
２年　吉原愛実

授業内容

授業としては、週１５時間の Core Language Module と、週６時間の Target Module を受講しました。Core Language Module では、仮定法や冠詞の使い方のような文法事項の確認や、語彙力を高めることが中心でした。また、Target Module では、映画を見たり、実際に博物館や美術館を訪れたりすることで、イギリスの文化を学びました。さらには、授業の一環として、博物館で見たものについてのプレゼンテーションや、現地の方々にインタビューも行いました。私はずっとスピーキングに自信が無かったのですが、こうした授業内でネイティブの先生方やクラスメイトたちが私の知らなかった英語表現を丁寧に教えてくれたので、徐々に英語を話すことに慣れることが出来ました。また、Target Module で現地の方々にインタビューをすると聞いて、私にそのようなことが出来るのか、と不安に思いましたが、現地の方々は優しく対応して下さり、安心しました。

課外活動

マンチェスター大学での課外活動の回数は日本よりも多く、Target Module の中でほぼ毎週行われました。マンチェスターの様々な場所を訪れることが出来たので、とても良い機会だと思いました。そこで、私が訪れた場所の中で印象に残った場所をいくつか紹介をしたいと思います。

・National Football Museum

ここでは、イギリスで人気のサッカーについての展示がたくさんあり、現代のサッカーが確立するまでの経緯や、これまで行われてきた多くのサッカーの大会についての解説が分かりやすくされています。また、こうした大会で活躍した選手のユニフォームの展示は特に印象的でした。

・Lowry Gallery

ここでは、マンチェスター出身の画家である L.S.Lowry の作品が多く展示されていました。彼の作品は美しく、見ていて感動しました。また、私は今まであまり博物館や美術館に行ったことがなかったので、こうした画家の作品を生で見ることは新鮮に感じられました。

・Chetham’s Library

ここはイギリス最古の公共図書館で、私はその歴史に驚かされました。こうした歴史ある

場所を訪れることが出来て嬉しかったです。また、この図書館はこぢんまりとした図書館なのですが、その中で私はまるで『ハリーポッター』に登場しそうな雰囲気を感じました。

イギリスでの生活

私は留学期間、Wright Robinson Hall という大学寮で生活していました。そこからは大学や駅まで徒歩で行けたので、とても便利でした。また、私は寮生活が初めてだったので、毎日の食事の用意を全部一人で出来るのかと不安に思いましたが、最寄りの駅に Sainsbury’s というスーパーマーケットがあり、そこでは食品が充実しており、かつ値段も安かったので、食事の買い出しはほぼ毎日そこで済ますことが出来ました。時々レストランに行く機会もあり、イングリッシュブレイクファスト（写真参照）を食べることが出来ました。朝ごはんにしてはかなり量はありますが、とても美味しかったです。さらに、私は１回サウジアラビア出身のクラスメイトとカフェに行き、そこで食べたスコーンも美味しかったです。また、授業は平日のみだったので、週末は友人とウィットビーやリバプールへ日帰りで行き、またロンドンへ２泊３日の旅行もしました。どの旅行もとても楽しかったです。特にロンドンでは、ビッグベンや大英博物館等の名所を訪れることが出来て良かったと思います。さらに、私はずっと観戦したいと思っていたマンチェスターユナイテッドの試合を生で観戦することが出来てとても良かったです。スタジアムはものすごい熱気に包まれ、その雰囲気に圧倒されましたが、同時に感動もしました。また、試合にも勝ったので、この試合を観戦出来たことは私にとっての一生の思い出となりました。１カ月の留学の間にこうした経験を積んだことで、私は以前よりも英語を使うことに自信が持てるようになったと思います。例えば、買い物をする際に店員の方と話したり、授業で様々な国籍の人々とディスカッションをしたりする中で、自分は英語でコミュニケーションを取ることが出来るようになったと思えるようになりました。しかし、話す機会を多く求められる中、自分の言いたいことを伝えきれずに悔しい思いをしたこともありました。そのような状況下でもめげずに言いたいことを伝えようと努力をすることで、何事にも挑戦し、諦めないことの大切さを学ぶことが出来ました。１カ月という短い研修ではありますが、自分の得られたものは多く、充実した留学生活になったと思います。さらに、この研修を通して、今後の学業や日常生活に対しても自信が持てるようになりました。これも現地で授業をしてくださった先生方や、一緒に学んだクラスメイト、現地の方々、さらには１カ月間ずっと一緒に過ごしてきた友人たちのおかげだと私は思っています。本当にありがとうございました。

研修参加者からのアドバイス

１．出発前

- wifi がなくても使えるマップをダウンロードする。
- クレジットカードを作る場合は早めに。
- イギリスは夏でも寒いので、暖かい服を持って行くべき。
- リスニングをイギリス英語だけでなく色んな国の人の英語で練習しておいたら良いかなと思う。(色んな国から来ている人と話し、それぞれクセがあるので)
- シャンプーやトリートメント等は現地で買えます。
- テスト期間等で忙しいと思うが、最低でも 2 週間前から持って行くものを用意しはじめるべき。直前になって焦るのはよくない。
- お土産が予想以上に増えることを想定して、研修先で捨てもいいものを持って行くべき。荷物の重量制限を意識する。
- スーツケースは、帰る時に必ず重くなるので、なるべく軽くしていく。

２．授業

- クラス分けについて希望があれば、柔軟に対応してくれる（ちゃんとした理由があれば)
- 少人数で行われるし、案外日本人が多くなるため、日本語が通じて心が安らぐだろうけれども、英語を上達させたいなら学校の中では意識して英語を使うこと。
- 分からないと思ったら、分らないことを相手にはっきり伝えないと迷惑になることがある。
- USB は持っておいた方が良いです。パソコンも必須です。
- 私はルーズリーフを使っていましたが、バラバラになりがちなので、ノートの方が使いやすいかもしれません。
- 英英辞書は教室にありますが、電子辞書は持参しても大丈夫でした。

３．寮での生活

- 寮には共用のキッチン、ランドリー、お風呂（実際にはシャワールームのようですが）があり、個人の部屋がそれぞれ与えられます。寮では wi-fi が使えるため、家族との連絡を取ることも出来ます。
- 寮では受け取ったり、送ったりできる荷物の大きさ等に制限があるため、注意が必要かもしれません。
- 寮は学校から徒歩で 10 分程度の場所にあり、またマンチェスターピカデリー駅から徒歩で 5 分程度ととても立地が良かった。キッチン、トイレお風呂はフロアごとで共用だった。

- 寮にはドライヤーとハンガーと洗剤、スリッパを持って行くべき。
- 乾燥機にかけても上手く乾かなかったので、ハンガーを持って行った方が便利。
- 夜はかなり冷えるので、冷暖房設備がないし、布団も薄いので厚手のパジャマがあるといい。暖かさを調整できるようなジャージ等が便利。
- 食器洗いのスポンジ、洗剤、包丁、フライパン、塩、砂糖、油の用意がないので、現地で調達。包丁はだれか一人持ってればOK。湯沸かし器、レンジ、コンロはある。

４．食事

- 朝はシリアル or パンとヨーグルト、昼はタッパーにサンドイッチをつめて、夕食は近くのスーパーで毎放課後買っていた。タッパーは持参した方が良い。コンソメスープの素は汎用性が高い。
- 日本食が恋しくなるので、何か持参することをお薦めします。個人的にはコンビニのお湯を注ぐだけで出来るフリーズドライのぞうすい・リゾットが軽くてかさばらないのに、美味しかったです。
- レストランだと食事の他に、サービスチャージが含まれることがあります。ランチだと６～７ポンド。夕食だと１０ポンド以上はかかります。（ファーストフードは除く）

５．現地学生・地域住民との交流

- お茶大だけでなく、日本の他大学の学生も多く来ていました。そうした学生たちとの交流も授業を通して深められました。
- 留学に来ていた学生たちは、主にアジア圏の国々（サウジアラビア、中国、韓国など）出身でした。イギリス人の学生はあまりいませんが、外国から来た学生たちとの会話も楽しめます。
- 大学主催のイベントがあり、そこで他の学生と交流をすることはできますが、現地のネイティブスピーカーと交流することは難しいです。
- 買い物中に店員と会話したり、道を尋ねたりすることはよくありました。
- ピアノが趣味だったので、中央図書館のピアノを借りていた時に、その場にいた人達と音楽の話題で交流できました。
- 学校側が運営しているイベントが数多くあり、そこで他の国の人と交流する機会があった。
- 夏休み中のため、現地の学生とのからみはほとんどない。大学主催の金曜の交流会（Social Evening)ではたくさんの中国人と交流できた。日本のお菓子を持って行くと喜ばれる。

６．経済面

- ほとんどの支払いでカードが使えるので、カード払い基本にしようと思う人は現金はそんなにいらいない。(私は 5 万円換金したが、1 万円以上余してしまった。)
- 自販機やバスの支払いのためにコインはたくさん必要。
- 盗まれても打撃をうけないよう財布は分けて、持っている財布には一日で必要な物だけ、自分の部屋には持ち金を入れた財布をスーツケースに入れて、ロックをかけるといい。
- 2 週間目位になると小銭にもなれます。できるだけおつりの内容に出した方が良いので、早めに慣れておくと得です。
- １ポンドの偽コインをおつりで渡されました。横の切れ込みが違うらしいです。
- クレジットカードは持参をおすすめします。私は 2 枚持っていました。VISA は使いやすいです。
- クレジットカードはバスや電車の予約に必要なので、持っておいたほうがよい。

７．その他

- イギリスにはさまざまな観光スポットや名所があり、とても楽しかったですが、自分の手荷物には必ず気をつけるべきだと思います。(盗難の危険性が日本より高いので)
- ショッピングセンターなどのトイレは有料であることがある。値段は 20 ペンスや 40 ペンスなど場所によって異なるが、おつりが出てこないので、そのようなときために、20 ペンス硬貨はある程度持って行った方が良い。
- 私は SIM カードを貸し出しで、ネットもある程度外で使える契約にしました。部屋や大学は学内 Wi-Fi があったので良いのですが、ロンドンやマンチェスター市街地で電車を調べたり、地図を見たい時、ホテルの予約を確認する際に、便利でした。

ニューサウスウェールズ大学

派遣者数 12 名

オーストラリアでの１ヶ月を終えて

理学部　情報科学科
２年　天野幹子

授業内容

今回の研修では、UNSW 付属の語学学校で 4 週間の英語の授業を受けました。クラスは学校が事前に決めたもので、クラス分けのテストなどはありませんでした。授業内容は Grammar, Media Studies, Writing, Australian Studies などで、Grammar の教科書には face 2 face が使われていました。わたしのクラスには同じ時期に来た日本からの留学生が沢山いて、クラスのほとんどが日本人という状態だったのが少し残念でした。授業内容自体はそこまで難しいものではありませんでしたが、今まで日本語で習っていたものについて英語で解説を受けると、使われ方のニュアンスなど知らなかった新たな発見がたくさんありました。また新しいが、実用的な言葉を学ぶこともでき、非常に充実した 4 週間を送れたように思います。

現地生活

まず、わたしの現地での生活についてです。授業は 9 時から 13 時 30 まででした。お昼休みは 30 分と短かったのですが、その分放課後の自由な時間が増え、平日も十分に活用してシドニーを満喫することができました。シドニーはいくらでも楽しむことができ、1 ヶ月では足りないほどでした。授業が全て終了した 9 月 2 日からは 3 泊でゴールドコーストにショートトリップに行きました。シドニーとはまた違う魅力のある街で、早めに計画を立てて行動して良かったです。

次にシドニーについて、シドニーは非常に多国籍で、英語以外の言語もたくさん耳に入ってきます。日本では体験することのない多国籍な国ならではの環境に身を置ける貴重な経験だったように思います。治安も非常によく、皆親切で、誰もが暮らしやすい街であると感じました。

また交通の便について、シドニーではバスか電車での移動が基本となります。バスはバス停名の表示やアナウンスがなかったり時間にルーズだったりと、慣れるまでは苦労しましたが、慣れるとバスでどこへでも行くことができるので便利です。電車については日本同様、わかりやすく、使いやすいです。また、オパールカードというカードでバス、電車、フェリーに乗ることができ、運賃についてもそのカードを利用することで得になります。

物価が日本と比べて高いですが、治安や交通の便、また雰囲気も非常によく、シドニーは日本人にとって、また留学生にとって安心して生活のできる素敵な街だと思います。今回オーストラリアにして良かったと心から思いました。

ホームステイ

わたしのホストファミリーは既に結婚して家を出ているお子さんが 2 人いるご夫婦でした。本当に暖かい家庭で、常にわたしを気遣ってくれ、困っていることがあればなんでも助けてくれました。初日から学校まで下見に連れて行ってくれたり、ビーチに連れて行ってくれたりしました。常に留学生の意見を尊重してくれて、おすすめの場所を教えてくれたり、ショートトリップの飛行機や宿を一緒に探してくれたりもしました。わたしは旅行に行くとホームシックになりやすい方ですが、1 ヶ月間まったく寂しさを感じることなく過ごすことができたのはホストファミリーのおかげです。

わたしの家にはホストファミリーに加え、わたしの他にも留学生が常にいる状態でした。ホームステイ先で出会った留学生は全部で 7 人いて、中国 4 人、ブラジル 2 人、日本 1 人でした。性別や年齢もバラバラで、話していて初めて知ることや、初めて感じる感覚がとても面白かったです。現地の語学学校での勉強も大切ですが、ホームステイで得られたものも非常にたくさんあったと感じています。

友達

先ほど述べたようにわたしのクラスはほとんどが日本人であったため、外国人の友達を作るには自ら行動する必要がありました。UNSW には NSA(Nippon Students Association)という日本に興味がある学生や、日本語を学んでいる学生などからなるサークルがあります。そのサークルとコンタクトをとったことでサークルが交流の場を設けてくれて、現地の学生と交流する機会を得ました。そこで素敵な友達と出会うことができ、留学中も一緒に遊びに行き、帰国後も連絡をとっています。現地の学生と交流できる機会は少なかったのですが、そうやって連絡をとり続けられる友達を得られたことは本当に良かったと思っています。

プログラムを終えて

今回 1 ヶ月間オーストラリアで過ごしましたが、多くのことを吸収しようと努力し、楽しんだ 1 ヶ月はあっという間に過ぎてしましました。今回の 1 ヶ月で生活面など、成長することができたと感じる部分は多くありますが、特に英語について、“使う”ことの大切さを感じました。今まで習ってきた単語、文法をものにするには、とにかく使い、慣れるべきだということです。それは今までにもわかっていたことでしたが、今回習ったものをできるだけ使おうとすることで実際に使えるようになっていく感覚を知り、それを続けることが上達への鍵だと身をもって感じました。そして、使うことへの意欲も湧いてきたように思います。その意欲を持って英語の上達に繋げられるよう、工夫していきたいと思います。非常に充実した、わたしにとって忘れられない有意義な 1 ヶ月でした。

ニューサウスウェールズ大学短期研修を終えて

生活科学部　食物栄養学科
２年　井上怜子

１授業内容

授業は平日 9 時から 13 時半までの間に 2 コマ受けていました。毎日どちらかの時間に教科書の内容で文法について学び、もうひとつのコマでメディアやオーストラリアの文化などを学びました。私のクラスは半分が日本人で他にトルコ人、サウジアラビア人、コロンビア人、韓国人、中国人の生徒がいてとても多国籍クラスでした。そのため、オーストラリアの文化を他の国や日本と比べながら学ぶことができました。先生がグループで話し合う時間を多く設けてくれて、発言の機会を多く与えてくださったので、積極的に英語を話すことができました。文法に関しては高校の時に履修した内容と被っていたのでそこまで難しくなかったのですが、日常会話などであまり目にしないような単語が結構出てきて戸惑いました。また英語を話す以前に、与えられた議題に対して自分がどう思っているのか、自分の考えをまとめるのに苦戦しました。

２課外活動

・ブルーマウンテンズのツアーに参加

友達のホストマザーから教えてもらったツアーをお茶大の同学年３人で申し込みました。ツアー人数は私たち以外にアメリカからきたおばあちゃん一人だけで運転手さんと４人でバスの中から和気あいあいとしていて楽しいツアーでした。はじめにオリンピックスタジアムに行って、ブルーマウンテンズに向かいました。途中ユーカリの木の林に入ったところで降ろしてくれて、運転手さんがユーカリについて説明してくれたりしました。運転手さんやアメリカからきたおばあちゃんとはもちろん英語で会話し、人数が少なかったのと、運転手さんがとてもおしゃべりな方だったので、英会話という面からもいい経験になりました。

・クラスメイトと先生と BBQ

Term の最後のエクスクルージョンとしてクラスメイトと先生と一緒に学校の近くにあるビーチでバーベキューをしました。買い出しからすべて自分たちで話し合いながらやりました。トルコでは BBQ が日常茶飯事に行われるとのことだったのでトルコ人の留

学生に道具の使い方や片づけなどを教わりながら、コミュニケーションをたくさんとって楽しくできました。共同作業を通して、国境を越えて人の優しさに触れることができました。この次の日が修了式だったので別れが一層つらくなりました。

３シドニーでの生活

大学からバスで 20 分ほどの場所にある MATRAVILLE でホームステイをしました。私を受け入れてくれたホストファミリーはマザーとファザーと子供が３人と犬と猫がいる家庭でした。長女は一人暮らしをしていたので、実質４人と一緒に一か月暮らしました。マザーは小学校で英語を教えている先生で毎日忙しそうにしていたのですが、それでも私の朝食や夕食を必ず用意してくれました。朝は用意されたパンを自分でトーストしたり果物を切って食べていました。夕飯はマザーが作ってくれたのですが、毎日本当においしかったです。料理が好きな方だったので毎日いろんな国の料理を出してくれました。マザーが料理しているのを見るのが好きだったので、夕ご飯の準備の時間には家に帰ってマザーの手伝いをするようにしていました。そのときにマザーが今日は何していたの？と毎回聞いてくれるのでコミュニケーションも十分にとれました。私が帰るころにはファザーも仕事から帰ってきていたので、夕ご飯もみんなで一緒に食べました。ファザーはとても面白い人で、食べているときにもよく私を笑わしてくれました。私は本当に運がよかったです。ホストファミリーがとても心温かい人たちで、私は英語を話すのがとても苦手だったのですが、ファミリーは私がゆっくりでも考えながらでもしゃべるのを待って聞いてくれました。なので私もマザーやファザーが話しているときは目をしっかりみてどうにか円滑に会話を進めようと全神経を集中させていました。また自分の表情にも気をつけました。たくさんのことを英語で話せない分、表情で補っていた部分は多いと思います。現地の人とのコミュニケーションをとる機会が多いホームステイを通して感じたことは、文法を気にしすぎるより、どれだけ多くの単語を知っているか、ジェスチャーを使えるのか、だと思いました。なによりも、話している相手に対しての聞く態度であったり、相手の都合を考えながらちょっとした時間でも、会話のキャッチボールを積極的にすることが大事だったのかなと思いました。

報告書

理学部　生物学科
３年　大石佑子

2016 年 8 月 6 日～9 月 6 日にシドニー（UNSW）に短期留学に参加した報告をします。

【大学】授業は平日の 9:00～13:30 で、1 コマ 120 分でした。おそらく提出した TOEFL などのスコアによって 6 段階にクラス分けがなされています。教科書は図書館で貸し出しを行っているので買う必要はありませんでした。クラスは 17 人と少人数でしたが、先生は多いほうだと言っていたので少人数教育がスタンダードなのだと思います。私のクラスはお茶大生や他大学の日本人が半分程度、もう半分は韓国、中国、サウジアラビア、トルコ、コロンビアから来た様々な年代の人たちでした。日本の学校とは違い、席は決まっておらずグループで対話しながら学習するのを重視していたので、クラスメイトの皆さんとたくさん話すことができ、勉強になりましたし、それぞれの国のことも聞けてとても興味深かったです。また、私のクラスは週末にはエッセイの課題が出ましたが、基本的に宿題は多くありませんでした。ターム末にはリスニング・リーディング・グラマーの試験があります。継続して学校に通う人はこの試験で 85%以上の成績をとると上のクラスに上がれる仕組みになっているようでした。私はランチをホストマザーにつくってもらっていましたが、学校のカフェで買ったり、あらかじめスーパーで買って持ってきたりしている人がほとんどでした。また、UNSW に通う現地の大学生と NSA(Nippon Student Association)というサークルを通して知り合うこともできました。彼らとは一緒に夕食を食べたりお花見に行ったりして本当にいい思い出になりました。とても驚いたことに、NSA の学生たちは日本のサブカルチャーに精通していて、漫画やアニメ、声優のかなりコアな話をしてくれました。正直私よりもずっと詳しく、「クールジャパン」を初めて感じました。何人かとは連絡先を交換して、今でも連絡を取り合っています。海外に友達がいるというのは初めての経験で、嬉しく思っています。

【ホームステイ】ホームステイ先は人によってかなり様々だったようですが、私はとても恵まれたホームステイをさせてもらいました。ホストマザーは一人暮らしだったのですが、UNSW の語学の先生ということもあってか理解のある優しい方でした。毎日一緒に朝ごはんを食べ、夕方に帰るとペパーミントの紅茶とビスケットを食べながらその日にあったこと、

見たものの話をする、ゆったりとした時間が大好きでした。日曜日はあえてシティのほうには行かず、ホストマザーと散歩をすることにしていました。ホストマザーの友達や姉夫婦も紹介してもらい、あたたかく歓迎してもらいました。ホームステイで大変だったことがあるとすれば、場所が学校から遠く、通学にバスと電車を乗り継いで１時間半ほどかかったことです。特に最初の頃はバスになじむのが困難でした。オーストラリアのバスは路線の数が多く複雑な上に、乗っていても次の停留所の名前のアナウンスもなく、バス内に表示されるわけでもありません。さらに停留所にその停留所の名称が明記されているわけでもないので、風景を頼りにするしかありませんでした。もしポケット Wi-Fi を持っていればグーグルマップや現地の乗り換えアプリを使うことができたので、この点に関しては後悔しています。Wi-Fi はあったほうが便利です。

【シドニーの街】放課後や週末は観光をしました。オペラハウス、ハーバーブリッジ、ビーチ、動物園など行くところはたくさんあります。どこに行っても綺麗な海が印象的でした。また、植物や動物は日本にはないもの、オーストラリア固有のものばかりでどれも興味深く見ることができます。私のように生き物が好きな人や生物に興味のある人にはオーストラリアは素晴らしい場所だと思います。どこへ行っても人が親切で、安心して楽しく過ごすことができました。注意してほしいのは気温と紫外線です。冬でも日中は２０度近く、暖かい日が多いですが、いったん日がかげるとあっという間に寒くなります。オーストラリアは１日で四季があるとも言われているほど、昼と夜では寒暖差があるので風邪をひきやすいです。日本に比べてずっと乾燥している点にも注意が必要です。紫外線に関しては、上空のオゾンホールが壊れているようで、つよい日差しを感じます。帽子やサングラス、日焼け止めはあると安心です。

全体として、一ヶ月間毎日とても充実した研修を送ることができました。一緒に研修に参加した皆さん、グローバル教育センターの松田さん、ありがとうございました。

UNSW 研修

理学部　情報科学科
１年　小川公子

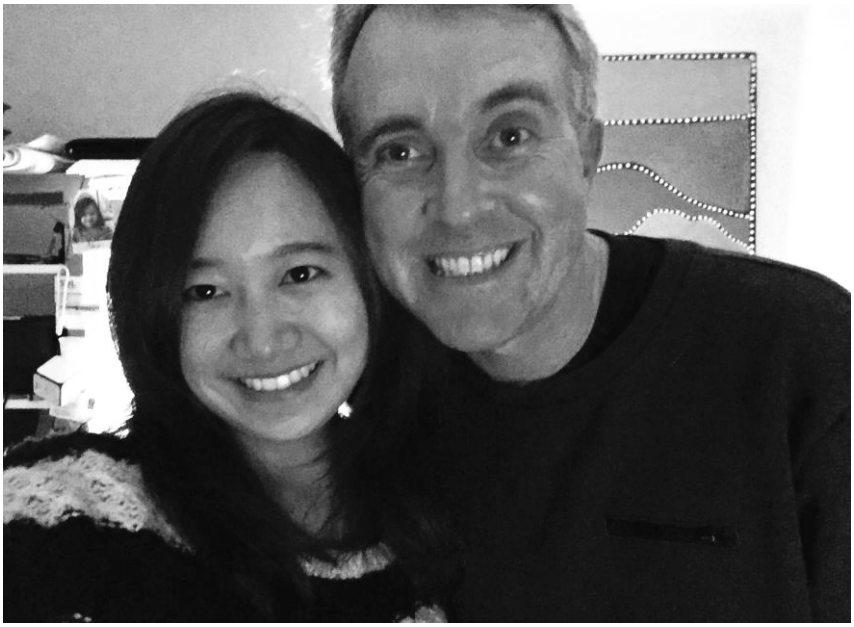
語学学校

　初日に行ったときすでにクラス分けが行われており、クラスはさまざまな国から英語の勉強をしにきた生徒が約１５人で構成されており、講師は私のクラスは月・火・水曜日はイギリス人の先生で、木・金曜日はアメリカ人の先生でした。
授業は主に大学から貸し出されるテキストにそった形で行われ、学生の発言を引き出しながら授業が行われました。私のクラスは日本人が半分ほどおり、最初はみんな積極性がなく他の国の人たち中心の授業のようになってしまっていたが、一週間もたつとみんな積極的に発言できるようになり、日本人もクラスにとけ込んでいけるようになっていました。
しかし、やはり日本人が多かったので。日本人同士でも授業中は英語を話すが休み時間になるとみんな日本語で話すので、いっぱいはなせて仲良くはなるけど、せっかくの留学だったのでもっと英語を使うよう努力すべきだったなと思います。
ですが、授業では週１日プレゼンテーションを行う機会があり、ほどよい緊張感をもちながら日々を過ごすことができました。

ホストファミリー

　この研修はホームステイでした。
私のホストファミリーには、ホストファザーと８歳の娘でした。彼はとても優しく親切で、常に私のこと気にかけてくれました。毎日駅までバイクの後ろにのせて連れて行ってくれ、休日私が特に用事がないときはいろんなところに連れて行ってくれました。
ご飯もとてもおいしく毎日晩ご飯の時間が楽しみでした。夜ご飯のあとには一

緒にお菓子を食べながら映画をみることが日課で、CM の間にその映画の展開を予想したりして話すことが楽しかったです。
この研修で英語を一番話したのは確実にホームステイ先でした。このようなすてきなホームステイ生活を体験することができて私はラッキーでした。ホストファミリーには恵まれて本当に感謝しています。



友達
今回、UNSW の研修の中で、UNSW の日本に興味を持っている学生サークルと関わることができる機会があり、それを機にたくさんの現地学生と仲良くすることができました。
その中でも特に仲良くなった友達とは、休日に一緒に遊びにいったり、平日でも大学内のパブでおしゃべりをしたり、とてもたくさんの時間を一緒に楽しく過ごしました。
このサークルの人たちは日本人留学生になれていることもあり、会話をする中でゆっくり話してくれたり、日本についての話を聞いてくれたり一緒にいる上で大変だと感じることはなかったです。
一緒にいて話をする中でも日本語を教えるときが一番楽しくかつ考えながら英語を話すことができた気がします。
オーストラリアでの多くの出会いに本当に感謝しています。
またこの研修をサポートしてくださった多くの方々に感謝しています。

ニューサウスウェールズ大学での語学研修を終えて

生活科学部　食物栄養学科
1年　沖村藍子

✧　授業内容

授業は月曜日から金曜日までの午前9時から午後1時30分まで行われました。英語のレベルによってクラス分けされ、それぞれのクラスでリスニング、ライティング、スピーキング、リーディングなどを学びました。私のクラスでは皆の前で発表する機会が多く、曲紹介や自由テーマで15分ほどのプレゼンテーションを行ったりもしました。全体的にスピーキングの要素が強く、文法の勉強などもありましたがクラス内でグループを作って話し合うことが多かったです。

✧　課外活動

授業が1時30分までしかなかったため、毎日シドニーの観光をしました。クラスメイトと一緒に観光名所を回り、一か月間で有名なところはほとんど行くことができました。美術館などに行くと英語の説明がたくさんあり、とても勉強になりました。またクラスメイト皆で、ビーチに遊びに行きバレーボールをしたりして、言葉がなくてもいろんな人と楽しむことができると感じました。

・ブルーマウンテンズとジェノランケーブのツアー

休日にブルーマウンテンズという山とジェノランケーブという鍾乳洞のツアーに参加しました。小型のバスで行きましたが、運転手がガイドの役割もしていて、道中に運転しながらいろいろな説明をしてくれました。シドニーから少し離れたところなので、途中で野生のカンガルーを見られたりしてとても楽しかったです。このツアーはすべて英語だったので集合場所を探したりするのも大変でしたが、おかげで人に尋ねたり、ガイドの話を聞こうと頑張ったりとかなり勉強になったと思います。

・2 泊 3 日のアデレード旅行

最後の 3 日間が自由な日だったので、アデレードに旅行に行きました。アデレードは観光地という感じではなく、あまり観光で行く人はいません。しかし、私の場合、日本に留学で来て、一年間家族として一緒に過ごしたオーストラリア人の友達がアデレードに住んでいたので、その人の家に泊まらせてもらうことにしました。もともとスカイプなどで彼女の家族とも話したことがあり、初日からいろいろなところに連れて行ってもらい、とても楽しむことができました。2 日目には彼女の親戚も集まって、みんなでバーベキューをし、近くの海で野生のクジラやアシカなどを見ることができて最高の思い出になりました。

✧　オーストラリアでの生活

オーストラリアではホームステイをしました。私の家は留学生が他にもいていろんな国の人と話す機会があって楽しかったです。しかし家ではホストファミリーと留学生たちとの生活が隔離されていてテレビなども見られなかったので、家で過ごすことはあまりなく、同じ家の留学生たちや友達と出かけることが多かったです。今回の研修で、様々な国の人と出会い、英語が通じず、完全に理解できないこともたくさんありましたが、それよりも英語で他の国の文化を知れた嬉しさのほうが圧倒的に大きかったように思います。またいろんな人と会話する中で、自分の国についてあまり知らないということや今までの英語の勉強がいかに偏っていたのかを知ることができました。私は理系なので、歴史的な知識があまりなく、自分の意見を尋ねられた時に、あまり話すことができなかったことに情けないなと感じました。また英語に関しては、文法の　勉強などに偏りすぎていて、スピーキングや自分で文章を作るなどのアウトプットが不足していたことに気づかされました。そんな中で、今回一番良かったことは、英語を学ぶモチベーションがかなり上がったということです。大学入学後、中高の時のように英語を勉強しなくなり、危機感を感じていましたが、結局何もできずにいました。しかし、帰国後は洋画を見たり洋楽を聞いたり、英語で日記を書いてみたり、様々なことを試して、英語力向上のために行動を起こせるようになりました。この語学研修は自分を成長させてくれるとてもいい機会だったと思います。今回学んだことが無駄にならないよう、今後に役立てていきたいです。

UNSW 語学研修を終えて

文教育学部 人文科学科
１年　菊地瑞穂

研修内容

私が参加した研修はホームステイをし、ニューサウスウェールズ大学の附属の語学学校に通うという１ヶ月間のプログラムでした。

授業は９：00 から 13：30 までで、放課後は自由時間でした。クラスは日本人の学生が半分くらいと、トルコ、コロンビア、サウジアラビア、中国、韓国の学生がいました。授業は Structure、Listening、Speaking が中心でしたが、Speaking では日本以外の国の人と話すことでお互いの文化を知ることができ、また日本語が一切使えないという環境をつくることができたので、とても良い練習となりました。クラス全体でディスカッションをする際は、先生が細かい文法ミスも指摘してくれたので、ありがちなミスをクラス全体で共有し、正すことができたのも、とても勉強になったと思います。クラスの人数は 20 人程度だったので、質問や発言もしやすかったです。

放課後は図書館で勉強をしたり、シドニー市内を観光したり、UNSW の日本に関心がある人たちのサークル（NSA）の活動に参加したりと、毎日充実した時間を過ごせました。特に NSA では外国人の友達をたくさん作ることができ、中でも仲良くなったオーストラリア人の学生がサークルの活動日以外にも私と友人を色々な観光地に連れて行ってくれました。彼は日本に留学に来たこともあったので、日本とオーストラリアの学生生活や文化、価値観の違い等について話したり、英語を教えてもらったりしました。

週末はオペラハウス、ブルーマウンテンズなど、オーストラリアの観光もたくさんでき、オーストラリアの自然や歴史などについても学ぶことができました。

ホームステイについて

私のホームステイ先はホストマザーと息子２人の家族でした。夜はホストマザーとその日にあったことを話したり、一緒にテレビを見たりして過ごしました。はじめのうちはホストマザーの英語が早く、聞き取るのが大変でしたが、だんだんと分かるようになり、会話が増えていきました。私以外にもイタリア人の留学生がいたので、夕食の時間はホストマザーとイタリア人と私の３人で、それぞれの国の食文化や物価などについて話したりもして、楽しかったです。しかしホストマザーと息子の会話はほとんど何を言っているか分からなかったので、ネイティブの人同士の会話が分かるようになるには相当の訓練が必要なのだと感じました。ホームステイ先で唯一困ったことは寒さです。特にシャワールーム

がとても寒かったのですが、オーストラリアは水料金が高いため、10 分程度でシャワーを終わらせなければならず、慣れるまでは大変でした。

オーストラリアと日本

シドニーはとても治安がよく、物価もそれほど日本と変わらず、とても過ごしやすかったです。オーストラリアはアジア人の移民も多いため、アジア系のレストランがとても多いのが印象的でした。また 100 円ショップ、すし屋、アニメなど、日本の文化も広く受け入れられていると感じ、日本と似ていると思うこともありました。一方でオーストラリアと日本を比べて異なる点として衛生や接客に対する考え方が挙げられると思います。

衛生に対して国や地域ごとに考え方が異なることは前期の授業で学んでいたため、わりと抵抗なく受け入れられましたが、食器の洗い方が雑であることや、家に土足であがる人もいれば靴下であがる人もいることなど、日本人ほど清潔さに気を遣わないことにショックを受けることもありました。

接客に関しては、スーパーの店員が他の店員と世間話をしながら仕事をしているなど、日本ではあまり考えられないような光景が多かったです。お客さんに対しとても丁寧な接客は、日本の文化なのだろうと感じました。

それぞれの国によってマナーや価値観が違うということを改めて感じ、事前に調べておくことや、自分自身がその文化に適応していくことが大切だと思いました。

学んだことや反省点

はじめのうちは英語に対する苦手意識や自信の無さから、自分から英語で話しかけることに抵抗がありましたが、研修を通してそのようなことを少しずつ克服することができました。しかし自分の考えを英語で上手く伝えることができずにもどかしく思うこともあり、異なる言語を有する人々の間ではコミュニケーションツールとして英語がいかに大切かということを感じました。

私は大学で歴史を専攻しているのですが、NSA には中国人の学生が多かったため、日中の歴史認識や教科書問題について、同世代の学生の考えを聞けたことはとても興味深かったです。またオーストラリア人の学生に米軍基地や原子力発電、日本の歴史などについて聞かれた時も、何とか英語で説明し、自分の意見が言えたので、高校生の頃からそのような話題について調べていて知識と自分の考えを持っていたことは良かったと思いました。

1 ヶ月という短い時間でしたが、すべてが私にとってかけがえのない経験となりました。研修を通して学んだことを生かして、これからも学業に励んでいきたいと思います。

ニューサウスウェールズ大学研修を終えて

文教育学部　言語文化学科
２年　久保美幸

私は今回オーストラリア・ニューサウスウェールズ大学での８月６日から９月６日の３２日間の短期研修に参加させていただきました。大学２年生の長い夏休みを有意義なものにしたい、現地で生の英語に触れたい、ホームステイをしてみたい、現地の友達を作りたい、などの理由から今回このプログラムに参加することにしました

《大学について》

この大学での授業は月曜日から金曜日の毎日９時から１３時半までと日本と比べると短いものでした。最初は短すぎないかと不安になったりもしましたが、いざ受けてみると短いが故に集中することができ学習成果は高いものを保つことができたと感じています。授業では、ネイティブスピーカーだけが理解できる文法のニュアンスの違いなども学ぶことができ日本では学びづらいことを学ぶことができたので大変ためになりました。

しかし残念なことに私が受けていたクラスはほとんどが日本人で、あとは中国人が３人、台湾人が１人といった感じでした。私はアジア圏以外の人や現地の人とも友達になりたいと思っていたので、ニューサウスウェールズ大学にある NSA という日本に興味のある学生が集まるサークルの人たちと仲良くしてもらっていました。

授業後は大学付近やホームステイ先付近、休日にはオペラハウスや、世界遺産のブルーマウンテンズなどの観光地を巡ることができオーストラリア文化にたくさん触れることができました。私が特に印象に残っているのは、オーストラリア博物館に行った時に見たアボリジニについての様々な資料や展示です。初めてオーストラリアの負の部分というか、歴史に闇の部分があるということを知り衝撃を受けました。その後自分でも詳しくアボリジニについて調べたりもして、このことから、やはり現地に行き実際で触れたものに対しては自発的に動くことができるのだと実感しました。

《ホームステイについて》

私にとって初めてのホームステイで外国の大きな家に住むことができてうれしかったです。ステイ先にはホストファザー、ホストマザー、娘、犬３匹がいました。基本的にファザーもマザーも放任主義＋忙しくあまり家にいなかったので、彼らとコミュニケーションを取れる機会が少なかったため、私が彼らと話すことができる夕食の時間をとても大切にしていました。ホストファミリーは日本の文化について興味を持ってくれていたので、折り紙や日本食といった日本文化を教えたり、逆にオーストラリア文化について教えてもらったりしました。

《今回の研修を通じて学んだこと》

今回の短期研修を通じて、自分が伝えようとすればたとえ完璧な英語ではなくても相手はわかろうとしてくれるし、伝わるものだということがわかりました。

それとともに、自分にあと何が足りないかということ、私の場合はリスニング能力が、特にネイティブ同士の早い会話になるとほとんど聞き取れなくなるということと、スピーキング面では、特にプレゼンテーションをする際に流暢さや、人が聴きやすいようにくぎって話す話し方などができていないな、ということがわかりました。今回は約１ヶ月と短期の研修だったので自分の英語力が著しく上がったかと聞かれると自信を持って、はいとはいえません。なので日本に帰ってからも英語を話す機会を探して、英語の勉強を続けていこうと思います。

報告書　UNSW 研修を終えて

生活科学部　人間・環境科学科
３年　嶋岡千紘

総じて楽しく意義深い研修だった. これはまず一番に述べたいことだ. しかし, 語学学校やホームステイについては思っていたものと違う点があり, 困惑したこともあった.

学校　UNSW 付属の語学学校に通った. テストの成績でクラス編成されるため, 授業のレベルは適切だと感じた. クラスの 18 人の生徒の内, 15 人は日本人だった. これは予想外だった. クラスにはもっと多くの外国人がいると思っていたからである. 日本人では拓殖大など他の大学からの人が多くいた. 夏休み中はどうしても日本人が多くなるようで, 夏休みに行くのならクラスが日本人だらけなのも覚悟した方が良いようだ. 他には中国, トルコからの生徒がいた. 私も含め, 日本人は授業に消極的であまり発言をしないのに対してトルコからの生徒は積極的で発言回数も多かった. 常に先生からの問いかけに答えなければならない授業の形は, 日本の静かで一方的な授業に慣れていた私には戸惑いの多いものだった. 間違えるのは恥ずかしいことではないと思ってはいてもなかなか発言するのは勇気がいるものだった. 1 ヶ月の間に発言回数を増やすことはできなかったが, わからないことはその時点で先生に尋ねる姿勢や授業への積極的な参加は見習うべきだと感じた. 授業は 1 日 4 時間で, 朝 9 時から始まり 2 時間授業を受けて 30 分のコーヒーブレイク(と言ってもここでお昼を食べる人が多い)を挟んで 13 時 30 分まで 2 時間授業を受けるといった具合だった. 授業内容は, 毎日の午前中がグラマーで, 午後はライティングやリスニングに加えて, オーストラリアについて学んだり, 新聞を読んできて班ごとに話したり, 逸話を英語で説明したりする授業が行われた. 午後の授業は先生が趣向を凝らしてくれたため, 楽しんで受けられた. 宿題は少なく, 家での負担もかなり少なくて済んだ. 実は私はお茶大の課題をオーストラリアに持ち込んでいたのだが, それを終わらせるのにも何の支障もない程度の量だった. タームの最後にはテストがあり, 成績表が帰ってきて終了となった. 私の中で一番戸惑い, 悩んだことは思っていたよりも英語を使う機会が少ないということだった. この状況を打開するため, 放課後を一人で過ごすときは街に出かけて店員さんとの会話や, 近くに座ったお客さん同士の会話に耳を傾けることによって英語に触れる機会を無理やり増やすように努めていた.

ホストマザーに連れて行ってもらった日本食レストランで.

卒業式で語学学校の友達と.

生活　ホームステイだった. というよりも私の場合はシェアハウスという雰囲気に近かった. ホストマザーが 30 代の独身女性で年齢が近く, いつも忙しく働いていたことも関係があるかもしれない. 家事を頻繁に行う人ではなかったため, お皿洗いや小まめな掃除, 洗濯などは進んで行うようにしていた. 早い

と朝の 5 時に出勤で, 帰りは遅いと 8〜9 時, 一番遅くて 10 時 30 分という日があった. 一日の間に一度もホストマザーに合わない日もあった. 晩御飯の時間にホストマザーが家にいないことも週に一度か二度あり, そんなときは作り置きしてくれたものや冷凍してある残り物を温めて食べることになっていた. ホストマザーがいないときは誰かと話すことができないため, テレビでドラマなどを見て積極的に英語のある環境づくりをすることにしていた. ホストマザーがいれば, とても美味しくて手の込んだご飯を用意してくれ, ご飯を食べながらその日のことを話した. また, 英語のことやシドニーのことでわからないことがあったときはホストマザーに聞いて解決させるようにしていた. 特に街での他の人とのやり取りで困ったことなどはホストマザーに聞くことですぐに解決できた. オーストラリアの社会のことも教えてもらった. テレビ番組を見たり, 街を歩いたりしている内にオーストラリアは人種間の違いや個性の違い, ジェンダーの問題について日本よりも寛容であるように感じられた. そのことについてホストマザーに尋ねたときもオーストラリアは日本よりも歴史が浅い国であるから, より多くの他の国の影響を受けて社会ができているのだと話してくれた. 私は古さや長い歴史にこそ重要な価値があり, 学ぶ意義があるという考えを持っていたが, この話を聞いて以降は, 新しい国だからこそ作り出せる社会があり, そこには長い歴史を持つ国とは違った価値があるのだと知ることができた. 実は日本が新しい社会から学ぶべきことは多くあり, それはグローバル化が進む昨今においては, より多様な人々を受容する生活環境をつくるためには非常に重要なことであるかもしれないと感じた. しかし, 1 ヶ月という滞在期間はそのヒントをしっかりと掴むにはあまりに短すぎた. 社会に還元できるようなことを具体的に学び取るには至らなかったが, 日本とは全く別の社会を見て, そのような社会が他の国には存在しているということを知ることができたことは私にとっては大事なことだったと思う.

今回の研修の目標のひとつに「他の国の人を理解し, 受け入れる方法を学んでくる」というものがあった. これは最近街中に増加している外国人観光客の公共の場でのマナーの悪さに時折不快感があったためだ. 今後さらに外国人観光客が増加することを考えると不快感を持っていてはいけないと思い, 彼らを受容する方法が知りたかったためである. 私はこれに対し, 1 ヶ月の滞在を通してある解を出した.「受け入れることは不可能」である. 決してネガティブな意味ではない.「受け入れる」のではなく「気にしないこと」そして機会があれば「教える」という姿勢でいればよいと感じたのだ. 外国人観光客が日本のマナーを知らないことは当然で, それは私がオーストラリアのマナーを知らなかったことと同じだった. 私がオーストラリアでどうしてよいかわからなかったときに周囲の人がそっと教えてくれたように日本で戸惑っている人がいればそっと教えたらよい. 外国から来た人を日本の社会のものさしでマナー違反だと判断して線を引くのではなく, これは日本独自のマナーだったのかと新しい発見として感じられるようになりたいと思った. しかしこれについては, もう少し長く滞在できればまた違った答えが出せたか

もしれないと感じている.

オーストラリア短期研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
２年　杉田楽

オーストラリアのシドニーに３２日間の研修に行きました。短い期間ではありましたが、英語だけでなく様々なことを学んだ１か月でした。学校生活、ホームステイ、オーストラリアでの生活を通して色々な経験をしました。

学校生活

私たちが通ったのは、ニューサウスウェールズ大学付属の語学学校で、英語を学ぶ学生が様々な国から集まっていました。私は運悪く、3 人の中国人を除いて、他は全員日本人というクラスに割り当てられました。授業中に発言を求められても誰も答えず、ただ先生が喋っているのを聞いているという状態で、まるで日本で授業を受けているようでした。実際は希望すればクラスを変えられたのですが、それに気づいた時にはもう手遅れでした。これから留学に行かれる方たちには、満足いかなかった場合には遠慮せずクラスを変更してほしいと思います。普段のクラスは 13 時半に終わるため、お茶大の友達と毎日観光に出かけました。その中で自然と日本語を話してしまいましたが、3 週間が過ぎた頃に自分の英語が向上していないことに気づき、最後の 1 週間だけでも一切日本語を話さないことにしました。この取り組みでやっと英語のスピーキング能力が少し改善されたと実感できました。最初から始めていればよかったと非常に後悔しています。留学に来たからといって自然と英語を話す機会が増えるわけではありません。何事も自分から動かないと状況は変わらないのだということを学びました。

ホームステイ

オーストラリアに到着し、最初のホームステイ先に向かったところ、ホストマザーが日程を勘違いしており、ステイ先の変更を余儀なくされました。新しいホームステイ先は、ノースシドニーで、73 歳のホストマザーが一人暮らしをしている一軒家でした。彼女は元教師で、今までに留学生を受け入れた経験がたくさんあったため、英語をゆっくり話してくれました。ただ耳があまり良くなかったため、私の英語を聞き取

ってもらえないことが多くありました。また、年齢も離れていてバックグラウンドも異なるために意見を共有できないことも多く、彼女とはあまり気が合いませんでした。ステイ先から学校まではバスで１時間ほどでした。ハーバーブリッジを通ってオペラハウスを見ながらの登校は毎日の楽しみでした。途中でバスを乗り換えるため、最初の何日かは迷いながらの通学でしたが、このバス通学のおかげで、最後には一人でシドニー中どこでも行けるようになりました。3 週間が過ぎた頃に最初のホームステイ先に戻りました。このステイ先はビーチに歩いて 3 分で行け、大学にもバスで 20 分という好立地のマンションでした。こちらもホストマザーが一人暮らしでしたが、彼女は日本で１年働いたことがあるキャリアウーマンでした。彼女とは夕食後に一緒にテレビを見たり、会話をしたりと良い関係が築けました。食事に関しては、どちらのホームステイ先も口に合わないものはなく、美味しくいただきました。私は二つのホームステイを体験できてとてもラッキーでした。二つのステイ先では共通点も相違点もあったため、オーストラリアの暮らしに理解を深めるとともに、固定概念を抱くことを避けられました。

オーストラリアでの生活

オーストラリアで１か月生活をして、日本との違いをたくさん感じました。第一に、働き方への姿勢です。オーストラリアでは、カフェは夕方には閉まります。ホストマザーも、7 時に家を出て 17 時には帰ってきていました。彼女は帰ってきてから家で仕事をすることはなく、日本人がいかに仕事に縛られているかを実感しました。また、働いている人への態度の違いも感じました。レストランでのウェイトレスは、はっきり言って態度が良くありませんでした。しかしオーストラリアの人たちは彼らの目を見て感謝の言葉を必ず言います。15 分遅れてきたバスの運転手に対しても気持ち良く挨拶をします。日本では、こちらがお金を払っているのだからサービスをするのは当たり前だという考え方ですが、オーストラリアでは、私たちのために働いてくれているのだから感謝しようという考え方が伺えました。また、オーストラリアには色々な人種の人がいます。そのため様々な国のレストランがあり、バスに乗っていても英語での会話が聞こえてこないこともありました。日本では、外国人が電車に乗ってきただけで周りから注目され、目立つ存在だと思います。オーストラリアではそのようなことは一切なく、外国人だからという理由で不快な思いをすることはありませんでした。またとても治安も良く、混雑もなく、住みやすい国でした。また訪れたいです。

ニューサウスウェールズ大学短期語学研修を終えて

文教育学部　言語文化学科
２年　滝口真理子

授業内容

主に英語のスキルアップのためのプログラムで、英語を話す・聞くことに焦点を置いた、自ら実際に用いることが特徴的な授業でした。またオーストラリア文化を始めとする異文化理解に関する授業もあり、英語というスキルを利用して自分の視野を広げられるような充実した内容の授業でした。

課外活動

授業が午前中に終了し、週末は自分の時間を持てることから色々な場所を訪れることが出来ました。オーストラリアを知ることが出来、同時に学校で仲良くなった他国籍の友達、ホストファミリーとより仲を深められる良い機会になったと思います。

・NSA という大学のサークルへの参加

日本文化に関心を持つ外国人学生の集まったサークルで、花見等のイベントにも参加できました。そこで特に仲良くなった友達が観光案内をしてくれて、その後に食事を一緒にし、今でも連絡を取り合えるような外国人の友人を作ることが出来ました。

・ゴールドコーストへの２泊３日旅行

夜も賑わう都市で人もお店も明るく、陽気な雰囲気が漂っていました。お店から音楽が流れ、フリーマーケットが毎夜開催されていて、オーストラリア版の眠らない街だと感じました。自然に恵まれていて海の色も鮮やかでした。多くの外国の人が訪れるからか、日本食・タイ料理・イタリアンといった多くの国のお店があるのが特徴的でした。

・ブルーマウンテンの大自然

訪ねるのに２時間近くかかる、オーストラリアの内陸の方にありますが、それでも訪れる価値はあると思います。どこまで続いているか分からないほどの雄大なユーカリの森の中や、急斜面の切り立った崖を徒歩で進んでいくというのは、思った以上に体力を消耗しましたが、それ以上に自分の手足で直に自然と触れることが出来る、ある種の非日常的な経験と達成感を得られる良い機会となりました。日本とはまた異なるむき出しな感じの自然を満喫できると思います。

・オペラハウスの魅力

オペラハウスは世界遺産として名高いですが、外観を楽しむだけでなく、ツアーに参加してガイドさんの説明を受けながら、１つのユーモア溢れる建造物の知識を深めるのも面白いと思います。オペラハウスを巡る人間ドラマも聞いてて楽しかったです。私は結局達成できませんでしたが、値段は張るものの、オペラハウスでオペラを始めとする催し物に参加することをお勧めします。

ホストファミリーとの生活とオーストラリアでの生活

私はこの短期研修で、ホストファミリーから多くの文化の違い、そして自分の日本人としての客観的な視点を得ました。一緒に生活を共にすることで大変な時もありましたが、それを含めて全てとても良い経験でした。

ホストマザーはブラジル人でホストファザーはポルトガル人であったため、２人ともある程度の英語は話せるものの家の中ではほとんど皆、ポルトガル語で話していました。私には英語でみんな話しかけてくれましたが、話についていけず、何故皆が笑っているのか分からなかったので、ポルトガル語の勉強、第３言語を少しでも話せるようになることが必要だと痛切に感じました。

特に最初戸惑ったのは、自分の意見を明確に主張することでした。自分の意見を言わないと、極論、何でもいいので言葉にして、自分という存在をアピールしないと生きていけないと強く感じました。ホストマザーとファザーが最初、言い合いをして喧嘩しているのかなと思ったことがあったのですが、それは喧嘩ではなく、意見の言い合いであるとだんだんわかるようになりました。

食事中は本当に騒々しいと思うほどに、皆がかぶせてしゃべるので最初は圧倒されすぎてあまり話せませんでしたが、黙っていることが最もしてはいけないことだと分かったので、割って話せる術を身に付けました。（日本では嫌われますが…）

オーストラリアはいい意味でも悪い意味でも本当に自由で開放的なので、日本との違いが感じられました。主流交通機関がバスだったのですが、バスストップのボタンがすべて壊れていて、バスが止まってくれずに乗り過ごしてしまった時もありました。先生が朝ご飯を食べて来られなかったのか、教室の中で授業をしながら朝ご飯を食べていた時もありました。色々違った雰囲気を味わえたからこそ、自分の視野も考え方も価値観も色々な刺激を受けて、広げられたように感じます。本当に行くことが出来て良かったです。

UNSW 研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
１年　西川未由

語学学校での授業

UNSW の語学学校では、習熟度別に 20 人程度のクラスに分かれて授業を受講しました。クラスには日本人の生徒が多かったのですが、私たちのように短期研修ではなく、長期研修で来ている人もいて、良い刺激になりました。また、私が今後大学で専攻したいと思っている分野を終えた、中国から来た留学生が同じクラスにいて、専門分野についての情報を交換することもできました。日本と中国という距離的には近い国ではあるけれど、一つの職業や学問分野を取ってみても、国によって違いがあるんだなと実感し、語学学習だけではなく、専門分野の学習についてのモチベーションも向上しました。

授業内容に関しては、文法事項などを扱うことが多く、高校で習った内容の復習のような印象を受けました。しかし、1 ヶ月間、週に 5 日、英語だけの授業を受けるというのは、とても新鮮で、貴重な経験でした。特に私は普段大学で英語を専攻しているわけではないので、毎日英語の授業のみを受けるというのは、日本ではできない経験だったと思います。また、授業の内容に関して、発音やアクセントなど、いわゆる受験英語ではあまり重視されていない部分にも、日本の英語教育よりも多くの時間が割かれていたと感じました。このことにより、改めてこうした分野の重要性がわかり、今後の語学学習の指針になったと思います。

ホームステイに関して

私のホームステイ先は、ホストマザー1 人でしたが、研修の前半 2 週間はペルーからの留学生が一緒に生活していて、同じ部屋の二段ベッドで寝ていました。最初は見知らぬ留学生と同じ部屋で暮らすのはとても緊張して、うまくやっていけるか不安だったけれど、彼女はとても親切で、私とホストマザーの意思疎通がうまくいかない時には、サポートをしてくれて、非常に心強かったです。

ホームステイ先では、自分の身の回りのことは基本的に自分で行っており、洗濯等も自分で行っていたため、少しではあるけれど、生活の自立につながったと思います。

ホームステイ先で困ったことは、オーストラリアは水不足の問題が深刻なため、洗濯は週に 1,2 回しかできなかったので、服が足りなくなってしまったことです。もっと多くの服を持って行けばよかったと思いました。この他にも、ホームステイ先での生活では、生活習慣や、文化の違いを痛感することも多かったのですが、ホームステイでしか経験でき

ないことをたくさん経験でき、英語能力の向上という点以上に、自分の成長につながったと思います。

日常生活に関して

シドニー市街は日本とは全く景色が違うので、一人で移動していると迷ってしまうことが何度かありました。これは人に聞くしかないと思ったけれど、普段人見知りの私は、日本でもいきなり知らない人に道を聞くなどということはやったことがなく、なかなか聞けずに躊躇してしまっていました。しかしどうしようもなくなり、勇気を出して、答えてくれそうな女性に尋ねたら、少し戸惑いながらも、親切に接してくれ、なんとかたどり着くことができました。話しかけるまでは、通じなかったらどうしようなどとマイナスなことばかり考えていましたが、実際話しかけてみると、拙い英語でも一生懸命理解しようとしてくれて、親切に対応してくれたので、もっと早く誰かに話しかければよかったなと思いました。

このように、外国で生活していく上では、もちろん語学能力が優れているに越したことはないけれど、それ以上に、もっと大きな声で話すことや、積極的に話そうとすることなど、いわゆるコミュニケーション能力の方がより大切だということが改めてよくわかりました。結局私は研修の最後まで現地の人と流暢に会話することができるようにはならず、知ってる単語を必死に話して、何とかわかってもらうというレベルのままでしたが、以前よりも少しではあるけれど積極性が増して、初対面の人と話す時も、今までよりかは緊張しないかなと思えるようになったと思います。

終わりに

今回一ヶ月という期間でしたが、実際に海外に行ってみて、オーストラリアという国の良いところ、悪いところが、4,5 日の旅行ではきっと分からなかっただろうなというところまでわかった気がします。また、それと同時に、日本の良いところ、悪いところに関しても、新たな認識が生まれて、もちろん海外には日本にはない良いところがたくさんあるけれど、一方、住み慣れた日本という環境の良さも実感しました。留学から帰ってきて、しばらく日本で暮らしている中で、今までは特になんとも感じていなかったものが、オーストラリアとは違う点だなと改めて気がつくことも多く、当たり前が当たり前でなくなりました。これから、日本で暮らしている中で、今までとは違う視点で物事を見ることができるようになり、今後の進路を考える上でも貴重な経験になったと思います。

ニューサウスウェールズ大学短期研修 報告書

文教育学部　言語文化学科英文コース
２年　矢野絢奈

8/6~9/6 の１か月間、オーストラリアへ留学に行った。留学に行くのは高１の際のイギリスにつづいて２度目だったが、今回は初めてホームステイを経験したこと、また同伴の先生方などがいなかったことで、より自立した、そして現地の人々と密接にかかわる４週間となった。これから大きく３つの項目に分けて研修を振り返っていこうと思う。

○学校について　語学研修として、ニューサウスウェールズ大学附属の語学学校でジェネラルイングリッシュの授業を受けた。一週間のうち、月・火曜日を Madison 先生、水～金曜日を Liz 先生が担当してくださった。Madison は俳優業をやっている愉快な男の先生で、いつも冗談を言って小芝居をして私たちを笑わせてくた。彼の授業ではイディオムを勉強し、ロールプレイングゲームで会話の練習をし、メディアスタディーといってビデオや歌を使ったディスカッションをした。メディアスタディーでは Madison 自身が出演しているテレビ番組なども見せてくれて、とても盛り上がった。一方、Liz はスコットランド出身のチャーミングなおばあちゃんで、いつも自分の人生経験について楽しそうに語ってくた。Liz の授業ではテーマ自由のプレゼンテーションやティーチミーという担当の生徒が自国の文化を紹介するもの、それに毎回トピックが決められたライティングなどをやった。Liz はいつも一人ひとりの発表や提出課題に対して丁寧にコメントをくれる。ライティングは一文一文見て訂正したり、別の言い方を教えてくれたりして本当に役に立った。またプレゼンの時には、緊張してあまり満足いくような発表ができず発表後落ち込んでいる私に、励ましの言葉と的確なアドバイスをくれて、とても勇気づけられた。加えて私は、２人の先生方はもちろん、クラスのメンバーにもとても恵まれていた。クラスには日本人に加え中国人、韓国人、それにコロンビアやチリ、オマーンなど、様々な国から来た生徒がいた。彼らは自国のユニークな文化や食生活について教えてくれて、どれも興味深い話ばかりだった。また、日本人は文法や長文読解は得意だが、英会話となると奥手な一方、ほかの生徒たちは文法構造が不確かで、文章を読むのが苦手だったが、どんどん英語を使って話そうとする姿勢を持っていて、それがとても良い刺激になった。多少間違っていても身振り手振りを使ったり、簡単なことばに言い換えたりすることで言いたいことは伝えられることが分かり、研修期間後半は特に自分からも積極的に話しかけられるようになった。また、特に私が出会えてよかったと思うクラスメイトに中国人の Claire がいる(写真右)。Claire は私より年下にも関わらず、すでにオーストラリアの大学で服飾やデザインについて学びたいとしっかりビジョンがあり、その準備期間として語学学校で英語を学

↓卒業セレモニー後、クラスメイトと Madison 先生と

んでいた。Claire には学ぶことが多く、例えば私と彼女がどちらもプレゼンテーションの担当だった日に、私が「プレゼンは準備が面倒だし緊張してしまうから嫌いだ」と言うと、彼女は「クラスのみんなが自分の話に耳を傾けてくれる機会があるなんて幸せじゃない？私はプレゼン大好きよ」と返してきて、思わずハッとさせられた。彼女の考え方はこんな風にいつもポジティブで、ネガティブになりがちな私にとってとても新しく、刺激的だった。

○シドニー観光　平日の放課後や土日にはシドニーの様々な場所を訪れた。その中でも印象に残ったスポットをいくつか記しておこうと思う。

〈ブルーマウンテンズ国立公園〉　世界遺産にも登録されているグレートディヴァイディング山脈の一角。壮大な山々、滝や巨大な岩、珍しい鳥など自然を楽しみながらハイキングができる。所々にかなり急な坂や、いつ終わるかわからないような階段もあるが、それもまたスリリングで面白かった。別途料金はかかるがロープウェイなどに乗って景色を楽しむこともできる。

〈ボンダイビーチ・クージービーチ・マンリービーチ〉　ボンダイにはボンダイジャンクションと呼ばれるバスターミナルがあり、その周辺にはデパートやフリーマーケットもあってショッピングを楽しむことができる。そこからバスで少し行ったところにあるのがボンダイビーチ。近くにある ANITO というジェラート屋さんが本当においしくて２回行ってしまった。クージービーチは大学から近く、BBQ やビーチボールもできるためクラスメイトと一緒に行った。若者が多く、寝っ転がってピクニックを楽しんだり、音楽をかけながらスケートボードをしていたりと、現地の大学生の休日を垣間見た。マンリービーチは少し市街地から離れており、シティからフェリーに乗って行った。景色をフェリーのデッキから楽しむことができる。ビーチは横に広く、海水浴場という感じで、冬にもかかわらずたくさんの家族連れがいた。近くには人気のフィッシュアンドチップスのお店がある。

〈フェザーデイルワイルドパーク〉　コアラ、カンガルーといったオーストラリアを訪れたら見ておきたい動物たちが一度に見られる。特に無料でコアラに触れたり、ツーショットを撮ったりすることはこのワイルドパークでしかできないと思う。コアラは食べているか寝ているかで、動物園などでは寝ているコアラにしか会えないこともあるが、ここでは常に起きているコアラに会うことができる。また、時間が合えば餌やり体験や爬虫類との触れ合いもでき、大満足の内容だった。このように、今回の１か月間の留学では、ただ英語を学ぶだけでなく、現地の文化や生活様式にも触れることができ、新しい発見がたくさんあった。最初は非日常の環境に馴染めなく、戸惑うことも多かったが、終わった後は本当に行ってよかったと思える充実した滞在となった。留学に行きたいがどこに行こうか決まっていない、といった人にはぜひお勧めしたい UNSW 研修であった。

研修参加者からのアドバイス

１．出発前

- スーツケースの重さの確認と帰るときのことまで考えた荷造りは大切。わたしはスーツケースとボストンバッグで出発したが、ボストンバッグでショートトリップに出ることもできたし、帰りにお土産増えても困ることがなかった。
- ホストファミリーへのお土産はあらかじめこういうものにしようと決めていても、いざ買いに行くと値段、サイズ、相手の反応がどうかなど考えて意外に時間がかかるので、余裕を持って選びに行くのがよい。
- 常備薬は必ず持って行った方が良い。
- 出来るならば、ポケット Wi-fi をレンタルして持って行った方が、道に迷った時に役に立つ。（ホームステイ先の周りには店があまりなかった。）
- オーストラリアは水不足のため、洗濯は週に 1，2 回しかできなかったので、洋服は多めに持って行った方が良い。
- オーストラリアは季節が逆なので、色々と引っ張り出さなくてはいけないです。早めの準備をおすすめします。
- クレジットカードを初めて持つ場合は日本で一度使ってから行った方が安心だと思います。
- 自分が行ってみたい場所リストを作っておくといいと思います。また交通機関がもしバス、電車が主流であった場合、IC カードがあるかどうかなども調べておくといいと思います。
- クレジットカードを海外で用いることができるかよく確認しましょう。
- 英語力を高める努力を行く直前まですることを薦めます。

２．授業

- 9:00-13:30 と短い授業時間なので、リスニング能力が足りないと感じたら、授業時間以外での自習で補うと良いかもしれません。
- エッセイを書く場面があったので、宿題のために PC は持っていると便利。
- 意外と多くの国から色々な年代の人がいた。
- 授業はレベル別に分けられるので、授業についてついていけないということはないと思う。積極的に参加すると良い。
- 日本人が多い可能性もあるので、自分で外国人留学生に話しかける勇気をもっていてください。特に身構える必要性はありませんが、積極的に授業に参加しましょう。←授業への参加・態度という一つの成績の項目があるのですが、結構シビアです。）
- 電子辞書が必須です。

- 先生は授業後すぐにいなくなるので、質問は授業中にしたほうがよいです。

３．ホームステイ

- 正直言って、私のホームステイ先はあまりよくなかった。どこかへ一緒に出掛けることはほとんどなく、会話も必要最低限しか交わさなかった。特に食事の時は皆テレビを観ながら談笑している中、私だけテレビに背を向けた席だったので、黙って食べているばかりだった。私より１歳上の双子の娘がいたのだが、ほとんど構ってもらえなかった。他の生徒のステイ先も善し悪し色々あったようなので、どんな家庭に当たるかは運だと思った。
- 今回のプログラムではホームステイだった。寮での留学経験がないので、比較できないが、ホームステイは非常に良かった。良い英語の練習の場になると、わたしのホームステイ先には他の国からの留学生もいて、良い異文化理解の場になった。是非出会いに感謝してたくさん交流をはかってほしい。
- 生活の仕方の違いはどうしようもないので気にしないことがコツかなと思います。家のことを手伝うのがいいと思います。ありがとうと言ってもらえてこちらも気持ちよく過ごせます。
- 部屋に閉じこもらずに、積極的に話しかけに行くことはとても大切です。自分の意見や言いたいことは物おじせずにはっきり伝えましょう。返事があいまいだとかえって関係が悪化する場合もあるので。
- ホームステイは人によってかなり違うので、悪いところだった時や、友達の家が良かったとしても比べたりしないで、受け入れて楽しむべきだなと思いました。
- ステイ先の家のカギを忘れて、2 時間家の外で立ち尽くしたことがあった。
- ホームステイは運だと思う。でも、どんな家族にあたっても最低限のマナーは大事だと思う。自分から夕飯の手伝いを積極的にしたり、帰るときには１通メールするだけでも印象は変わると思う。

４．食事

- 基本的に肉や油が多いので栄養が偏りやすい。なので、サプリメントや水に溶かすタイプの青汁の粉など持って行くと良いかも。私はもともと貧血になりやすいので鉄分のサプリメントを持って行きました。
- 朝、夜はステイ先で出ますが、お昼は出ないので買う必要があります。オーストラリアにはマフィンがよく売られていて、おいしかったです。学校のカフェにあるマフィンは 4 ドルくらいですが、スーパーにいくと、大体１ドルで買えるので、スーパーはおススメです。（特にウールワースというスーパーは安い。）

- 「オーストラリア伝統」の食事というものはなかったが、どの国のものもあってどれもおいしかった。ミートパイとかキッシュとかオーブンを使ったものが特においしかった。チェーン店があまりない。外食は高め。
- オーストラリアの食べ物というよりは世界各国の料理が集まっているという感じで、困ることはなかったし、美味しかったです。ただ、食べ物にかかるお金が高いような気がしました。
- オーストラリアは寿司もあったり、とにかく色々な国の料理を味わうことが出来るので困ることはないと思います。ただ、オーストラリアは深刻な水不足であるため、500ml のペットボトルが日本円で約 300 円しますので、水筒を持参して、水道水を利用することをお薦めしいます。
- 朝夕はホームステイの家によってばらばらだが、わたしの家ではサラダもお米も毎日出たので特に偏った食生活になることはなかった。オーストラリアの食事に全体的においしく、困ることはないように思う。もし、日本食が恋しくなっても、おいしい日本食が食べられるお店もたくさんあった。

５．現地学生・地域住民との交流

- 積極的に自分で機会を作らないと交流は少ないです。
- お店では色々と話しかけてくれます。
- 集合住宅の他の住人とは日本よりもフレンドリーに話をしたような気がします。明るくあいさつすることを心掛けていました。
- UNSW のプログラムの中には、現地の学生との交流は含まれていないので、自分で行動しなくてはならない。NSA というｻｰｸﾙは日本に興味があったり、日本語を学んでいる現地の学生が所属していて、私たちはそのｻｰｸﾙと連絡をとって友達を作った。
- NSA という日本に関心を持った UNSW の学生が集まるｻｰｸﾙがあります。それに参加すること、イベントに積極的に参加することをお薦めします。「自分から」求めなければ外国人の友人を作るのは難しいと思います。

６．経済面

- 基本的にクレジットカードがあれば大丈夫ですが、現金をオーストラリアでおろす時、少量おろすことは出来ないので、最終日に近づいて来たら、注意してください。硬貨についていうと、小さい額の硬貨程、重くて大きいです。
- 物価は日本とそれほど変わらないと思う。(私が行った時は 1 ドル 70 円だったので、安く買い物ができた。)
- 日本よりずっとクレジットカードを使う文化が普及している。私も海外研修の前にはクレカ持っていなかったけれど、これを機につくったほうがよい。

- 私は 1 カ月で 4 万円をはじめに持って行ったのですが、交通費が思ったより高く（ステイ先が学校から遠かったこともあり）1 カ月 1 万 2，3 千円はしたので、クレジットカードは必須でした。

７．その他

- 行く時期によってはクラスに日本人ばかりで周りに日本人が多く、日本語をしゃべってしまうことが多い。という風になってしまうと、せっかく外国にいるのにもったいないので、日本人同士でも常に英語を使うようにすると良いと思います。
- 出先から交通機関を調べるのに Wi-fi はあったほうがいい！！シティから遠い場所でバスが 30 分に一本しかなくて、バス停に行くと 30 分待ちみたいなことがあった。Google map を使うためだけでもあった方がいい。(Vancluse というところでした)
- 学校での授業も勉強になりましたが、遊びに行ったり、ツアーに参加したりしたことがとてもよい経験になったと思います。ぜひ、空いている時間には出かけて、楽しんでほしいと思います。
- オーストリアは治安もよく、とても過ごしやすい国だと思います。
- オースラリアのバスは遅れてくることが 9 割ですが、たまに 1 分早く着いたりすると、定刻を待たずに行ってしまう場合があるので、時間に余裕を持って行くことをお薦めします。

UNIVERSITY OF CALIFORNIA
UC RIVERSIDE

カリフォルニア大学リバーサイド校

派遣者数 10 名

UCR での語学研修を終えて

文教育学部
４年　市原絵梨

〇授業内容

英語でのディスカッションやプレゼンテーション、アメリカの文化についての学習が主な授業内容でした。４人１グループで週末の出来事についてそれぞれ発表しあったり、アメリカの偉人について調べ、プレゼンテーションを行ったりしました。最終日には３人１グループで、滞在期間中に感じたアメリカの文化についてパワーポイントを使いながら発表を行いました。

〇課外活動

私たちのグループは毎日午後が課外活動の時間でした。また、希望者のみの参加ではありましたが、毎週末にオプショナルツアーが用意されていました。

・チャレンジコース（ハイコース）

大学のメインキャンパスの敷地内にボルダリングや木登りができる施設があります。そこで、生徒同士が協力しながら、ヘルメットと命綱を付けて登ったり、ぶら下がったりします。日本ではない施設なので、とても驚きましたが全員で協力して取り組むので、印象に残っています。

・ディズニーランド

日本にもディズニーランドはありますが、ここのディズニーランドは日本のものより待ち時間が少なく、キャラクターのグリーティングが多いことが特徴だと感じました。また、夕方から開放されるダンスフロアもアメリカ特有の文化であると感じました。ちょうど６０周年の年だったので、限定のショーを見ることができてとても良かったです。

〇カリフォルニアでの生活

私のホームステイ先は、留学生の受け入れが私だけだったので、本当にその家族の一員として迎えてもらうことができました。ホストファザーは仕事の関係で家にいないことが多く、ホストマザーも仕事をいくつも掛け持ちしていたので、ホストグランドマザーも送り迎えをしてくれたり、ご飯を作ってくれたりしました。また、ホストマザーは忙しい中でも私を博物館やショッピングモールに連れて行ってくれました。３週間という限られた期間での滞在でしたが、ホストマザーのおかげで多くの観光地を訪れることができました。生活する中では、カリフォルニアは砂漠地帯で常に水不足なので、シャワーも長く入ってはいけないと注意されました。市販のペットボトルの水なども値段が高く感じました。

また、ホストファミリーの住むモレノバレーはベッドタウンとして現在も成長している町なので、近くを走る電車などがなく、住民のほとんどが車で移動をしていました。そのため、平日の朝は高速道路が渋滞し、通勤、通学に時間がかかってしまう点は暮らしにくいとホストファミリーから聞きました。

日曜日には、教会に連れて行ってもらいました。私自身、カソリックのキリスト教系幼稚園に通っていたこともあり、教会に行ったことはありましたが、今回連れて行ってもらった教会はプロテスタントの教会で、バンドの演奏があったり、参加者が司祭に手を上げて賛同したりしていて、イメージと違い、驚きました。教会やキリスト教、また宗教全般についてホストファミリーと話す機会がありましたが、自分の英語力以前に宗教に関する知識が少なく、自分の意見を思ったように伝えられず、歯がゆい思いをしました。もっと多くのことについて学んでおくべきだと後悔しました。

UCR 夏期短期語学研修に参加して

文教育学部　言語文化学科
２年　大川絢香

授業内容

UCR での語学研修プログラムは平日の授業/アクティビティと土曜日・日曜日の希望制オプショナルツアーからなり，先生方や他校からの学生たちと活発に交流する中で英語力を実用的なコミュニケーションのレベルまで効率よく高めることのできる実り多い経験になったと思います。

平日の授業/アクテビティについて

午前中はレベル別で編成された 20 人程度の少人数クラスで，アメリカの文化や歴史，異文化理解に関するテーマを取り上げながらディスカッションやポスターあるいはプレゼンテーション発表を行いました。授業の進行から議論，ちょっとした作業のやりとりまで全てが英語で進められているという環境もあり，自分の意識しないうちに英語が口から飛び出てくるようになりました。クラスにもよりますが中国や台湾からの留学生も多くプログラムに参加しているため，休み時間などに英語を介して英語圏の文化のみならずお互いの文化観について相互理解を深めることができました。また，絞り染めやダンス，球技大会のようなレクリエーション活動などを中心とした日替わりのアクティビティが午後のプログラムとして組み込まれ，またその中でも Teaching Assistant や Peer Assistant（プログラム催行にあたりサポートしてくださっている同年代の現地の方々）と会話を交わし交流を深めることで，今まで不安を抱えていた Speaking や Listening 技能を無理なく伸ばすことができました。

オプショナルツアーについて

先に述べたように，土曜日・日曜日を中心として全 5 回の希望制オプショナルツアーが開催され，大型バスに乗ってロサンゼルス近郊の様々な場所を訪れました。店員さんと商品について会話したり，現地の人に地図を見せながら道順を尋ねたりと，様々な英語を実際に用いる必要のある場面も多く，実用的な英語を身に付けるよい機会となりました。また，オプショナルツアーでショッピングモールやユニバーサルスタジオ，カリフォルニア・ディズニーランドといったアミューズメント施設，サンタモニカビーチなど様々な場所へ足を運ぶ中で感じたのは，何より『見るもの食べるもの感じるもの，アメリカンなもの全てのスケールが巨大・膨大』ということでした。目的地へ向かう道中にそびえたつ岩肌がむき出しになった数々の山，レストランで頼んだドリンク，青くきらめくビーチの広さ，道行く人の多さ，購入した衣料品のサイズからアミューズメント施設の圧倒感まで、

留学前に調べて話には聞いていたものの，想像をはるかに超えるものでした。

ホストファミリーとの交流

今回留学するにあたって計画していたことがありました。お世話になるホストファミリーの方々に「相互」で「異文化理解」を深める，といった点から恩返しをしたい。そう考えていた私はホストファミリーの方々に日本文化を体感・理解していただくために，家庭のスケジュールも伺いながらではありますが様々なアプローチを試みました。お茶漬けや日本のおやつを振る舞ったり，英語で説明しながら一緒に折り紙をしたり，はたまた余った千代紙を台紙に持参した筆ペンで手取り足取り習字を体験していただいたり(写真は習字体験の際に撮らせていただいた写真です)。日本文化に関する質問をいただくことも多く楽しい会話も弾み，外国人の視点から自国の文化を捉えなおす有意義な時間になったと心から思います。また，今回滞在させていただいた家庭のホストマザーがイギリス・ロンドン出身ということもあり，英国調の家具に囲まれた部屋でチーズマカロニとシリアルを朝食に食べたりその後にモーニングティーを楽しんだり，とアメリカの家庭の文化と同時にイギリスの家庭の文化も体感することができたと思います。友好を深めた今となってはFacebookでおばあちゃんや娘さん，同年代のお孫さんとお互いの近況を報告しあっています。(投稿を見て時折あちらが恋しくなるほどです)

まとめに

今回プログラムに参加する中で私は大きな気づきを一つ得ることができました。グローバル化の進む社会で正しい異文化理解に基づいたコミュニケーションをとることの重要性です。実際私にとってはこの語学研修が初の海外経験となった訳ですが，今まで得た情報・知識により形成されていた多くの先入観が打ち砕かれる発見も多く，ニュートラルな視点で世界を捉えることの意義を再認識することができました。テロリズムや民族対立・紛争問題に紛糾する現代，そしてこれから，このような姿勢は極めて重要になってくるに違いありません。留学で得た学びを胸に，国際社会と日本をつなぐ架け橋として活躍できるよう，日々邁進していきたいと思います。

UCR IEP CAC Summer Program を終えて

生活科学部　人間・環境科学科
１年　岡﨑ほのか

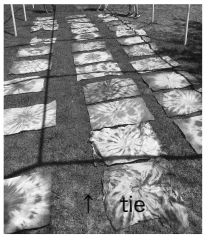
私のいた組では、午前９：００～１２：００が授業で、午後１：００～４：００がP.A（Program Assistant：UCRの学生ボランティア）主催のアクティビティだった。毎週末は追加料金で何かしらの観光ができるスケジュールが組まれていた。

授業内容

↑　授業の様子

全体を通して、American Culture を学ぶことが中心だった。その中で、毎日一回は前に出て発表する機会があり、ポスター発表やパワポを使ったプレゼンなどを行った。どの発表も５～１０分程度の短い発表で、準備時間は１日と少ない。大層なものはできないが、人前に出て、英語で発表することに慣れるという点では良かったと思う。発表する内容は、自分のホームステイファミリーや、アメリカの州や大統領について、また、グループで理想の島を作るというクリエイティブな内容のものもあった。最終プレゼンでは、3週間で学んだアメリカ文化についてグループごとに発表した。残念だったのは、私の組は全員日本人だったことである。真面目に日本語で話し合いをし、真面目に英語で発表をした。

アクティビティ



↑　tie

毎日午後は様々な活動をP.AやP.M（高校生ボランティア）たちとともに楽しんだ。アメリカの子が学校で必ず一回はやる tie dye や、バドミントンなどのスポーツ、ダンスなどをした。外は40℃で、ものすごく暑く、乾燥しているのだが、その中を20分くらい移動し、3時間外で活動する日もあった。どのアクティビティも日本では経験できないものだったので面白かった。この時が同世代のアメリカ人と英語で喋るチャンスなので、私は積極的に参加した。日本でならやらないようなことにも挑戦した。その時折々で生まれてくる会話のチャンスで、反応しかできない日も、数十分間独占状態で話せる日もあったが、おそらく１日の使用言語の割合は日本語の方が多くなってしまう状況にもかかわらず、英語での会話の方がかなり集中して喋っているため、その一回一回がものすごい自分の栄養になっている気がした。うまく喋れなくて悔しい思いもたくさんしたが、とても楽しい時間だった。

Optional trip

研修が始まってからこの optional trip の存在を知ったのだが、すべての土日に観光ツアーが予定されていて、料金を支払えば参加できる。例えば、ディズニーランドやユニバーサルスタジオに行ける。私は、どの trip もホームステイファミリーに勧められたので、すべての

trip に参加した。完全に観光ツアーであり、この日は英語を使うことはあまりないが、週末に有名な観光地をほぼ網羅できたので大満足だった。印象に強いのは Hollywood で、日本で一番クレイジーな街を渋谷とすると、それをはるかに超えていた。人口密度が尋常ではなく、加えてスリも多いため、神経が立ってしょうがなかった。

ホームステイ

人生初のホームステイであったので、ファミリーとの初対面の瞬間が一番緊張した。しかし、私がお世話になった夫婦はホームステイ受け入れの常連さんで、日本人に慣れっこであったため、非常に居心地が良かった。車での送り迎え、洗濯、食事の準備、すべてを毎日欠かすことなくやってくれた。食事は国の文化が最も表れやすいところだと思う。野菜がとにかく少なく、小麦が多かった。しかし、どの食事も美味しかった。一番美味しかったのは、マッシュポテトとクリームパスタである。どちらもソースの味付けがたまらなかった。レシピを聞けばよかったが、聞きそびれてしまった。今度メールで聞いてみようと思う。

だいたい夕飯は 7 時までには終わり、そのあとはテレビを見る時間だった。ここが一家団欒の時間だったので、家族の時間を邪魔しないように、私も一緒にテレビを見たり、時々喋ったり、時には部屋に戻って宿題をしたり休んだり自由にしていた。私たちのお世話はほとんど奥さんがしてくれたのだが、気持ち良く 3 週間を過ごしてほしいという思いが強く、日本食が恋しいと私たちが言えば、すぐに用意してくれた。マルちゃんのカップラーメンが出てきたときは驚いた。日本より味が薄かった。

全体を通して

はじめは、英語でなんとかコミュニケーションを取ろうとしても、すぐに表現が思いつかず会話に詰まってしまうことが多かった。また、日本語の癖として、目的語が先に口から出てしまっていた。実際、単語の羅列でも言いたいことは伝わったが、3 週間、毎日毎日、英語でしゃべっていたら、簡単な事はスムーズに話せるようになった。特に日本に帰る日に、ホストマザーに冗談を飛ばせたことは大きな自信につながった。英語では母国語のようにどうでもよい事が簡単に言えないため、どうしても口数が減ってしまう。そのため、相手からしたら私たちの一言が非常に大きな効力となってしまう。軽いつもりで感想を述べただけなのに、次の日にはその感想が相手の反省として改善されていた時はとても驚いた。会話というのは本当に難しい。今後の自分の英語学習の指針として今回思ったのは、これまでほぼ受験のためだけにたくさんの熟語表現や慣用句を覚えたが、それらがどれだけ口からすぐ出せるほど頭に染み込んでいるかが重要だと思った。また、毎日英文を読んでいる人にはかなわないとも思った。たった 3 週間ではあったけれども、本当に楽しい語学研修だった。これからもこの 3 週間の経験を大切にしていきたい。

UCR 夏季短期留学を終えて

理学部　物理学科
３年　田中陽子

授業内容

アメリカ文化を主題としたプレゼンテーションをする際の文章構成、英語表現を学びました。１週目はホストファミリーへインタビューしたことを個人で発表しました。２週目はアメリカで有名なリーダーだった偉人について４人グループで発表しました。３週目はアメリカに来る前と過ごしてみたあとの考え方の変化についてそれぞれの視点でまとめて、３人グループで発表しました。

課外活動

生徒はほとんど日本人しかいなかったので、授業中も含めてほとんど日本語での生活でした。しかし、グループ担当の現地の生徒の女の子と仲良くなれて、たくさんコミュニケーションをとれてよかったです。平日の午後は大学での課外活動。週末は様々なところに大学のオプションとして行きました。

・　タイダイ

白い枕カバーに好きな色をかける染め物をしました。タイダイ模様のＴシャツを着ている現地の人を見て、タイダイがアメリカ文化であることを初めて知りました。タイダイ自体はわたしにとってはとても難しかったです。

・　ロサンゼルス観光

サンタモニカビーチ、ハリウッド、ファーマーズマーケットを１日で回りました。とにかくどこも色んな人種の人がいてアメリカのマルチカルチャーを実感しました。

・ スーパーマーケット

なにもかもが大きいし量が多くて、さすがアメリカだなと思いました。

アメリカでの生活

大学から車で 10 分離れたところにある家で、お茶大生の子と２人でホームステイさせていただきました。普段はホストマザーだけしかいなくて、大学への送り迎えや食事の世話はほとんど全てホストマザーにしていただきました。生活する前はもっと家族で食卓を囲み、ジャンキーフードがたくさん出てくると思っていました。しかし、一緒にホームステイした子と２人で食べることが多く、量も多すぎるわけでもないし、思っていたよりハイカロリーなものは出てきませんでした。大学が終わってからは、すぐに家に帰ることが多く、たまに映画を見るくらいで課題をやる以外は特になにをするでもなく過ごしていました。

感想

授業については、まずアメリカ文化を考える前に日本の文化について考えたときに、特になんの意見も持っていないことに痛感しました。そして、英語力については、とにかく自信がないから話さないのではなく、話そうとすることが大切なのだなと思いました。ただ、先生はどんなにカタコトな英語でも聞き取ってくれるけど、ホストファミリーにはどうしても伝わらない発音があって、改めて発音の大切さを感じました。

UCR 短期語学研修を終えて

生活科学部　人間生活学科
２年　戸田晶

8/8～8/26 の間、University of California Riverside (UCR)が主催する Conversation & American Culture (CAC) プログラムを受講しました。このプログラムには、他の大学からも多くの日本人大学生や台湾の生徒が参加していました。20 人１グループに分かれて課外活動や英語の授業を受けました。

アクティビティ

私たちのグループは午前にアクティビティを行いました。毎日違う活動を行うのですが、どれもアメリカ文化に根差した活動となっていました。グループのみんなで協働しながら、多くのアメリカ文化に触れました。中でも、アメリカではポピュラーとなっている Tie Dye という絞り染め体験やみんなで楽しく踊ったズンバダンスは、初めての経験だったこともあり、とても貴重な経験となりました。また、UCR Scavenger Hunt というアクティビティでは UCR 全体を、与えられた課題をクリアしながら探索しました。左上の写真はその時のものです。アクティビティ中は、3,4 人の現地の学生たちが私たちをサポートしてくれ、さらに空き時間には会話をしてくれたので、英会話の上達に役立ちました。これらの午前の活動では、自分たちで実際に体を動かしながら身をもってアメリカの文化を体験することができ、異文化理解へと大きく繋がる機会となりました。

クラス

午後は教室で授業を受けました。もちろん、授業中はすべて英語です。アメリカの基本的な知識を身に付ける課題に取り組んだり、スピーキングに必要な知識の習得に取り組んだりをしました。さらに、英語でのプレデンテーションもたくさん行いました。たとえば、ホストファミリーにインタビューを行い、それを各自英語で発表をしました。また、4 人１グループに分かれてグループディスカッションを行ったのちにプレゼンテーションをするといった活動が何回かありました。日本人同士だとついつい日本語を話してしまいがちになりますが、クラスの半分は台湾からの学生だったので、自然と英語でコミュニケーションをとるようになりました。プレゼンテーションの準備中に、クラスメイトに英語で伝えたいことを伝えることの難しさを痛感しました。自分の語彙力の低さをひしひしと感じながら、日々、英語で会話をすることに奮闘しました。

ホームステイ先の家族との生活

大学から車で15分ほど離れた隣町にあるファミリーの家にホームステイをさせていただきました。とても優しくあたたかいファミリーに恵まれ、ホームステイ中の生活は何一つ苦なく過ごせました。ホストファザーは愛情に溢れた人で、いつも私とコミュニケーションを取ってくれました。また、マザーはいつも美味しいご飯とお弁当を作ってくれてご飯には困りませんでした。2歳の男の子もお家にいて、一緒に公園に行って遊んだりしました。また、ファミリー同士の会話を聞くこともリスニングの勉強になりました。聞き取れないことばかりでしたが、ネイティブ同士の会話を聞くのは、新鮮で、勉強になる機会だと感じました。しかし、ホームステイをさせていただいた中で、驚いたことが二つありました。一つは、家族みんなで一斉に食事を取らないことです。ご飯ができると各々が好きにご飯を盛り、好きなところでご飯を食べ始めます。それはキッチンであったりリビングであったりソファの上であったり。日本のように家族みんなそろってご飯を食べる習慣がないということが驚きであり、アメリカの文化なのだと感じました。二つ目は、ゴミの分別をほとんどしないことです。リサイクル可能なペットボトルを除いては可燃ゴミも不燃ゴミもすべて同じゴミ箱に捨てていました。日本がどれだけ環境を意識していて、分別が進んでいるのかを理解しました。

まとめ

今回のプログラムに参加して、自分の考えや世界観が大きく変化しました。３週間という短い間の語学研修ではありましたが、異文化理解には十分に適した期間であったと感じます。同世代のネイティブの人たちと会話をすることは、とても刺激になりました。３週間、英語に触れ続けることで、英語を聞くことや話すことに萎縮することがなくなりました。自ら積極的に英語を話すことができるようになりました。しかし、周りには日本人学生がたくさんいます。いかに積極的にネイティブの学生に自分から話しかけるかが問われました。日本人は消極的で、あまり自分から話をせず、また確固とした自分の意見を持っていないという側面があるかと思います。それに対してアメリカ人や中国人はきちんと自分の意見を持ち、ハキハキと話をします。日本人も彼らのその姿勢を見習うべきだと強く感じました。英語力以前に、積極的に話をしようとする態度が必要だと思います。この研修では積極的に話すこと、自分の意見を持つこと、自分の狭い価値観に囚われないことの重要さを学ぶことができました。

カリフォルニア大学リバーサイド校

人間生活学科　生活科学部　生活文化学講座
２年　三宅真未

・授業内容

午前中は各クラスに分かれて授業を行いました。アメリカの文化について理解を深めることが目的とされていて、週に二回ほどプレゼンテーションの発表がありました。また、午後からはアクティビティを行いました。ボーリングやヒップホップ、ズンバなどをPA（クラスごとのアシスタントで現地の学生）の方々と一緒に楽しみました。ただ、クラスは日本人ばかりで、かなり驚きました。

・課外活動

週末にはOptional Tripとして、ロサンゼルスツアー、ベニスビーチ、カリフォルニア・ディズニーランド、ユニバーサルスタジオ、アウトレットストアの中から行きたい場所を選んで参加することができました。私はベニスビーチ以外全て参加しました。ベニスビーチに行かなかった日は、ホームステイ先のファミリーがArrowhead Lakeという、山の中にある湖へ連れて行ってくれました。山のかなり高い所まで車で登り、景色が綺麗で感動しました。また、ファミリーと一緒に外出することで、会話が弾みコミュニケーションをたくさん取ることもできたのでとてもいい思い出になりました。

・ホームステイ

今回初めてホームステイをしましたが、本当に貴重な経験となりました。アメリカでの日常を知り、カルチャーショックを受けることも多々ありましたが、自

分には新しいことばかりでとても刺激的でした。ホストマザーは毎日車で送り迎えをしてくれたり、食事を用意してくれたり、スーパーなどに連れて行ってくれたりと、本当にお世話になりました。私の英語が拙いのにも関わらず、一緒に会話をしてくれました。別れる時はとても寂しかったです。次は英語をもっと上達させてまた会いに行こうと思いました。

・まとめ

今回の経験を通して、新しいことに出会う楽しさを知ることができました。色んなバックグラウンドを持つ多くの人とコミュニケーションを取ることがこんなにも楽しいのかと思いました。そしてそのように感じることで、英語に対する意識もかなり変わりました。英語は色んな人とコミュニケーションを取るために必要なツールであり、私はそれを手にしたいと思うようになりました。英語を勉強“しなければならない”という意識から英語を勉強“したい”という意識へと変化したことは私の中で大きな一歩であり、今では長期の留学も考えています。このプログラムに参加して本当に良かったです。自分の知らない世界を知ることは、自分の視野を広げてくれます。新しいことに出会う楽しさを、今回の経験が教えてくれました。

カリフォルニア大学リバーサイド校の研修を終えて

理学部　数学科
１年　山崎理恵

授業　9：00～12：00 までの午前の授業は、クラスの中で 4 人組になって与えられたテーマについて調べて発表するという内容でした。最初の週は新たに知った単語について、2 週目は自分の住みたい夢の島について、3 週目はアメリカの州についてです。最後の授業では個人個人で、今回の研修で学んだことや自分の国との文化の違いなどのプレゼンテーションを行いました。1：00～4：00 までの午後の授業は、アクティビティでした。TieDye という染物を作ったり、映画を見たり、ボーリングをしたりしました。アクティビティで 1 番辛かったのは、UCR の校内ツアーです。カリフォルニアの夏の昼は予想以上に暑く、外に立っているだけでも辛かったです。でも、校内はびっくりするほど規模が大きくて、学生のほとんどが校内をスケートボードで移動していました。最終日には、卒業式がありました。

ホームステイ　私は、お茶大の２年の福田さんと同じホームステイ先でした。家には、プールやブランコのあるお庭がありとても広かったです。家族構成は、ホストマザーと息子と娘の 3 人でした。家には住んでないけど、もう 2 人娘がいるそうです。朝はバナナやワッフルを自分たちで食べ、昼はホストマザーが用意してくれるサンドウィッチにポテトチップ、夜はハンバーガーやタコス、ピザなどを食べました。アメリカでは、昼の弁当はサンドウィッチにポテトチップなどのお菓子を食べるのが普通なのだと知り、アメリカと日本の食文化の違いに触れることができました。日曜日は、ホストマザーが私たちを教会に連れて行ってくれました。私たちが行った教会は近所のこじんまりとした教会だったのですが、入ってみるとバンドの人が演奏しているのに合わせてみんなが歌っていました。私は何度か教会に行ったことがあるのですが、バンドに合わせて歌う教会は初めて見ました。そこであった在日アメリカ人の 80 歳くらいの女性の方といろんなお話をしました。また休日にはホストマザーのお孫さんが来て一緒に家にあるプールで遊んだり、ホストマザーがかっている犬と遊んだりしました。

休日　最初の週の土曜日は、ロサンゼルスのツアーに行きました。リバーサイドからロサンゼルスまではバスで 2 時間くらいの距離でした。最初にサンタモニカビーチに行きました。海で少し遊んでから近くのショピング街をぶら

ぶらしました。次にHollywoodに行きました。この場所での滞在時間が1時間くらいしかなく、有名なロゴだけ見て帰りました。最後にファーマーズマーケットに行きました。高級ブランドのお店がたくさんあるような場所でした。ここでホストファミリーにチーズを買って帰りました。２週目の土曜日には、ディズニーランドに行きました。日本のディズニーランドと乗り物は結構同じでした。日本との違いは、バッジが無料でもらえる事とお城がかなり小さい事です。最後には花火のショーを見て帰りました。2週目の日曜日は、ユニバーサルスタジオに行きました。大阪のユニバーサルスタジオとハリーポッターなどのアトラクションはかぶっていましたが、ミニオンやマミーなどかぶっていないものがたくさんありました。1番印象に残ったのは、実際ハリウッド映画などが撮影されている場所をツアーしてくれる「ワイルド・スピードスーパーチャージ」です。撮影された場所を見ながら実際の映画のシーンを見れたり、3D メガネをかけて乗り物に乗ったりする1時間半のツアーでした。

授業外　違う家のホストマザーが、2日くらい学校を休んでロサンゼルスに連れて行ってくれました。1日目は、まずビバリーヒルズというハリウッドスターなどの家がいっぱいある街に行きました。大きくて綺麗な家がたくさんありました。次に、UCLAという大学に行きました。UCRとはまた雰囲気の違う規模のでかい大学でした。そこでUCLAパーカを買いました。2日目は、THE BROADという現代美術館に行きました。この美術館は無料なので入るまでの行列がすごかったです。いろんな面白い美術作品がありました。次に、エンデバーという実際過去に飛行したロケットが展示されている、カリフォルニアサイエンスセンターに行きました。プラネタリウムや水族館などもありましたが、1番よかったのはエンデバーでした。

まとめ　日本との文化の差を1番感じたのは食べ物です。自分が思っていた以上にアメリカ人はハンバーガーを食べていました。米などの日本食がとても恋しかったので、次留学するときは日本食を持っていこうと思いました。また、日本に無いチップという制度にも驚きました。600円だと思っていたアイスが800円になっていたのをみてチップというものに気付きました。それとカリフォルニアでは、昼と夜の気温差が大きく着るものに困りました。アメリカ人は日本人と違ってとてもフレンドリーでした。お店の人やレジの人が“How are you?”　や“Have a good day!”　と話しかけてきたりしました。大学では、思ったよりも日本人が多かったです。8割くらいが日本人でした。私のクラスにおいては全員日本人だったので日本語を使う機会が多かったのが少し残念でした。

リバーサイド校での研修を終えて

文教育学部　言語文化学科　日本語・日本文学コース
２年　吉村麻希

研修内容

学校は月曜から金曜の 9 時から 16 時までで、午前中にアクティビティを３時間、午後に授業を３時間行いました。午前中のアクティビティーでは、UCR メインキャンパスの見学や、ダンス・スポーツ、映画鑑賞などをしました。午後の授業では、アメリカの文化を学びました。具体的には会話表現を学んだり、アメリカの習慣や歴史、また日本とアメリカ文化の共通点・相違点についてのプレゼンテーションを何回かしました。プレゼンテーションは個人でやるものとグループでやるものがあり、グループプレゼンテーションでは台湾からの留学生と英語でコミュニケーションをとって話し合いを進めていく必要がありました。普段人前でプレゼンをする機会が多くない私にとってそれらの体験は新鮮であり、大変ではありましたが学ぶことも多かったです。

休日

土日は授業がなかったのでオプショナルツアーに参加したり、ホストファミリーに教会に連れて行ってもらったりしました。

・ ロサンゼルスツアー

リバーサイドはロサンゼルスから少し離れたところにあったので、バスでサンタモニカビーチ、ハリウッドなどを巡りました。ロサンゼルスは私の思い描いていたアメリカのイメージそのままでとても楽しかったです。遊園地でアトラクションの待ち時間の短さに驚いたり、お店で売っていたお菓子がとても大きくて日本との違いを感じたり、普段の授業やアクティビティではなかなか知ることのできないアメリカ文化を体験しました。

・ 教会

ホストファミリーが日曜日に教会に連れて行ってくれました。私は中学生の頃日本の教会に通っていたのですが、アメリカの教会は日本の教会と雰囲気も違ってバンドで歌を演奏していたり明るい雰囲気でした。

・ ディズニーカリフォルニアアドベンチャー

カリフォルニアのディズニーは、ディズニーランドとカリフォルニアアドベンチャーの

二つに分かれていましたが、私はアドベンチャーに行きました。日本と違う点も多くてとても楽しかったです。

アメリカでの生活

大学から車で 15 分ほどのところにホームステイしていました。朝食と昼食は自分で作り、夕食はホストファミリーが作ってくれることになっていました。アメリカは水不足なので、食器洗浄や洗濯の回数が限られていましたが、工夫することでなんとかなりました。そしてアメリカは湿気はないですが昼間はとても暑く、夜は肌寒かったです。ただ屋内は冷房がとても効いていたので、水分をたくさんとったり、上着を持って行ったりして寒暖調節ができるようにしていました。

まとめ

今回の研修を通じて私が学んだことはアメリカ文化と日本文化の差は私が思っているほど大きいものではなかったということです。留学に行く前に私は「言葉が違えば、文化も異なって物事ひとつひとつに対する考え方も私たちとは大きく異なるのではないか」と思っていました。しかし実際にホストファミリーや TA の学生と話してみると、日本とアメリカで共通していることも多く、たいていの日本の文化や考え方は受け入れてもらえたし、単語が多少わからなくても「伝えたい」という意志が強ければ会話できる、ということを学びました。

また、私がアメリカの文化や歴史について、もともとそれほど詳しく知っていたわけではないのと対照的にホストファミリーは日本のことをよく知っていて、私たちの話もとても楽しそうに聞いてくれました。その姿をみて、「異文化」をもっと知ろうとする姿勢こそが私に欠けていたものではないかと気付かされました。

３週間という短い間でしたが、たくさんの貴重な経験をすることができました。行く前はちゃんと会話ができるのか、日本ではない地で生活していけるのかなど不安でしたが、今は参加してよかったと思います。留学に行ったことで「もっと英語の勉強をしよう」と思うと同時に、自分とは異なる環境や文化についてもっと積極的に知っていきたいと改めて思いました。この研修で学んだことを今後の勉強にも生かしていきたいです。

研修参加者からのアドバイス

１．出発前

- 親交を深めやすくする為にも、礼儀としても事前にホストファミリーにメール等で挨拶をしておくのが望ましい。アメリカの生活様式や各家庭のルールについて気になる点、わからないことがあれば尋ねておくと安心。日本土産はある程度持っていってもいいが、大量に持っていくと荷物にもなったりアメリカ文化にはお土産を渡すという習慣が根強くなかったりなので注意。家庭によっては何年も日本人留学生を受け入れている所もあるので典型的なもの（扇子や日本画など）は避ける。実際、私が行ったご家庭にも壁一面に今までにもらった扇子などびっしりだった。
- 事前にもらっていたホストファミリーの住所と電話番号が違っていたこともあったので、しっかり確認しておいた方が良いです。
- （お茶大の）課題は全て終わらせておくこと！
- 荷物を多めに持って行くようにしました。また、向こうで日本食が恋しくなると思ったので、インスタントの味噌汁を持って行って飲んでました。
- 簡単な会話文を移動中に聴いていた。
- 準備はなるべく早く始める。何が必要か書き出し、早めにそろえる。また圧縮袋などを利用して荷物は小さくする。なるべく空きを作って行く。
- 学校のコミュニケーション授業などで英語に触れておく。
- 持って行く英語の本は一つで十分だと思います。

２．授業

- クラスのレベルが低いと思ったら担当者に申し出ると対応してくれる。
- 積極的に質問をしていく姿勢が大事。
- プレゼンテーションがメイン
- アメリカ文化について発表（ホームステイ先へのインタビュー、歴代の大統領について・・・など）
- クラスはほとんど日本人で構成される。
- アカデミックな内容の授業はほぼない。午後はアクティビティ。
- 授業のテーマが文化だったので、日本の文化について考えておけばよかったです。
- 自分のモチベーションで授業は変わる。

３．ホームステイ

- （実際友人らと情報共有して感じたのだが、）ホストファミリーごとに家庭事情も様々なので所謂『地雷』（つまり触れてはならないナイーブな部分）に触れないように気を付ける。優先順位として家に入らば家に従え>郷に入らば郷に従え、なのでアメリカの典型的な生活様式ではなく、その家のしきたりを念頭に置いて生活することが大切。共有スペースなどは清潔に保つよう、定期的に掃除し家族の手伝いも進んで取り組むようにすること。
- ホームステイと寮を選べる場合は、ホームステイを強く勧めます。その国の生活を体験できるし、夕方の時間をおしゃべりで有効的に使えました。寮ではテレビ等が無い場合もあるので、アメリカのテレビを日常的に観れたことも良かったです。
- ホームステイファミリー内の家族の時間も尊重しよう。
- 大学から車で 15 分ほどの所にホームステイしていました。ホストファイミリーはとてもいい人たちでした。ファミリーに対して何かしてほしいことがあればはっきり伝えるのが良いと思います。
- Yes か No かはっきりと意見を言うことが大切だと思いました。
- お昼は自分で作ってもっていく（サンドイッチ）
- 仕事をしているホストファミリーが多い。
- ハートフルなファミリーが多い。
- 食事は準備をしてもらえるが各々で食べる形。
- 留学生用にシャワールームとトイレがあった。

４．食事

- お店に入ったらお客さんも挨拶をする。ドアは後ろの人のために開けて待ってあげる、など日本ではそれほど馴染みのないマナーもあるが、それに慣れてからは帰国後に「逆カルチャーショック」を感じるようになった。
- 量が多い場合は、正直に話せば、ファミリーも嫌な顔せず聞いてくれます。サンドイッチやハンバー、単品が多い。
- 好きな物、食べたいものをこまめに聞いてくれた（はっきり意見を言った方がいい）
- 冷凍食品が多かった。
- 朝昼は自分で作り、夜はファミリーが作るというスタイルでした。朝はシリアルにヨーグルト、フルーツなど、昼はパンにハムやチーズをはさんだ

サンドイッチ（あるいは前日の夕食の残り、夕食はチキンやピザ）などでしたが、白米も食べました。

５．現地学生・地域住民との交流

- UCR のプログラムでは、授業の担任の他にアクティビティをサポートしてくれる現地の同年代の方々（俗に言う TA、ティーチングアシスタント）と盛んに交流することができる。授業も大切なのは言うまでもないが、実際の生きた実生活の中での英語（スラングなども含まれる）のボキャブラリなどは、こういったアクティビティの中のとりとめのない会話で触れることが多い。(むしろ私はこちらの方が新たな学びを得るには効率が良かったくらいなので)
- プログラムに関わっている CA などの学生はカタコト英語でもちゃんと通じるので積極的にはなしてみるといいと思います。

６．経済面

- クレジットカードは VISA が確実。
- 現金はあまり多く持たない方がいい。ただ、カードが使えない所もあるので注意。
- 日本円は不要。
- 土日にツアーがあるので、参加するには別途費用がかかる（すべて参加すると 5 万程度）⇒カードも使える（PIN コード忘れに注意する）
- 平日は学校と家の往復だけなので、全くお金を使わなかったし、休日の外出でもクレジットカードでよかったので、現金は少しの金額でよかったです。
- ホームステイ代金にプラスして 200 ドルほどを現金で持って行きました。あとのお金は（オプショナルツアーの代金や買い物で使うお金など）はクレジットカードで支払いました。

７．その他

- 新しい環境で新たな発見や感動に出会うことも多いが、それだけ潜在的な危険性に晒されることも意識することが大切。貴重な経験、人との出会いに感謝して吸収できる学びは思う存分、１２０％吸収して帰ってこよう、くらいの意気込み、臨機応変に積極的に動いていきましょう。“Ask, and it shall be given you.”です。

SOAS
University of London

ロンドン大学東洋・アフリカ研究学院

派遣者数４名

SOAS の English Language Skill Course を終えて

人間発達科学専攻　心理学コース
１年　伊藤茜

授業内容

English Language Course に参加しましだ。午前（10 時-12 時）に 2 時間の Reading & Writing のクラスがあり、午後（13 時-15 時）に 2 時間の Speaking & Listening のクラスがありました。Reading & Writing のクラスでは Essay の書き方や言い回しを教えてもらい、英語で論理的な文章が書けるようになりました。Speaking & Listening のクラスでは Discussion をする時の、相手の意見に配慮していることを示す言い回しや意見の言い方やプレゼンの仕方を学びました。また、大英帝国博物館に行き、それぞれが興味を持った展示物についてその場でみんなに紹介するという授業もありました。SOAS のサマープログラム全体を通して日本人とイタリア人が多かったです。

課外活動

Academic Writing Course と一緒に、先生方にナショナルミュージアムに 1 度連れて行ってもらったのですが、約 2 時間もの間有名な絵からそうでないものまで色んな絵画について説明しながらまわってくれました。プログラム全体でのウェルカムボートツアーやシティウォークもあり、他のコースの人ともたくさん知り合うことができました。また、寮では夜に寮の中庭に集まってみんなで話す習慣があったので、そこでも交流することができました。授業外で日本人以外の留学生同士のディスカッションをよく見かけました。内容は宗教や政治など日本ではあまり話されないようなものも含んでおり、自分がその内容について考えてみるも何も意見を持っていないように感じました。他国の人たちに比べ、日本人は日常的にディスカッションをする機会がないことによって、そういった内容についての意見を持つ/考える機会すら失っているのではないかと思いました。他国の留学生同士の関係から、ディスカッションにおける対立が日常的な対立とならないことに気づき、日本では調和を重んじるのが美徳という点からディスカッションを避けているように思いますが、日常における調和とディスカッションにおける対立は別の話であり、日本人もディスカッションをする機会をもつことで色んなことに対する自分の意見を考えて持つべきであることを学びました。1 人でコッツウォルズ・バース・ストーンヘッジを巡るツアーに参加したのですが、ツアー中に中国人 2 人と日本人 2 人の大学生の女の子のグループと友達になり、英語と中国語と日本語でコミュニケーションを取ることができました。その日限りの友人でしたが、とても楽しかったです。

プログラムに参加していた留学生たちとクラブに行った時に、トラブルがあって私だけ後から入場することになったのですが、再度トラブルに見舞われ入場可能な時間を2分過ぎてしまい、ガードマンたちに止められてしまいました。友人たちもクラブの中にいるし、どうしても入りたかったので、4人のガードマンに対して3分ほど、その旨を主張し続けた結果、偉い感じの人が出てきたりもしましたが、最後は入場させてもらえました。最初はとても威圧的で怖かったガードマンさんたちも最後は笑って送り出してくれ、今では良い思い出です。引かずに主張するのは大変だけど海外では効果的なのだなと思いました。

最後、日本に帰国する時に、台風の影響で乗り継ぎ地タイから飛行機が飛べなくなるトラブルがありました。こういった体験が初めてであったこと、もともとトランジットの時間が7時間あったので周りに同じような状態の人が集まっている状況でなかったことから、最初はとても戸惑ったのですが、空港内の人や航空会社の人に何度も話しかけて、タイに入国し、手配されたホテルまで行き着くことができました。聞き逃してはいけない大事な情報ばかりでしたが、プログラム参加後だったこともあり、Listeningが上達していたため、なんとか全てをクリアすることができました。

<u>イギリスでの生活</u>

Dinwiddy Houseに滞在しました。住所の読み方に苦戦しました。今まで渡航した5カ国で一番難しいと思います。渡航前に確認することをおすすめします。大山寮と小石川寮に暮らしていた私にとっては設備がとても充実した環境でした（トイレも風呂も大きな鏡も部屋にありました)。共有のキッチンに鍋やフライパン、オーブンがありました。果物ナイフは日本の100均で買って持参したのですが、まな板も持っていけば良かったです。数枚の皿やコップ、フォークなどは部屋に備え付けられていました。初めて海外で自炊をしたのですが、卵黄が日本のものよりレモンイエローに近かったり、スーパーには冷凍食品など温めるだけのものが多かったり、珍しい食材があれば日本の定番食材が見つからなかったりと、海外と日本の違いを味わいました。大学の食堂も頻繁に利用し、イギリスの食生活を大いに体験できました。他に持っていて良かったものは洗濯用洗剤と洗濯ネットで、持っていけば良かったものはハンガーと爪切りです。下着や靴を店員さんに相談しながら買ったり、週末にはマーケットの露天でお店のお姉さんとサイズが合ってるか、似合うかなどを話しながら服を買ったり、屋台で多国籍な料理を食べたりと旅行の時は少し違ったショッピングもしました。

SOAS で学んで

文教育学部　言語文化学科
２年　下園千聖

わたしが短期研修先として SOAS を選んだのは１年の夏のことでした。もともと英語力を伸ばしたいという思いがあったのでいずれ短期研修に参加しようとは思っていたのですが、受け入れ先については深く考えていませんでした。ただ昔からイギリスという国が好きで留学するならロンドンがいいという安直な理由で SOAS を選んだわたしですが、実際に研修を終えた今 SOAS で学ぶことができて本当に良かったと心の底から思います。それはアジア人にとって非常に学びやすい環境であったから、立地があらゆる面で素晴らしかったから、そして大切な友人を得ることができたからです。

SOAS の授業

（↑SOAS のメインの校舎の入り口）

わたしが参加したコースは English Language Skills というコースで、学術英語運用能力の向上を目的としています。リーディングやリスニングの後には要約を発表することを求められました。アジアとアフリカに特化した大学ということもあり先生方は非常に日本に対して興味・関心を持っていらっしゃって、授業中も休み時間も思い出したように突然に質問を投げかけられました。スピーキングが苦手でいつも準備してからでないと一言もしゃべれないくらいのわたしにとってはとても良い訓練になりました。質問をした先生も、それを聞くクラスメイトもにこにこしながら耳を傾けてくれたので苦痛に感じることはありませんでした。最終週の 10 分間スピーチのテーマには『核』を選びました。WW2 の戦勝国出身者が多いクラスでは言ったすべてを否定されるかもしれないと震えながらスピーチを終えたとき、わたしの選択は間違っていなかったのだと確信しました。先生とクラスメイトの一人が涙を流していたのです。8/15 を VJ-day(final military Victory to Japan)とは二度と呼ばないと言ってくれました。この瞬間のためだけに 3 週間英語のスキルを磨いたのだと思えるほどの感動でした。

放課後の過ごし方

SOAS はロンドンの中でもかなり良い場所に建っています。大英博物館の目と鼻の先なのです。たくさんの展示物を使って授業を行うこともしばしばありました。学びの環境としてこれほど贅沢なことはないでしょう。入館料も必要ないため、その膨大なコレクションを数日に分けてじっくりと鑑賞することができました。授業は毎日 3 時には終わります。夏のロンドンは 8 時になっても外が明るいので放課後の数時間は非

常に素晴らしいものとなりました。SOAS の恵まれた立地のおかげで、授業が終わってすぐバスに飛び乗ればいくらでも観光ができました。クラスメイトと一緒にパブに行ったり、2 階建てバスの一番前に座ってはしゃいだり、博物館の日本コーナーで着物の説明をしたりしたことはこの留学での一番の思い出です。最初クラスでは中国語圏、フランス語圏でグループができてしまっていて輪に入れないこともあったのですが、勇気を出して放課後の観光に誘ったおかげでクラスメイトとも打ち解けることができ、素晴らしい 3 週間を送ることができました。1 年次に中国語を履修していたことも会話の糸口として大変有効でした。

（↑クラスメイトと 2 階建てバスの最前列！）（↑放課後にみんなで学校近くのパブへ）

この研修で得たもの

第一に英語力です。コースの内容自体はお茶大の中級英語で習ったものも多く大きな収穫があったとは言えません。しかし、授業のスピードによって得られたものはわたしにとって非常に大きなものでした。読んで、聞いて、即要約を発表するということを繰り返していくうちに、黙って頭の中で文を組み立てるより先にとにかく伝えようと努力するほうに考えが変わっていきました。考えているうちに発言権が次の人に渡ってしまうことが多かったわたしにとっては最も大きな成長であると感じます。次に友人です。初めてできた外国人の友人たちには良い刺激をたくさんもらいました。それぞれの国についての説明を聞くとき、日本について説明するとき、わたしは一番自分の英語力の低さを実感し、学習へのモチベーション向上につなげることができました。研修が終わって 2 か月が経つ今もこまめにメールのやりとりをしています。台湾の友人はわたしが話した土方歳三に興味を持ってくれたようで、先日函館に旅行に来ていると連絡をくれました。近いうちに東京に来るとも言っていたので再会の日も近いでしょう。この研修で結んだ縁を大切にしようと思います。わたしにとって 1 か月も日本を離れるのは初めてのことで、英語力にはまったく自信がなかったこともあり不安で仕方ありませんでした。すべて放り出してしまいたいと思ったこともありましたが、この 1 か月を経て様々なことに自分から飛び込んでいく度胸と行動力が身に付きました。この 1 か月で身に着けたものは、日本でいつも通りの日常を過ごしていたら決して得ることのできなかったものだとはっきりとわかります。快く送り出してくれた両親、親切にしてくださった先生方、SOAS で出会ったかけがえのない友人と先生、そしてたくさんの奨学金をいただいたこと、そのすべてに感謝しこの経験を自らのさらなる成長へとつなげられるようこれからも勉学に励もうと思います。

Always smile and you’ll get happy!

文教育学部　言語文化学科
２年　千家詩織

私はSOASロンドン大学に6週間参加しました。小学生の頃からイギリス、特にロンドンという都市に強い憧れを持っていましたがなかなか訪れる機会に恵まれませんでした。一年生の頃は長期留学を目指していたし英語に関してあまり苦手意識はなかったので短期留学に行くという選択肢はあまり考えていなかったのですが、イギリスに長期留学するためのハードルはものすごく高く難しいということを知り自分の未熟さを思い知りました。大学二年生に上がってもなかなかイギリスへの思いを捨てられずにいた時に学部の友達からSOASについての話を聞き家に帰ってからすぐに短期プログラムを調べ、行くことを決意しました。憧れの街ロンドンで学んだことは数え切れないほどありますが、その中でも特に印象に残っている二つの事柄について報告書にまとめます。

＊　SOASでの学習について

最初の3週間は″English language skill ″という英語力の向上を目的とする授業を受け、クラスメイトには日本人を含めイタリア、フランス、リビアといった様々な国からの生徒がいました。3週間の授業を通して痛感したのが、日本人の生徒はとても恥ずかしがり屋で授業中もすごく受け身だということです。そして同時に他国のクラスメイトは文法や語彙不足などの失敗を恐れずに次々と発言するということです。私も最初は言いたいことが伝わらないもどかしさに苦しみ、また失敗を恐れ授業中は黙っていることが多かったのですが、同じクラスメイト、同じ先生が毎日英語力の向上という同じ目的をもって授業を受けること、毎日英

語を使って会話をすることで英語が次第に自然と話せるようになっていくことを自分でもしっかりと感じられました。また他のクラスの友達とも昼休みを使ってお互いの授業や国について話すことで仲良くなり、英語を使う機会を増やすことができました。ヨーロッパ諸国から訪れた人達が多かったのですが、彼らの意欲や度胸には驚かされることが多く私も見習って頑張らなきゃ、という気持ちを感じさせてくれました。先生方もとても気さくで優しく、授業についてやイギリスでの日常生活についての疑問なども嫌な顔一つせず笑顔で答えてくれました。

＊　渡航中の支え

留学生活において大変なことは数え切れないほどたくさんありましたが、そのとき頼りになったのはイギリスで出会った友達でした。初めての街、初めて会う人々、知り合いが１人もいない環境に最初はなかなか馴染めず苦しみました。しかしクラスメイトや日本人の友達と悩みを共有することで不安が吹き飛びました。学校外ではフラットメイトのスペイン人の友達が放課後のパーティーに毎日誘ってくれ、クラスメイトだけでなく色々なバックグラウンドを持った人々と交流することができました。イギリスに渡り２週間が過ぎた頃に荷物トラブルがあり悩んだことがあったのですが、友達みんなが親身に相談に乗って励ましてくれ、解決方法を提案してくれました。仲の良かったドイツ人の男の子がいつも私に言ってくれた“Always smile and you’ll get happy.”という言葉がとても嬉しく印象に残っています。一緒に過ごした期間はたったの３週間でしたが彼らは私にとってかけがえのない存在で、彼らがいなければ私の留学生活はこんなに楽しく意味のあるものになっていなかったと思います。憧れの街ロンドンは想像以上に生き生きしていて素敵な場所でした。出会う道・お店・人々、すべてが私の想像以上に本当にとても素晴らしく、英語を学ぶこと、そして新しい自分を発見するのにとてもぴったりな街でした。いつかまた絶対に、大好きなイギリスとこの街で出会ったすべてのかけがえのない友達を訪れたいと思います。

SOAS 大学とイギリス生活を経験して

生活科学部　人間生活科
２年　高橋絢美

授業内容

私は、SOAS 大学で語学力向上を中心とした English language skill course を選択し、三週間授業を受けました。このコースは、最もディスカッションが多いクラスです。学校や国籍を超えてクラス全員と英語を通して交流しやすいクラスだと思います。あたりまえですが、選択するクラスによって全然授業のあり方が違ってきます。自分が短期留学中に何を身につけたいのか考えて選択してください。例えばですが、今年は、メディアコースなら最終課題が映像を作ること、経済コースはリスニング中心で経済に関する知識や用語を学べます。コース選択の時、私も何を選ぶか迷ったので、参考になると嬉しいです。気になることは、直接大学にメール等で質問できますが、クラスの内容についてはあまり詳しく教えてくれないので、先輩や短期留学を担当の方に質問した方が良いかもしれません。

授業が開始した後でも、自分に合うクラスに変えることも一応可能です。有意義にプログラム期間を過ごせるよう、授業が始まった後でも、内容が合わないと思ったらすぐ行動してみてください。せっかくの貴重な留学なので、こうすれば良かったということがないように過ごせることを願ってます。一つ一つのことに、楽しんで、考えて、積極的に毎日を過ごしてください。

課外活動

私は、ブロック３で三週間の短期留学をしました。今年のブロック３の特徴は、日本人参加者が多いことです。外国人の友達をたくさん増やしたいなら、授業以外のイベントや寮での交流に積極的に参加することをオススメします。

・ウェルカムパーティ：学校の敷地内で全コースの生徒と交流するきっかけになります。

・ウォーキングツアー：行くところはなんともいえませんが、私は、これに参加して外国人の友達を増やすことができました。

私のクラスには、外国人の子が一人しかいませんでしたが、イベントや旅行

など、様々な形で色々な国の人と友達になることができました。

寮での生活

寮は、各部屋や各フロアによって備えられているものがだいぶ違うみたいです。基本、枕とタオルとベットカバーが備え付けられていますが、コップやお皿まである部屋もあれば、枕しかない部屋もあり、掃除に毎週はいるところもあれば、三週間全く入らないところもあります。共同キッチンも必要最低限のものはそろっていますが、フロアや階によって、あるものにははばらつきがあり、すごく汚いフロア等もあります…。何が必要か一概には言えない寮なので、荷物になりすぎても困りますが、調理器具や掃除用品など、必要だと思うものはもっていって良いと思います。

三週間しかいない人は、遠くや色々なところを観光できる時間があまりないので、プログラム終了後も何泊かして、観光しても良いと思います。柔軟に滞在期間を調整できるのは、個人で全てやるからこその特権です。また、寮は格安宿泊施設なので、短期留学をぜひ有効活用してみてください。

注意事項としては、ビザの申請が失敗した場合と、荷物が空港で無くなった場合、すりや麻薬売買などの事件に遭遇することです。治安は悪くないですが、日本よりはやはり危険なので、事前の学校からの説明も聞いて、落ち着いて準備しておくと良いと思います。

研修参加者からのアドバイス

１．出発前

- 電車の切符の買い方やもし使うならSIMカードをどこで買うのか、King's cross駅から寮までの道順などは調べておいた方が良いと思います。
- ヒースロー空港はとても広いので、地下鉄に乗るには空港内を行き来する新幹線のようなものに乗ってホームに移動しなければなりません。それを知らないととっても困ったことになるので、事前に調べておくことを強くおすすめします。
- wifiがなくても使えるマップをダウンロードする。

２．授業

- English Language Skillsに参加しました。午前・午後でR/W, S/Lが切り替わります。R/Wといっても要約の発表だったり意見交換だったりもするので、全てのスキルアップになります。大英博物館まで歩いて5分なので、そこまで行って授業をしたりしました。
- コースについて：anguage----Speaking中心、Media-----映像作品を１つ作る、Global business----主に先生の話をきく。最後グループ発表

３．寮生活

- 机も広くて部屋もとても使いやすいです。ただ、トイレとシャワーの仕切りがカーテンしかなくて、水浸しになってしまいます。また、猫が何匹か住んでいて、衛生環境はあまりよくないです。
- 必要最低限のものはある。調味料とか、洗濯、掃除用のものはない。

４．食事

- まずいまずいと聞いていたので覚悟していたのですが、全くそんなことはなかったです。冷凍食品が浸透しているので、高めのスーパーで３つ７ポンドでまとめて買っていました。ごくまれに、とんでもないはずれを引くことがあったのですが、だいたいおいしいです。寮の最寄り駅のKings's Cross駅近くのWaitroseにあるアイスクリープショップがとてもおすすめです。とってもおいしいので食べてみてください！
- お昼はfree mealがあって無料でごはん食べられることもできる。
- 短いstayなら買ってもいいけど、お昼サンドイッチつくったり、夜パスタつくったりしてもいいと思います。滞在中は使いきれなさそうなら、友達とシェアしてもいいと思います。

５．現地学生・地域住民との交流

- 最初の日に大きなトランクに大きなかばん、ショルダーバッグとトートバッグという大荷物で駅の階段を登ろうとしていたら、改札から出てきたお兄さんがすごい勢いで走ってきて、「お手伝いしましょうか？！」と話しかけてくれたので、ああ本当に紳士の国だった！！と感動しました。でも、マックの店員さんがとてもこわいので気を付けてください。
- プログラムの期間によって参加する国が違う。イギリスの学生は夏休みなのであんまり会えない。寮だと現地の人とあまり交流できないので、寮内のコミュニティを探してみるのも良いと思います。

６．経済面

- カードが便利だけど、1日目からカード止まった人いたので、ある程度現金も持った方がいいと思います。
- イギリスは物価がとても高いのですが、行った時期がEU離脱が決まった直後でポンドが落ちていたので、そんなに高い！！と感じることはありませんでした。
- ロンドンにカード文化が浸透しているので、だいたいどこのお店でも使えますVISAかマスターズだと安心です。JCBはほとんど使えないです。支払いのときに日本円で払うかGBPで払うか聞かれることもあるので、どちらがお得か調べておくと良いと思います。

７．その他

- SIMフリー端末をもっていくことをおすすめします。SIMカードは30日のものを２０ポンドくらいで簡単に買えます。日本の携帯はBond3という電波帯対応のものが多いので、イギリスでもSIMを入れれば使えます。地図アプリなど出先で使えるととても便利です。フリーWi-fiもありますが、あまり期待しない方が良いと思います。
- バスはどこまでいっても均一料金で頻繁に来ます。電車とどっちが安いか調べておくといいと思います。

マギル大学

派遣者数２名

カナダ留学体験記

文教育学部　言語文化学科
１年　笠井紫帆

私はこの夏、カナダのモントリオールにあるマギル大学で、8 月 1 日から 19 日まで行われた研修に参加をしてきました。基本的なスケジュールとしては、午前中に大学で授業を受け、午後にモントリオール市内を観光したり、週に一度発音の授業を受けたりするというものでした。週末は参加者全員でオタワへ観光に行ったり、事前に各自で選択したアクティビティに出かけたりしました。ここからは、授業や普段の生活、活動について少し詳しく記したいと思います。

↑クラスメイトと Kamran,　Farewell Party

１．授業について

大学では、留学前に行われたテストの結果によって分けられた 20～30 人のクラスごとに授業を受けていました。私のクラスは 20 人で、Kamran という先生が担任でした。リスニング能力とスピーキング能力の向上に重点を置いた授業で、主にカナダの食文化や動物、自然環境やお金についての聴き取りを行い、聴き取った内容を自分で文章にし、人に説明する練習をしていました。他にも、スピーキングの録音をしたり、クラスメイトの前でプレゼンテーションをしたりしました。この授業でカナダの文化や自然などについてはかなり詳しくなりました。

また、週に一度、午後に発音の授業を受けました。普段の授業とは別の先生が担当してくださり、舌の位置や母音と子音それぞれの音の出し方を意識して発音練習をしたり、音節を用いた独自の俳句を詠んだりしました。どの授業も退屈することなく、楽しみながら実践的な英語力を養うことができました。

２．寮生活について

カナダでの 3 週間は、大学から徒歩数分の場所にある evo と呼ばれる大学寮で過ごしました。基本的に 2 人部屋で、とても快適に過ごすことができました。本格的なトレーニングジム、プール、ジャグジー、卓球台やビリヤード台などを備えたゲームルーム、静かに勉強に取り組むことができるスタディールームなどの施設も非常に充実しており、驚きました。寮では、基本的に大学のクラスとは別に分けられた約 10 人ずつのグループで行動していました。1 グループに 1 人ずつマギル大学の学生さんや院生さんがつき、英会話から普段の生活に至るまで、私たちのサポートをしてくれました。食事は 3 食を寮で摂っていました。毎食ビュッフェ形式で、メニューが微妙に変わります。個人的には米よりもパンがおいしく、フルーツとヨーグルトが一番好きでした。脂っこい

ものが多く、野菜が少なく、単調だったように思っていましたが、帰国した今となってはevoの食事が少し恋しいです。

３．その他のアクティビティについて

Montrealの街　Mt.Royal

午後に発音の授業がない日は、モントリオール市内のJean-Talon MarketやMount Royal、Old MontrealやNotre-Dame Basilicaなどの有名な観光地を見学したり、CBC（日本のNHKのようなもの）のテレビ局へ行って実際にキャスターやカメラマン、音声などの役に分かれ、番組を制作したりしました。また、Evening Activityとしてみんなでスポーツをしたり、ボウリングへ行ったり、レーザークエストというゲームをしたり、手巻き寿司を作って食べたりと、様々な活動をしました。週末には全員でオタワへ出向いて国会議事堂や街を見学したり、トロントとナイアガラの滝観光やネイチャーアクティビティ、ホームステイなど各自が選んだアクティビティに参加したりしました。私はトロントとナイアガラの滝観光を選び、とても有意義で充実した週末を過ごしました。

ライトアップされたNiagara Falls

４．研修全体を振り返って

この短期留学では、お茶大からは2人のみの参加でしたが、上智や津田塾、聖心や聖ルカなど他の大学からは数十人単位で学生が来ていましたし、日本だけではなく、イタリアとフランスからもそれぞれ参加者がおり、本当にたくさんの人と知り合うことができました。私は3週間もの間海外で生活するのは、今回が初めてだったため、不安に思っていたこともありましたが、いざ始まってみると、一日が驚くほど楽しく、忙しく、濃密で、毎日が矢のように過ぎ去っていき、あっという間に帰国の日が来てしまいました。これほど充実した日々を過ごすことができたのは、現地のモニターさん、先生方、そして共に研修に参加した同世代の友人たちのおかげです。1週間が過ぎた頃からすでに、みんなで「日本に帰りたくない」「ずっとここで、このメンバーでいたい」と話していました。英語の学習は日本でもできますが、実際に海外へ行き、現地の人や文化と触れ合うことで、初めて学べることや得られるものもあると思います。正直、準備は多少面倒でしたが、それ以上にカナダでの経験は、私にとって何物にも代えがたい大切な思い出となりました。カナダで出会った現地の学生さんや院生さんとは、今でも連絡を取りあっており、SNSでも繋がっています。次にカナダを訪れるときは、今よりも英語が話せるように、彼らとさらにスムーズなコミュニケーションが取れるようになっていたいです。

モントリオールで過ごした最高の夏休み

人間文化創成科学研究科　人間発達科学専攻
２年　張精苗

マギル大学はカナダのトップの大学であることはすでに前から知っていて、今回お茶の水女子大学の学生としてこの夏期短期留学プログラムを参加するのはとても光栄に思います。英語の授業を通して、言語力を向上させた上で、色んなアクティビティによって、カナダのことをもっと詳しく知りました。モントリオールで過ごした三週間は最高に楽しく、充実した時間でした。

午前の授業

平日の午前は教室で英語の授業を受けました。私のクラスは 16 人がいて、一人が中国人（自分)、一人がイタリア人、他の 14 人は日本人です。先生は ANNE と言うカナダ人の女性の方で、とても優しくて面白い方です。授業はリスニングとスピーキングを中心として進んでいるが、ライティングの練習もあります。内容は主にカナダのこと（食べ物や生活、お金、動物、言語など）について勉強し、午後のアクティビティの予習もあります。

午後のアクティビティ(afternoon activity)

午後のアクティビティの時間は私にとって一番楽しかった時間です。クラスのモニターさんは三人がいて、そしてクラス全員は三つのグループに分け、一つのグループは一人のモニターさんに連れたれて活動します。Mount Royal（山)、CBC（テレビ局)、Biodome（動物園)、Old Port（港)、Jean-Talon Market（市場)、Notre-Dame Basilica（教堂）などモントリオールのいんなところを訪れました。

この中で、カナダ国営テレビ局 CBC で LIVE のかたちでニュースを進行する体験は一番印象深いでした。幸運にも私はニュースキャスターとして選ばれ、カメラ前の新鮮感と緊張感をよく味わいました。そして、カメラマン、音声、照明など、全員それぞれ重要な役割を担い、みなさんの一致の努力があるからこそ素晴らしいものが作られるって改めて感じました。自分にとってものすごく貴重な経験になりました。

レジデンスの生活

レジデンスの方は、10 人で一つのグループとしてレジデンスモニターさんと一緒に活動します。一週目週末のオタワの旅と二週目週末のオプショナルウィークエンドも（ナイヤガラ滝やネイチャーアクティビティ）一緒に行きました。学生全員が EVO というレジデンスで住み、二人一つの部屋で、元はホテルだったので、お風呂や洗面台、冷蔵庫、電子レンジもあります。そして一階でジム、ゲームルーム、自習室があり、二階はランドリールームとプールがあります。一日三食は基本的にダイニングホールで済みます。ビュッフェ（buffet）の形で出されて、種類も多いし、とても美味しかったです。晩ご飯の後、レジデンスモニターさんと一緒に遊んだ日が多いです。アイスクリーム屋さんに連れて行ってもらったり、公園でバレーボールをやったり、ボーリングやサバイバルゲームもやりました。

モントリオールで過ごした三週間は本当に楽しくて幸せで、夢みたいな時間でした。カナダ、カナダの人達、そして彼らの生活を詳しく知るようになり、綺麗な景色も観光し、新しい友達もでき、とてもいい思い出ができました。この感動は、たぶん一生忘れられないです。もし機会があれば、またマギル大学に、モントリオールに戻りたいです。

研修参加者からのアドバイス

１．出発前

- パスポートの取得と、eta という電子渡航認証の取得が必要です。昼間は暑いですが夜は結構冷え込むため、少し厚手の上着を持っておいた方がいいです。Evo の場合、タオルの交換が週一で洗濯するのにお金がいるので気になる人はバスタオルを持って行くと良いと思います。英語のクラス分けテストが渡航前にあります。１時間弱かかります。また、教材やノートなどは現地でもらえますが、ルーズリーフがあれば便利です。ノートパソコンはなくても問題はありませんが、宿題の形式によってはあった方がいいです。イヤホンも持っておくと良いと思います。

２．授業

- 授業は、英語のレベル別にクラス分けがされ、そのクラスで授業を受けます。担当の先生によって授業の進め方や宿題の量、内容は少しずつ変わりますが、基本的に使用する教材は同じです。私のクラスは２０一で、他クラスもそこまで多かったり少なかったりはしていなかったように思います。少人数なので、一人ひとり見てくださいますし、私のクラスの先生はほんの 2-3 日で全員の顔と名前を覚えてくださいました。授業では英語の音声を聴き取って問題に答え、その内容を自分でその場で文章にして話すという活動がほとんどでしたが、自分の音声を録音したり、プレゼンテーションをしたりもしました。

３．寮

- 大学（普段授業を受けていた建物）から歩いて 5-10 分ほどのところにある evo と呼ばれる学生寮で生活をしていました。2 人部屋でバス・トイレ・洗面台は共有でしたがプライベートスペースもきちんと確保されていましたし、収納場所も多かったです。部屋によって若干広さや構造が異なります。キッチンやシアタールーム、プール、ジャグジー、本格的なジム、自習室、ビリヤード台や卓球台、ゲーム機などがあるゲームルームなど、驚くほど施設が充実しており、とても快適でした。プールやジムを使うための水着や室内用の運動シューズを持っておくといいかもしれません。

４．食事

- 朝、昼、晩基本的にすべての evo で摂ります。全体的にハイカロリー、お米よりはパンの方が美味しいと思います。プログラム中に何度かカナダの伝統食を食べることができるようになっていたり Sushi night といって自分たちで手巻き寿司を作って食べる機会があったりします。寮の周りにも料理屋さんがけっこうあるので、食べに出てもいいかもしれません。オタワ旅行のオールドポートを訪れた際には、ビーバーテイ

ルという伝統的な揚げパンのようなものを食べることをおすすめします。カナダの食事で3週間過ごすと間違いなく胃が大きくなります。

５．現地学生・地域住民との交流

- 現地で、寮では10人ずつのグループに分かれますが、それぞれのグループに一人ずつマギル大の院生さんがサポートとしてついてくれます。彼らもevoで生活するため、いつでも頼ることができます。空港までの送り迎えや宿題の手伝い、観光、夜のアクティビティ（卓球とかとトランプゲームとか映画鑑賞とか）まですべて見てくれます。もちろん会話は英語です。また、寮とは別に大学のクラスでも一クラスにつき４人程度の現地の学生さんがついてくれます。発音のクラスのサポートや、午後の観光のとき一緒に行動する人で、3週間変わりません。そのため現地の学生さんとは毎日交流できます。

６．経済面

- 紙幣はカラフルなプラスチック製のもので、コインも数種類あります。最初の区別は難しいかもしれませんが、授業でお金について学ぶ時間がありますし、大きさや色、柄がすべて異なるため、すぐに慣れて一目で区別できるようになると思います。お金を使う機会は水やお土産を購入するぐらいしかないですが、200-300カナダドルあれば困らないかと思います。しかし、お土産で意外と使ってしまうため、クレジットカードがあれば安心です。地下鉄やバスに乗る機会もありますが、現地でPASMOのようなものをもらったため自分では使いませんでした。

７．その他

- カナダは紫外線が強いため、サングラス、帽子、日焼け止めは持って行くべきです。また、最後のFarewell partyではみんな本格的に盛業するので、スーツやフォーマルなドレス、アクセサリーは持って行った方が良いと思います。Evoの洗濯はカードでないと支払えないため、海外に対応しているVISAなどのクレジットカードがなければ困ると思います。しかし、日用品については現地で購入できるため、持って行かなくても大丈夫だと思います。現地のホテルには基本的に歯ブラシやスリッパがついていないため、持って行っておいた方がいいです。帰りはお土産がかなり場所をとる可能性が高いため、スーツケースには余裕があった方が良いと思います。

UNIVERSITÉ DE **STRASBOURG**

ストラスブール大学

派遣者数２名

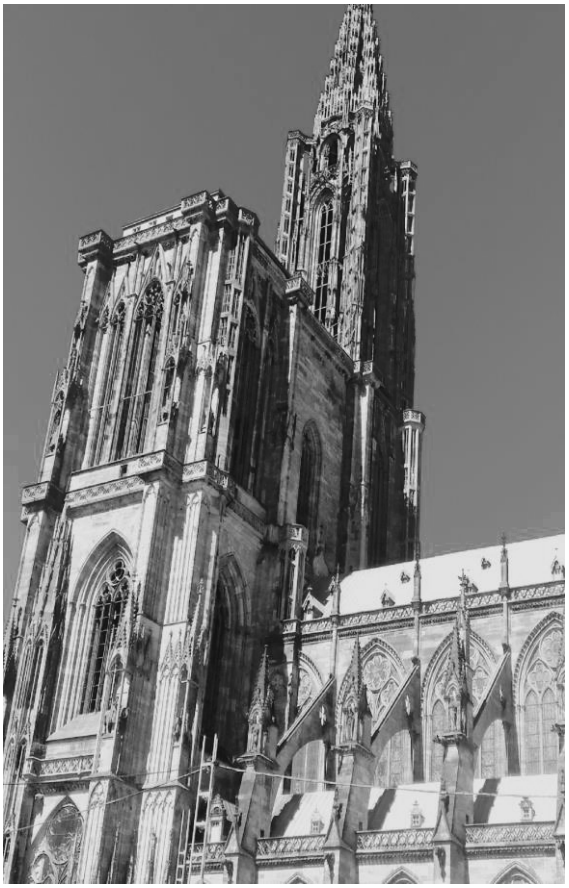
ストラスブールで学んだこと

文教育学部人文科学科　比較歴史学コース
３年　高田知里

◆研修に参加しようと思ったきっかけ

大学に入学したころから、とにかく一度海外に行ってみたい！という気持ちがありました。私はもともとフランス語を選択してはいなかったのですが、ストラスブールのあるアルザス地方が私の好きなドイツに隣接しており、ドイツとフランスの文化の融合した地域であるということに興味を持ちました。フランス語に関しての知識を全く持っていなかった私ですが、ストラスブール大学での語学研修には、発音や簡単な文法事項から学べる初心者向けのコースがあることを知り、ストラスブールへの留学を決意しました。

◆研修内容



初日に試験を受け、レベル別に３つのクラスに分かれました。私は一番簡単なクラスに入り、フランス語の文法や発音、会話について学びました。道案内や、スーパーマーケット、レストラン、病院での会話など、実践的な会話を学ぶことができ、学ぶほどに街での生活が楽しくなっていきました。日本で行われている外国語学習とは違い、文法重視ではなく会話重視型の授業だったことが印象的でした。文法を習う前にまず例文などから入り、声に出すところから始まりました。辞書などは使わず、わからない単語があればその都度先生に質問し説明してもらうなど、日本での学習方法とは全然違いました。午前中はこのような文法・会話の授業で、午後には自由参加のコミュニケーションやプレゼンテーションの授業がありました。また課外アクティビティとして、フランス・アルザス地方の文化を学ぶ目的で、大聖堂や博物館、欧州議会の見学等も用意されていました。

◆ストラスブールでの生活

ストラスブールでは、大学まで徒歩 15 分ほどの施設に宿泊していました。部屋に冷房はありませんでしたが、朝晩は日によっては寒いほど冷え込み、日中も窓を開けていれば快適に過ごせる程度の気温だったので、特には気になりませんでした。冷蔵庫も小さいものを自室に置いてもらえました。大学までの道中に日用品や文房具も置いているような大きなスーパーがあり、そこで大体のものを揃えることができました。洗濯は、共用のコインランドリーもありましたが、自室の洗面台で手洗いをするので十分でした。部屋にキッチンはありませんが、朝、昼、晩と食事を取れる簡単な食堂がありました。しかし最初の一週間はちょうどバカンスの時期に被り利用できなかったので、その間は近所のレストランに行ってみたり、部屋でパンやサラダを食べたりしました。街中のレストランも 8 月 15 日の聖母被昇天祭という祝日までは空いていないところが多かったのですが、その祝日が明けてからは街に人も増え、活気が出てきたように感じました。

私は散歩をするのが好きなので、授業が終わった午後の時間や休日には、歩いてストラスブールの街を楽しんでいました。特に街のどこからでも見えるノートルダム大聖堂や、ドイツ風の街並みの残るプティット・フランスのあたりはよく歩きました。また、ライン川を越えて隣町のドイツまで行ってみたりもしました。ストラスブールは観光地なので、かわいいお土産屋さんやおしゃれなレストランも多く、街の人も優しく丁寧に接してくださる方ばかりで、過ごしやすい街でした。

◆研修を振り返って

海外旅行すらしたことのない私が、全くフランス語の話せない状態で飛び込んだストラスブール大学での語学研修でしたが、先生もとても優しくわかりやすく教えてくださり、3 週間非常に楽しい時間を過ごすとこができました。周りの環境に支えられたおかげで最後までやり遂げられたと実感します。語学力の向上という点で見るとまだまだ課題を多く残した研修でしたが、それ以上にかけがえのない経験ができたと思います。

ストラスブール大学 短期研修を終えて

生活科学部人間生活学科 生活社会科学講座
３年　世永愛璃

研修プログラムの内容

初日にリスニングとライティングの試験が行われ、習熟度別に３つのクラスに分かれました。私のクラスでは、ヨーロッパやアジアなど様々な国から、高校生から社会人まで幅広い年齢の人が来ていました。メインの授業は午前中に行われ、フランス語でフランス語を学びました。日本での語学学習は文法やリーディングを重点的に勉強しますが、ここでは「話すこと」に重点が置かれていました。私は話すことが一番苦手だと感じていたので、授業についていくのは容易いことではありませんでした。先生は、私が分からなさそうにしていると、ゆっくり話してくれたり簡単な言葉に置き換えてくれたり、いつも助けてくださいました。最初のうちは先生や他の学生が話していることが聞き取れないことが多く苦労しましたが、徐々に耳が慣れ理解できることが多くなっていったように思います。午後は、週に 2 回自由参加の授業があり、アルザスやフランスの文化と歴史を学び、調べたことをプレゼンする形式でした。午後の授業がない日には、美術館の見学やカクテルパーティーと称した交流会などのアクティビティーが用意されており、興味・関心に応じて自由に参加することができました。私はこの研修中に誕生日があったのですが、そのことに先生が気付きクラスでお祝いしてくれたことが嬉しく、印象に残っています。

滞在先

大学に紹介していただいた Amitel というユース向けの下宿に滞在しました。当初は食堂があり朝晩のごはんはそこで食べられると聞いて安心しきっていたのですが、実際に行ってみると 8 月 15 日の聖母被昇天祭が終わるまでレストランがバカンスに入っていました。また、このキリスト教の大きな祝祭日にはほとんどのレストランとスーパーがお休みになってしまうので注意が必要です。下宿と大学の間には Simply というスーパーのチェーン店があり、生活に必要なほぼ全てのものはここで調達できました。円高のおかげもあり、物価は外食を除いてそこまで高いとは感じませんでした。洗濯は、洗剤を持参すれば下宿のランドリーを３ユーロで使うことができました。下宿の管理人さんは親切な方で、どんなに拙いフランス語で話しても理解しようとしてくれました。時々、大学で何を勉強しているのかといった雑談に付き合ってくださることもありました。

ストラスブールでの生活

大学での授業は非常に有意義なものでしたが、時には自分が伝えたいことを上手く表現できず悲しくなることもありました。そんな時にはノートと辞書に向き合って勉強するだけでなく、ストラスブールの街を散策して歩きました。一年中クリスマスの雰囲気が漂うプティット・フランスへ出掛けたり、カテドラルの夜のライトアップ（プロジェクションマッピングですがフランスでは“音と光のスペクタクル”と言うらしいです）を見に行ったりしたのは良い気分転換になったと思います。フランスでは昼間からカフェで語り合う人や広場で佇む人をよく見かけることがあり、自分のペースでゆったりと生活する人が多いように感じました。

研修中に一度、理由も分からず授業が休講になったことがあり、これもフランス流か…と驚きました。せっかくなのでその日はクラスメイトと一緒に、フランスの「美しい村」に登録されているリクヴィルという、ぶどう畑が広がる小さな村を訪れることにしました。ストラスブールから TER でコルマールまで行きそこからバスで向かう予定だったのですが、バスの本数があまりにも少なかったため、コルマールで偶然出会った 2 人の日本人旅行者の方と往復のタクシーを相乗りさせていただきました。授業とは全く関係ありませんが、羽を伸ばして出掛けてみると一期一会の素敵な出会いがあったり、現地でフランス語を使う機会が増えたり、良い経験ができたと思います。

反省

私が参加したストラスブール大学での語学研修は非常に短い期間のプログラムであったため、「短期間でフランス語をペラペラに話せるようになる！」というのは現実的ではないと思い、参加にあたっては「話すことに対する苦手意識を克服すること」を第一の目標にしていました。実際に研修を受け、他の国から来ている学生と比較することで、自分の弱点を明確にすることができました。彼らと比べると私には、間違ってもいいから伝えようというメンタリティーの強さが足りなかったように思います。しかし、それはコミュニケーションのツールとしての言語の習得という点から見ればきわめて重要なものであり、たとえ文法が完璧でなくても単語を並べただけであっても、伝えようという意志があれば表情やジェスチャーが理解を助けてくれるのだと気付きました。

研修参加者からのアドバイス

１．授業

- 授業では単語が分からずに苦労することがあったが、辞書を使うことがあまり奨励されていなかったため余計に難しく感じた。ボキャブラリーを増やしておくべきだったと反省している。

２．寮生活

- Amitel というユース向けの下宿は、ﾚｾﾌﾟｼｮﾝが開いている日や時間が限られていて、その時間しかチェックイン、チェックアウトできないので注意が必要。私は出発の 1 週間前に到着の日を変えてくれとのメールが来て、急遽、近くのホテルに一泊することになった。

３．食事

- 8 月 15 日の聖母被昇天祭が終わるまで、下宿のレストランが休みだったので、スーパーでパンやサラダなどを買ってきて食べることが多かった。

４．現地学生・地域住民との交流

- お店に入ったらお客さんも挨拶をする。ドアは後ろの人のために開けて待ってあげる、など日本ではそれほど馴染みのないマナーもあるが、それに慣れてからは帰国後に「逆カルチャーショック」を感じるようになった。

５．経済面

- Amitel(下宿) の滞在費も含めて、ほとんどのお店で VISA が使える。

BUFS 부산외국어대학교
Busan University of Foreign Studies

釜山外国語大学

派遣者数 2 名

韓国での実習に参加して

文教育学部　グローバル文化学環
４年　松下華菜

学生最後の夏休み、私は韓国で５週間生活することを決め、釜山外国語大学の韓国語研修と日本語教育実習の２つのプログラムに参加しました。

高校時代に韓国の文化に興味を持ったことから韓国が好きになり、大学に入ってからは日韓問題について学んだり日韓交流を積極的に行ったりしていましたが、５週間という長い時間を韓国で過ごすことは初めてでした。それぞれの実習で学んだことについて述べたいと思います。

・ 韓国語実習

初めの３週間は夏期語学研修プログラムに参加し、他大学の学生と共に韓国語の授業を受けました。その他にもK-POPダンス体験、テコンドー体験、韓国料理作り体験などといった文化体験も行いました。私は中級クラスに所属して語学の授業を受けましたが、韓国語だけで授業が行われる中で、先生が話している内容を理解しようと必死でした。趣味程度にしか学んでいなかった韓国語ですが、今回の研修でアウトプットする機会が多くあり、実際に海外に行って学ぶことの重要性を実感しました。

グループ活動として、龍宮寺を訪れました。
海に建てられた珍しいお寺で、願いを一つ叶えてくれることで有名です。

また、この研修では釜山外国語大学の日本語学科の学生がパートナーになってくださり、釜山の様々な有名な場所を案内してくれたり美味しいものを一緒にたべにいったりと本当に親切にしてくださいました。改めて、韓国人の温かさというものを感じました。

この研修では日本と韓国の違いという異文化はもちろん、もう一つ学んだことがあります。この研修は日本の各地域からの大学が参加しており、他大学の学生と３週間共に過ごしました。学年や背景が異なる初対面の学生と３週間共に過ごしたことで、「同じ」だと思いがちな日本人の間にも文化の違いや価値観の違いというものが存在することを実感し、そうした差異を認めながら共生することの大切さを学びました。普段の学生生活ではあまり感じることのできない新たな刺激にもなりました。

・ 日本語教育実習

実習を担当した日本語 B1-1 クラス。
とても親切な学生ばかりでした。

後半の２週間では日本語教育実習に参加し、日本語教師として授業を行いました。日本語教育の知識がほとんど無い中での参加だったため、不安が多くありました。実際、思っていたよりも教案作りが難しく、夜中遅くまで教案の修正を繰り返す日々が続きました。そのため、正直初めのうちは知識もないのに安易な気持ちで参加を決めたことを後悔することもありました。しかし、知らないからできない、知らないからやらないではなく、わからないなりにどうすれば生徒が楽しんで日本語を身につけられるのか、どうしたら生徒に伝わりやすい授業ができるのかということを真摯に考え抜き、自分自身で答えを模索していきました。また、実習担当の先生もとても熱心に指導してくださり、３回分の教案・プリント・PPT を作成することができました。３回の教壇実習を通してもちろんうまくいかなこともありましたが、回数を踏むごとに生徒の反応が良くなったり、前回に失敗したことを克服することができたりと自身の成長を実感する場面も多くあり、実習を終えて達成感を感じることができました。

また、教育実習の間はホームステイもさせていただきましたが、ホストの学生も家族の方も本当に親切で素敵な思い出を作ることができました。初めてのホームステイで不安もありましたが、家族の一員のように歓迎してくださり、ホストの子ともとても仲良くなることができました。

長いかと思った 5 週間でしたが、終わってみればあっという間の研修でした。この 5 週間で出会った日本人学生や釜山外国語大学の学生、先生方、ホストファミリー、そして貴重な機会を与えて下さった皆様に感謝し、この研修で学んだことをこの先の人生に生かしていきたいと思います。

韓国での実習で学び得たもの

文教育学部　言語文化学科
３年　野村沙也香

私が今回、この研修を知る事となったきっかけは今年から履修し始めた副プログラムのおかげでした。初めは 2 週間の日本語教壇実習に惹かれ、しかしまだ日本語教育についての知識が全くなかったので参加することに戸惑いがあったのですが、教団実習と一緒に韓国語を勉強することが出来て、日本語を学習している韓国人学生のいる家庭にホームステイが出来ると聞き、参加の申し込みを決めました。韓国で過ごした 5 週間はとても長く感じ、有意義な夏休みを過ごすことが出来たと思い、私が過ごした韓国語語学研修と日本語教壇実習の２つについて述べたいと思います。

・韓国語語学研修

5 週間滞在し、お世話になった釜山外国語大学の校舎

5 週間中の 3 週間は、釜山外国語大学の日本人向けの夏期韓国語研修に参加していました。研修中は語学だけでなく、韓国の伝統文化体験としてチョゴリを着たり、昔の家屋に泊まったり、近代の韓国の文化として K-POP ダンスを踊り、テコンドーも授業の一環として体験しました。頭だけを使う研修ではなく、身をもって韓国という国に触れることが出来た貴重な体験を多くさせて頂きました。

研修に参加する前、私は韓国語に対する知識が全くなく大学の授業でも履修していなかったので、せめて出発する前までにはハングル語が書けて読めるようになろうと市販のワークで勉強していました。ハングルから始めたばかりの私は 1 番下の初級クラスからのスタートだったのですが、周りの日本人の学生たちも同じ境遇や今から勉強し始める人たちばかりで、授業のレベルも自分の身の丈に合っていて、1 日約 4 時間、ハングルの発音から始まり簡単な日常会話などを中心に学びました。街中やコンビニで、物の名前が読め、値段が聞き取ることが出来るようになるのがとても楽しく、特に店員と少し会話が出来た時はとても嬉しく、勉強したことが活かせてると実感することが出来ました。

また、研修中は学校の敷地内にある寮に滞在していたので、朝早い授業も通い

やすく、ルームメイトや同じフロアにいる他大学の生徒たちとも交流することが出来、韓国人の学生だけでなく様々な地方から参加している日本人の学生の友人が増え、思わぬところで交友関係を築くことが出来ました。

終了式での、担当の先生とステイ先の生徒と一緒に

・日本語教育実習

後の２週間では、自身の指導を担当してくださった先生の授業を主に見学し、教壇実習に向けて釜山外国語大学で日本語を教えている先生方の授業や他大学の生徒の実習風景を見学し、自身の行う授業の参考にさせて頂きました。日本語教育の副プログラムも今年から履修し始め、人前で誰かに物を教えるという事自体したことがなかったので、教案や配布するプリントの作り方がわからない状態からのスタートを切りました。1週間で先生方の授業を見学しながら自身の受け持つクラスの授業の準備を進め、残りの1週間で3回授業をしたのですが、私自身要領が悪く、パソコンではレポートしか作成したことがなかったので、見やすいパワーポイントや配布する資料の作成が夜中まで時間がかかることが毎日あり、その度担当の先生に泣きついては実習する30分前にすべてが作り終えるという事態に毎度陥っていました。しかし担当するクラスの生徒たちがとても温かく、個人面談をさせて頂いたことから、生徒たちが日本のどんなことに興味があって何が知りたいのか、どのくらい日本語を勉強していて話せるのかなど実習前に知ることが出来たので、教育実習よりも日韓交流に近い雰囲気で授業を行うことが出来たので、全く緊張せずにリラックスした状態で実習に挑むことが出来、自由に授業を作らせて頂きました。初めての教壇実習でしたが、各方面の先生方からも話し方・間の取り方が上手いとお褒めの言葉を頂き、自信に繋がりました。

この 5 週間で学び得たものを今後に活かし、また来年参加することが出来たなら、その時に向けて今度は生徒たちにしっかりと日本語を教えることが出来、韓国語でもコミュニケーションが取れるようにしっかり勉強したいと思います。

研修参加者からのアドバイス

１．出発前

- 韓国は日本と近いぶん文化も似ていると思いがちですが、国民性からごはんの時のマナーなど違いや沢山あります。事前に調べていくとカルチャーショックも少なくて済むと思います。また、英語はあまりつうじません（日本と同じくらい。）あいさつや買い物程度の会話は付けておいた方が安心です。

２．授業

- 初日にクラス分けテストがあります。筆記と会話を行いますが、クラス分けの仕方が結構適当でした。（会話テストは先生によってかなり評価基準があいまい）ただ、クラスの授業が思っていたより易しい or 難しいと感じた人はクラス移動をしていたので、早めに伝えると対応してもらえると思います。3 週間の語学研修のため毎日いろいろな行事がつまっていますが、毎日朝 9 時から授業です。眠くならないよう、毎日早めの就寝を心掛けたほうが良いです。授業は日本人学生だけなので、助け合って受けていたため、あまり困ることはありませんでした。先生方もとても親切です。

３．寮・ホームステイ

- ①　寮：ラウンジでは wi-fi が使えましたが、部屋で使えなかったのが一番つらかったです。PC を優先でつなぐかポケット wi-fi で対応している人が多いです。韓国はトイレがつまりやすいので注意してください。研修中も詰まってしまった部屋がたくさんありました。
- ②　ホームステイ：学校まで２時間かかるご家庭だったので大変でした。その点以外は何も問題ありませんでした。あまり緊張せず楽しむこと、最低限のマナーを守ることができていれば大丈夫だと思います。

４．　食事

- ①寮：食堂はおいしくありません。寮内のコンビニはすぐに閉まります。またあまり韓国のコンビニは食べ物が充実していないので、カップラーメンばかりにならないように気を付けてください。山の中の学校なので、学外にいくのも大変です。
- ②外食：値段は日本と変わらない　or　もう少し安いです。カフェが充実しています。学内には学食やフードコートがあります。学外は久端駅まで行くと色々なものがあります。

- ③ホームステイ：家ごとに異なりますが、外食が多かったです。日本よりもはっきり意見をいうことが好まれるので好き嫌いがある時は言った方が良いです。

５．　現地学生・地域住民との交流

- 日本語学科の学生がグループ単位で担当になってくれます。日本人が大好き！という人がほとんどで本当に親切にしてくれるので、何かあればすぐ相談すると良いです。ただ、ホスト側の学生たちもタイトなスケジュールで色々と準備してくれて大変そうでした。あまり負担をかけすぎないようにする方が良いと思います。

６．　経済面

- 韓国人学生が色々な所に連れてってくれるので、思った以上にお金がかかりました。地下鉄やタクシーは日本より安いです。また、市内で換金するとレートが良いので、はじめに空港等でかえるお金は少しだけにして、慣れてきたら市内でかえると良いと思います。韓国は少額でもカードを使用することが多いので、そもそもあまり現金はいらないと思います。地下鉄は交通カードを必ず買うべきです。空港のコンビニで買いましょう。

７．　その他

- 治安面ではそれほど心配することはありません。ただ、夜のタクシーは危険なので、あまり乗らない方がいいです。また、辛いものが苦手な方は、韓国人が言う「辛くない」は信用できないので注意しましょう。

タンペレ大学
派遣者数１名

UNIVERSITY OF TAMPERE

啓明大学校
派遣者数１名

계명대학교
KEIMYUNG UNIVERSITY

タンペレ大学の研修を通して

人間発達科学専攻
２年　姚瑶

私は、8 月 8 日から 8 月 19 日の二週間、タンペレ大学のサマースクールに参加してきました。フィンランドに行く理由は、教育大国と呼ばれるフィンランドの魅力に惹かれて、教育専攻の私にとって、人生一度訪ねていきたい国の存在でした。そして、新しい言語を学ぶ意欲があり、フィンランド語の研修をしたいと思い、参加しました。初めてのヨーロッパなので、出発前は、不安が止まらなくて、迷子になったらどうしよう、無事にダンペレ大学に辿り付けるのかなど、心配しましたが、実際に、思った以上、様々な人々から助けてもらい、すごく感動しました。今から振り返れば、ただ二週間という短い研修ですが、毎日濃密で、充実した日々を送ることができ、またいっぱい出会いを恵まれ、大変有意義な経験だと思います。

授業について

私は、フィンランド語コースと会話（英語）コースを選び、午前中は、英語の授業、午後は、フィンランド語というスケジュールで、大変忙しかったです。なぜなら、ほとんど毎日宿題があり、そして、二つの言語を同時に学ぶことも私にとって、大きな挑戦からです。

まず、フィンランド語コースはアジア、アフリカ、アメリカ、ヨーロッパから来た様々なバックグラウンドを持っている留学生と一緒に授業をやっていたが、みんなほぼ同じスタートラインからフィンランド語を学ぶことで、落ちこぼれの心配はなくなりました。しかし、フィンランド語はやはり英語とは大きな違いがあり、発音と文法は簡単ばかりか、複雑で覚えるのに苦労しました。呑み込みの遅い私にとって、授業内容に追いつけない時、焦りながらも、諦めずにフィンランド人の友達からいろいろ教えてもらいました。そのおかげで、最後の試験に合格しました。会話コースは、英語の授業で、主に職場で発生しやすい問題を中心に検討してきました。価値観、想像、判断、勘弁など課題を取り上げられ、グループディスカッションが多い一方で、クラス全体のワーカーターストもあり、両方をやる形で進んでいました。また、授業専用ブログが設置され、自分なりの感想を書かせたり、みんなと共有できました。試験はないですが、授業で取り上げられた課題をブログで完成しなければなりません。そのため、読み書き能力を鍛えられました。

生活について

滞在先は、寮ではなく、学校近くのホテルに泊まりました。ホテルといっても、寮とほとんど変わりません。4人部屋で、お風呂、キチン、トイレは共用でした。このホテルはサマースクールの学生が集まり、みんなと一緒にご飯を作ったり、大変賑やかでした。その周辺は、スーパーやアパート、駅があり、生活上には非常に便利でした。学校から歩いて5分、バスで登校する必要はありませんでした。余暇の時、サウナ、カヌー、飲み会などの活動があり、友達ができるチャンスがたくさんある一方、フィンランド文化も体験できました。フィンランドは、湖の国で、豊かな自然に恵まれ、日本の温泉ごとく、サウナは人々に愛されています。自然の中で、サウナと水泳は最高です。フィンランドに行ったら、ぜひサウナを勧めます。言語の問題ついては、現地の人々は、ほとんど英語ができるので、フィンランド語しゃべれなくても、交流ができます。英語の普及率に驚き、さすが教育大国だなあと感心しました。タンペレは治安がよく、犯罪率も低い町です。友好な人が多く、いつも声かけられます。そのおかげで、来る前の不安が一気に飛ばしました。
様々な人々との出会いが一番楽しく、一期一会を大切にして、人生の醍醐味を味わっています。（タンペレで一番大きい湖）

そのほか

週末の時、ルームメイトと一緒にサンタクロース村に訪ねて行きました。ワクワクしながら、北極圏内に入りました。一番印象に残っているのは、本物のサンタさんと握手して、会話できたことです。サンタさんの温もりを身近に感じさせ、つい胸がいっぱいになりました。まるで童話にいるような感じでした。北極圏は私にとってあんまりにも新鮮で、一生忘れられない体験です。そして、タンペレ市内にはたくさんのミューズームがあり、一番有名なのはムーミンのミューズームで、行くべき場所だと思います。（サンタクロース村）

まとめ

最後の学生時代の夏休みにもう悔いがないほど、タンペレに行ってよかったと思っています。一人でこの二週間の「冒険」を通して、内面的に強くなったこと、また、語学力を向上したと実感できます。今回の語学研修において、たくさんの人々から支えてくださって、感謝の気持ちでいっぱいです。それだけでなく、研修からもう一歩アテップアップし、今まで得られたパワーや感動を今後の生活や、学習に生かしたいと考えています。

啓明大学校での研修について

文教育学部　人文化学科
２年　藍原奈々絵

まず、啓明大学サマープログラムの内容から述べたいと思います。プログラムの内容は、大きく分けて、韓国語の授業と韓国文化体験の２つでした。韓国語の授業を午前中２時間半ほど受けたあと、午後からは２時間から３時間程度韓国文化体験をしました。韓国語の授業は、レベル別に分かれており、私は初級クラスで勉強していました。午後の韓国文化体験では、韓国の伝統衣装・礼節体験、伝統的な合奏であるサムルノリ、テコンドーなど古くからある文化だけではなく、Ｋ－ＰＯＰやノレバン（韓国のカラオケ）、チムジルバン（韓国のサウナ）、ゲームなど、現代的な文化の体験もしました。これらの文化体験は、ノレバンとチムジルバン以外すべて啓明大学のキャンパス内にある施設で行われました。しかし、大学内での文化体験だけではなく、学外での研修もありました。西門市場の夜店、ポスコ（製鉄所）や慶州の仏国寺、ＤＭＺなど、様々な場所をたずねました。中でもＤＭＺでは、一泊したり、北朝鮮が掘ったとされるトンネルの中に入ったりするなど、未知の体験をすることができました。

私はこのプログラムで初めて韓国語を勉強し、ハングル文字すら読めなかったので、初級クラスで一から勉強しました。最初は一文字一文字いったん考えてからではないと文字を読むことができず、隣の席の人と会話練習をするときや、先生に指名されて文章を読むときには、何度も詰まってしまったり、読めずに止まってしまったりと、挫折しそうになるときも多々ありました。しかし、授業の他、先生が出した宿題や、自主的な復習を積み重ねた結果、最終的には、文字を読み取るスピードも上がってすらすらと読めるようになり、動詞を活用したり、「〇〇はどこですか」「昨日は何をしましたか」などの簡単な表現や、「おいしい」「よい」「暑い」などの簡単な形容詞、および数字も使えるようになりました。しかし、日常会話を成立させたり、自分の考えを述べたりするにはまだまだ語彙・表現が足りません。現在は、大学で韓国語の授業を取ってはいませんが、自分で参考書を購入するなどして、勉強を続けていきたいと思います。

他にも困ったことは多々ありました。私は啓明大学での研修の前に、海外に行ったことは一度ありましたが、それは高校の修学旅行で、パスポートの申請以外、航空券や両替などは旅行会社によって手配され、また旅行中はよく知っている先生やクラスメイトと一緒で、何の心配もなく過ごすことができました。しかし、今回は、研修への申し込み・授業料振り込みから航空券の購入、両替、保険の加入、海外用携帯のレンタルまで、すべて自分でやる必要がありました。また、お茶の水女子大学から啓明大学の研修に参加するのは私一人だけで、先方からの情報が少なく、心細い思いをしました。例えば、事前研修は英語圏に短期留学する人を主に対象としていて、第三言語プログラム参加者に対する情報・説明が少なかったように感じます。また、啓明大学の寮には何があって、何を持って行かなければならないのか（例えばドライヤーは持参すべきか、など）は、こちらから問い合わせをしないと何も教えてもらえませんでした。他にも、派遣先に授業料を振り込んだあと、出発直前になって授業料が免除になるかもしれない、という連絡があり、非常に困惑しました。（結局全て振り込んだあとだったので、免除にはなりませんでした。）さらに、先に書いたとおり、韓国語が全く理解できなかったため、啓明大学に到着してからも、買い物や食事の時に困ることもありました。しかし、自分で何が必要か考えて準備や問い合わせをしたり、現地に行って自分ではどうしようもなくなったとき、思い切って助けを求めたりする経験は貴重であり、これからの人生において自信になるでしょう。

このように、苦労したことが多かったのですが、その分、大事なものが得られたと思います。

編集後記

2016 年度夏季短期研修では、参加された皆さんと様々な形で携わることができました。事前研修会などでは、皆さんの積極的に取り組まれる姿を見ることができて、とても良かったです。報告書の編集を通して、皆さんの短期研修がどのようなものかについてよく知ることができました。私は、各大学に行っているわけではありませんので、派遣先大学担当者とのやり取りの中で派遣先の様子をうかがっていますが、皆さんの報告書を読ませていただくと、より現地の様子を思い浮かべることができます。良い思い出もあれば、少しつらい思いをされた方もいるように感じます。しかし、どなたもそれらの経験をポジティブにとらえて、対処されているので、短期研修の目的でもある異文化理解や問題解決能力の向上につながっているように思います。また、問題が生じた場合には、現地の言葉を使って、周りに助けを求めながら、自分自身でも悩んで解決策見出す力が身に付いた学生さんも多くいると思います。そして、何よりも語学学習に対するモチベーションが向上し、帰国後頑張って語学学習を続けると書いてくださった方も多くいます。皆さんの報告書の多くに見られた感想に、「学問として英語を習うのではなく、純粋に意思疎通のために英語を覚えようとしたこと」とつづられていて、とても嬉しく思います。今回の短期研修は単に英語を学びに行くだけでなく、その言語を学ぶ意義を皆さんは実体験として知ったことに大きな意味があると思います。また、語学学習だけでなく、皆さんの物事をみる視野が広がったかと思います。これが今後の皆さんの進路において良い影響を与えることを願っております。

海外語学短期研修をお考えの方は、本プログラムに参加し、この報告書につづられていることを実際に体験して頂ければと思っています。グローバル教育センターは皆さんのサポートをこれからもして参ります。

アソシエイトフェロー　松田デレク

2016 年度夏季　海外短期研修報告書

発行日　　2017 年 3 月
発　行　　お茶の水女子大学　グローバル教育センター
　　〒112-8610　東京都文京区大塚 2-1-1
　　Tel. 03-5978-5913

研修・編集担当
　　グローバル教育センター
　　アソシエイトフェロー　松田デレク

印刷・製本　　よしみ工産株式会社